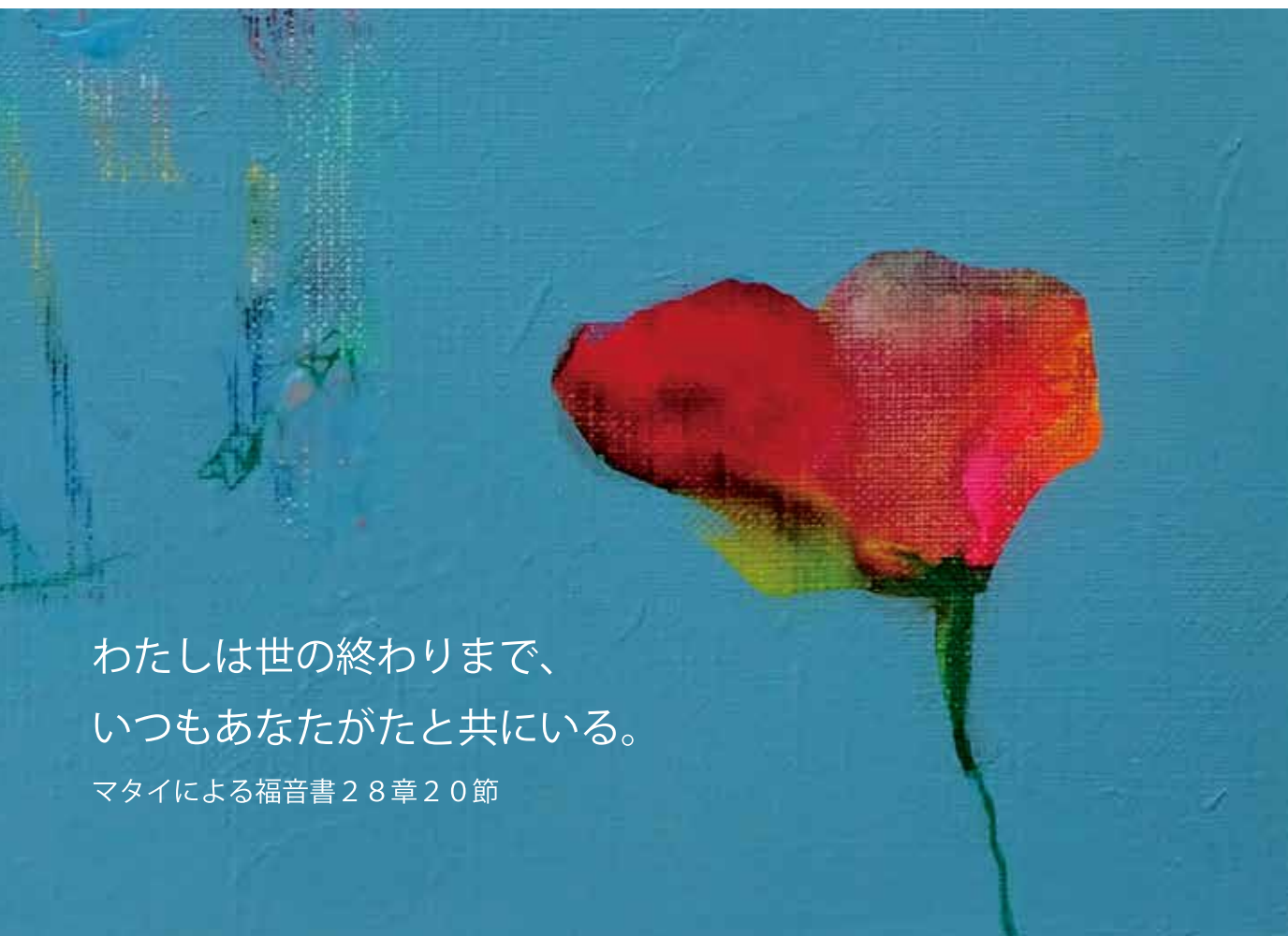


日本キリスト改革派教会 大会教育委員会

教会学校 教案誌



church school curriculum



わたしは世の終わりまで、
いつもあなたがたと共にいる。

マタイによる福音書 28章20節

vol. **65**

2017年4~6月

「子どもと親のカテキズム」
に基づく二年サイクル 第2年

- | | |
|----------------------------------|------|
| 教会・国家・平和・人権 | 木下裕也 |
| イスラエルの歴史と信仰 | 赤石純也 |
| 日本キリスト教会『日曜学校』誌について | 藤田英夫 |
| 【日曜学校・教会学校訪問】上福岡教会教会学校のご紹介 | 門脇献一 |

2017年4～6月カリキュラム（第65号）

—救済史に基づく一年サイクルカリキュラム—

月 日 教会暦・行事	主 題	聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句
		単 元 の 目 標	
4月2日 レント	創造主なる神	創世記1:1～5	創世記1:1
	天地の創造主である神は、ただお一人。創造主なる神をたたえて賛美しよう		
4月9日 受難週	十字架のキリスト	マタイ27:32～44	ヨハネ3:16
	わたしたちのために神に見捨てられて死なれた救い主キリストに感謝しよう		
4月16日 復活祭	復活のキリスト	マタイ28:1～10	マタイ5:12
	主イエスはよみがえられた。罪と死に勝利された主イエス・キリストを仰ごう		
4月23日	被造物の祝福	創世記1:6～25	テモテ4:4
	神の創造のみわざを学び、神の愛がこめられた被造世界であることを知ろう		
4月30日	神の栄光の舞台	創世記1:31～2:3	詩編19:2
	七日目の安息によって世界は祝福されている。神の栄光の舞台で喜び生きよう		
5月7日	人間の創造と人生の目的	創世記1:26～31	詩編8:5前半
	神は人を創造し、生きる目的を与えられた。神の御心に応えて歩もう		
5月14日	男と女の創造	創世記2:18～25	創世記2:18
	男と女に創造された。人は共に生きる存在である。互いに愛し合って生きよう		
5月21日	罪と堕落	創世記3:1～13	ローマ6:23
	罪とは何か。神の御言葉にそむき、自分が神になってしまう罪を知ろう		
5月28日	救いの約束（原福音）	創世記3:14～24	ローマ5:8
	神は人の罪を裁き、また、憐れむお方である。裁きと救いの神を知ろう		
6月4日 聖霊降臨祭	聖霊降臨と教会	ヨハネ20:19～23	創世記2:7
	人はキリストの聖霊（神の息）によって生かされる。聖霊によって歩もう		
6月11日	カインとアベル	創世記4:1～16	詩編46:2
	神から離れて、人は罪に支配されてしまう。罪の悲惨と神の憐れみを知ろう		
6月18日	ノアの箱舟	創世記6～7章	創世記6:9
	神は人の罪に心を痛めておられる。罪に心を痛み、人を憐れむ神を知ろう		
6月25日	ノアの契約	創世記8:1～9:17	創世記8:21
	神はノアを通して、あらためて人を祝福してくださった。神をはめたたえよう		

も く じ

2017年4・5・6月カリキュラム

まえがき	牧野 信成	4
巻頭説教	吉田 崇	6
日曜学校・教会学校訪問		
上福岡教会教会学校の紹介	門脇 献一	8
日本キリスト教会		
『日曜学校』誌について (1)	藤田 英夫	11
教会・国家・平和・人権		
—とくに若い人々のために (6)	木下 裕也	16
イスラエルの歴史と信仰 (3)	赤石 純也	19

聖書黙想・説教展開例・分級展開例

4月 2日	22
4月 9日	28
4月16日	34
4月23日	40
4月30日	46
5月 7日	52
5月14日	58
5月21日	64
5月28日	70
6月 4日	76
6月11日	82
6月18日	88
6月25日	94

2017年7・8・9月カリキュラム	100
2017年度年間カリキュラム	101
「子どもと親のカテキズム」案内	103
教案誌自由募金案内	104
執筆者よりひとこと・あとがき	105

昔、教会学校で学んだこと

牧野信成（西神教会）

新しく大会教育委員会に任命されて教案誌編集の業務を託されたところで、何か一筆書きなさいとのことです。教会学校のことを記してみようと思います。

契約の子として育てられた私には教会学校で育てていただいた半世紀に亘る御恩があります。CS教師として奉仕するようになったのは大学生の頃です。教師になるための体系的な教育というのは受けたことはありません。教会学校の教師会での学び会が大抵は保たれていましたけれども、基本的には門前の小僧よろしく見よう見まねで身につけたものです。およそそういうところが教師たちにはあるのだと思いますが、その個別の経験を反省して、他所の教会にも有益であろう経験値としてそれを共有するような機会がもっとあればこの頃考えます。もっとも、これは教会学校に関してばかりでなく、長老・執事の務めについてですとか、教会生活全般に亘って当てはまることだと思います。

私の母教会である江古田教会では重田道秋校長（現長老）の下で熱心な教会学校の取り組みがなされていました。ここで教師として奉仕した後に牧師になった兄弟の数も少なくありません。私が在籍していた当時は青年会が活発で、CSは青年会活動の一部といってよい状況でした。その頃の経験として今でも忘れられない二つの事があります。その一つは、当時の先輩教師であった小峯明兄（現大会議長）が、千里摂理教会の長島邦忠先生をお呼びして話を聞こうと提案しました。それで先生にわざわざ東京まで来ていただいて教会学校の働きを中心に伝道の仕方についてお話を伺いました。長島先生が常時百名を超える子どもたちを集めるのに成功

したのは、第一に、教会学校教師の専門化でした。もちろん無償の奉仕ですが、CS教師もきちんと任職式をして責任を持ってもらう、子どもたちの生年月日から家庭の事情まですべて把握して、休んだ時には担任教師が家庭訪問をする、などと事例を挙げながら、「塾や学校と競争なんだ」と語られました。後に、そのころ教師をしていた方々から、それは大変な重荷だったと聞きましたので、評価は一樣ではないでしょうが、私にとってはいつも思い返す一つの基準となりました。

二つ目は、私と丁度同年齢の方ですが、現在ハーピストとして活躍しておられる佐々木冬彦兄をやはりCS教師会にお呼びしてお話を伺ったことです。当時、松戸小金原教会では校長の岩崎長老が独自の教案を作成し、CSも大いに賑わっていたことが東部中会で知られていました。中でも、佐々木兄の担当するクラスは、常時40名程の子どもたちが集まっていたと聞きました。佐々木兄はすべての子どもたちの名前を覚え、誕生日には一人一人に歌を作ってプレゼントしたのだそうです。そうする内に、子どもが子どもを呼んで一杯になってしまった。どんな風に聖書のお話をするのか、と尋ねると、その場で実演すると言って、「おーい、君たち、舟の反対側に網を降ろしてごらんよ！」と会堂の後ろにまで届くような大声を出すものですから、私たちは皆たまげてしまいました。

この二つの話は当時の私にとってはどちらも衝撃的で、自分には真似できないと観念したものです。どちらの場合にも教会学校の明確な方針が打ち立てられていたように思いますが、そのお二人のカリスマは特別でした。しかし、今に至るまでそのお二人に共通する個々の子ども

たちに向き合う姿勢は私の指針になったように
思います。若い頃の私は教師を務める自分のこ
とで精一杯でした。けれども、子どもたちが求
めているのは真剣に自分と関わってくれる一人
の人間なのではないか。今では教会学校に通う

子どもは僅かです。もっと数を増やしたいと願
わないではありませんが、今与えられている子
どもたちの一人ひとりに愛情を注いで、その魂
の必要を満たすことに集中したいと思っています。

「神の子へと回復させるため」(ルカ3:21~36)

吉田 崇 (坂出飯山教会)

イエス様は30歳まではヨセフとマリアの家で過ごされていました。従って周りの人々はイエス様をヨセフの子と見ていました。そのイエス様は公の宣教活動に出て行かれるにあたり、洗礼をお受けになりました。ルカ福音書3章では、洗礼は罪を犯してきた人間が神様に立ち帰ること、悔い改めを表すものとして受けることとされています。そうすると、イエス様が洗礼を受けにヨルダン川にやってきた場面、その場に立ち会った人々は、「あのイエスという男も、私たちと同じように、洗礼を受けて今までの自分の生き方を悔い改めようとやってきたんだろうな」と思ったことでしょう。一人の平凡なユダヤ人がやってきたぐらいにしか認識しなかったと思われます。ところがどう見ても特別に見えなかったイエスという男が洗礼を受けた、そして祈った。すると不思議なことに天が開け、聖霊が鳩のように目で見える姿でイエス様の上に降ったのです。さらには天から声がしました。「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。」天からの声とは、天におられる父なる神様からの声ということです。天の父なる神様が、イエスさまを「わたしの愛する子」とお呼びになったのです。

このことによって、今までは取り立てて人々から注目されることもなかったであろうイエス様が周囲から注目されることになったのです。イエス様はそれまでの平凡な人という位置づけから、神様によって「神の子」と呼ばれた特別な人、という位置づけへと一変したのです。

ルカ福音書はこの出来事の直後に、イエス様の系図を記していきます。その始めには「イエスはヨセフの子とされていた」と書き出し、最後は「そして神に至る」と締めくくります。

こうすることで、イエス様は凡人ヨセフの子として認識されていたが、実は神の子でもあるというところを人々に印象づけようとしたと思われます。

イエス様の系図と言いますと、マタイ福音書の最初に登場する系図を思い起こされる方もあるかと思います。ただマタイが書いた系図とルカが書いた系図を比べて見ると、違う点も見えてきます。そこで、ルカの系図に特徴的なところをご紹介します、そこにルカが込めたメッセージをくみ取ってまいりたいと願います。

マタイの系図はアブラハムに始まり、その子、その子と時代を下っていきます。一方ルカの系図は、ヨセフからその父、その父と時代を遡っていきます。その遡りはアブラハムでストップしないで、さらに最初の人アダム、そして神様にまで遡ったのです。そのため、マタイでは全部で42人の名が記されるのに対し、ルカでは77人もの名前が記されることになりました。あと、ヨセフからダビデまでの間に出てくる人の名前は、マタイとルカでは違ってきます。マタイ福音書は、ダビデの後にソロモンなど、イスラエルで王となった系図をたどっていきますが、ルカ福音書3章31節では、ダビデの子どもはナタンとなっています。旧約聖書を見るとダビデの子どもとしてソロモンやアブサロムという名前は何度か登場し印象に残っているのですが、「ダビデの子どもにナタンなんていたっけ？」というのが偽らざるところかと思っています。私自身もこの説教の準備作業で必死に探して、ようやく見つけました。サムエル記下の5章14節にダビデの子どものリストがあって、そこに登場します。ルカによる福音書では、王座に

就くことができず、ダビデの家系の中でも比較的早く落ちぶれていく流れが取り上げられているのです。もっともマタイがたどった家系の方もバビロン捕囚によって王位から追われてしまい、だんだんと落ちぶれ、ヨセフの両親の代までにルカの流れと同じくらいの地位にまで成り下がっていました。

その一方で、ルカは系図の一番はじめは神様だと記します。これは旧約聖書の創世記に従ったことです。創世記によれば、神様がアダムを創造し、そこから人間が始まっています。この「神様によって創造された人間」ということは、この世に生を受けた人間全てにあてはまる、というのが聖書の立場です。アブラハムやダビデという特別な人の家系だけが神によって創造された人類というのではないのです。ここにいる私たち一人一人も、仮に家系図をどんどん遡っていったなら、アダムに至り、神様へと至る。従って、神様から始まること、神様によって創造されたことから来る尊さ、値高さがどんな人にもあるのです。ルカの系図がアブラハムでストップしないで神様にまで至らせていることの意図がそこにあるのではないのでしょうか。

併せて、神様から出てきたはずの人間が、罪に墮落してしまっただけから、一時的に社会の高

みに達することがあったとしても、長い目で見れば惨めに落ちぶれていく流れに置かれていることも示されます。そんな、どん底にまで落ちてしまう人間に神様がイエス・キリストを送って下さった、というメッセージが示されるのです。

系図からくみ取ったメッセージを踏まえながら、今一度イエス様の洗礼の場面に戻りたいと思います。先祖から見ればはるかに落ちぶれた庶民の家に生まれ、周囲の人々と何ら変わりないように見えていたイエス様でしたが、洗礼を受けるという形で神様のもとに立ち帰って生きる意志を示し、天の父なる神様に祈られました。すると、天の父なる神様が「あなたはわたしの愛する子」とのお声をかけてくださった。そして聖霊を送ってくださった。これによって、神様に端を発するものとしての値高く尊い人間へと引き上げ回復させてくださったことが示されたのです。

私たちもまたこの福音によって神の子へと回復させていただきました。私たちの周りの方々も、キリストを救い主と信じるなら、聖霊を注がれ、どんなどん底からでも神様の子どもとして回復させていただけるのです。

上福岡教会教会学校の紹介

教会学校「こひつじ科」校長 門脇献一

上福岡教会は、1962年に現在のふじみ野市にて伝道を開始し、子供たち対象の教会学校（私たちはこれを「こひつじ科」と称しています）を翌年の会堂建築を機にスタートし、現在に至っております。当時この町は、新興住宅地であり、大きな団地もでき、多くの未信の子供たちが日曜日に教会学校に来て部屋からあふれるばかりであったと聞いております。その後次第に未信の子供から教会員の子弟の比率が高くなり、今ではほぼ全員がそのような子供たちです。

2006年に教会堂を現在地に移転しました。その時に、教育的伝道による教会形成を中心的課題として掲げ、礼拝も試行的に行われていた複数礼拝を本格的に行うこととし、会堂も二つの礼拝が同時に行える大小の礼拝堂を持つものとなりました。現在、日曜日の朝礼拝時に子ども礼拝、中高生対象のジュニア礼拝などを実施しております。以前より礼拝前に行っていました「こひつじ科」の礼拝、分級も併せて子供たちへの教育的伝道がしっかりと行うことができる体制が整えられたと感じております。

感謝なことに、この体制のもと成長した子供たちが信仰告白をして、今度はスタッフとして奉仕を始めたり、家庭を形成しその子供たちが教会に通ってきているなど、継続的な取り組みが実を結びつつあります。なお、スタッフとして奉仕することを考えたり、また、既に奉仕をなしている者のためのCS教師養成講座もここ数年来行っております。

写真は、「こひつじ科」の一年間の行事を中心としたスナップです。これらの行事によっても教会の子供たちが育まれていきます。地域の子供たちにもこれらの行事などを用いてより働きかけていきたいと願っています。特に2000年以来土曜日の午後に行われている、絵本の読み聞かせを中心とした「こひつじ文庫」には地域からの参加者も継続的に与えられ、地域の方々を教会に招くためによく用いられているプログラムです。また、「子どもフェスティバル」にも地域から子供たちの参加がありました。このときには、東北のサクラハウスを覚えたチャリティもなされました。



イースター



イースターエッグ作り



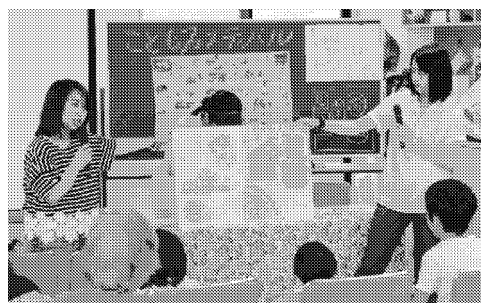
クリスマスケーキ作り



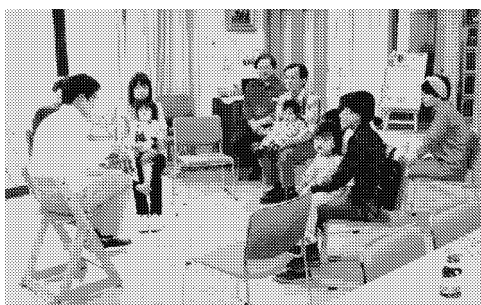
こどもクリスマス



こどもクリスマス



こどもフェスティバル



こひつじ文庫



ひかりの子の日
(教会全体で子供たちの成長を祝うプログラムです)



教会学校 夏季学校



収穫感謝祭

「こひつじ科」のプログラムは朝9時30分から開始しますが、ほぼ同時に大人向けの教会学校プログラムも実施しており、大人の学びと交わりの時間としても用いられています。その目的は以下の点にあります。

- 1、家族がそろって教会に来る
 - 2、大人も子供も教会学校に参加する
 - 3、未信の保護者も教会で時間を過ごせる
- まだ途上にあるかと思いますが、この目的を覚えつつ歩んでいます。

日本キリスト教会『日曜学校』誌について(1)

藤田英夫（大会教育委員 大阪姫松教会牧師）

「日曜学校教案の必要を痛感する。本大会は日曜学校委員若干名をあげ、教案作成ならびに日曜学校問題全般のことにあたらしめられたい。なおできるならば、家庭礼拝暦及び教会員心得の作成のことも託したい。右建議する。 近畿中会常置委員」

（一部動議による修正あり）

これが1951年、日本キリスト教会第1回大会に提出された日曜学校教案に関する建議案です。以来、日本キリスト教会は現在に至るまで、内容について考え、工夫を重ねながら『日曜学校』誌を作り続けてきました。今回、原稿を依頼されてその歴史を多少なりとも振り返ってみることで、『日曜学校』誌発行が続けられてきたことの背後には、この建議案が提出されたときの思いがずっと受け継がれているということがあるのだらうと感じました。建議案の冒頭に「日曜学校教案の必要を痛感する」とあります。それについての説明は特にはないのですが、戦後、大勢の子どもたちが教会に集まり、各教会の日曜学校の働きが活発に行われていたことを背景としているのではないかと考えられます。『日本キリスト教会50年史』（日本キリスト教会歴史編纂に委員会編著）に、「戦前・戦時下の日曜学校教育について、どのように回顧され、その時代的問題を乗り越えたかは明らかではないが、そうするいとまもないほどに、日曜学校に集う児童に教会は対応せざるを得なかったのが実情であった」と記されています。今わたしが奉仕している大阪姫松教会でも、戦後日曜学校に100名から160名の子どもが集まっていたことが記録に残されています。人数の多少はあるでしょうが、多くの教会で同じような状況が生

まれていたのだらうと思われます。その子どもたちを前にして、どうにかして信仰へ導きたい、そのためにはもはや教師各々の個人的努力だけでは間に合わないと思われたのではないのでしょうか。子どもたちに聖書を伝えていくために、教会として責任をもって作成された教案がぜひ必要だと考えられたのだと思います。何より、教会にとって「聖書を学ぶ、教える」という教育の働きはいつの時代のどんな状況にあっても大切なものです。そのようなことがあいまって、戦後、新たに歩みを始めた日本キリスト教会の創立のときから『日曜学校』誌作成という働きを始めることになりました。

上記建議案によって設けられた日曜学校委員は7名で、『日曜学校』誌の作成を主たる任務としました。実際の編集作業は近畿中会所属の5名の委員の中で行われたようです。最初の号が出たのは建議案可決の翌年、1952年4月でした。ここから長い『日曜学校』誌の歴史が始まります。創刊号は謄写版刷り B5版、22ページのものでした。前述の『日本キリスト教会50年史』にもありますが、創刊号の内容は以下の通りでした。

巻頭言「われここにたつ」 栗原久雄

小学科礼拝説教：石田正、樺山かね、竹内厚

中学校礼拝説教：木下順治、佐々木義雄、浅倉重雄、樋口春喜

分級教案：

幼稚科 野木源治郎（マタイ伝によるイエス伝）

小学科 今村正夫（創世記より出エジプト記に至る救済史の展開）

稲田春子（ルカ伝によるキリスト）

編集部（ペテロ）

中学科 八田良一（ヨハネ伝によるキリスト論）

渡辺信夫（ジュネーブ教会信仰問答）

竹本宗定（イザヤ書研究）

高等科 森好春（キリスト教通義）

本当は、戦前・戦中にどのような教案が編まれていたのかも調べてみたかったのですが、時間の都合上そこまでできませんでした。そのため、この内容が以前に比べてどのようなものだったのかまでは分かりません。しかし、創立大会時39教会、3伝道所の規模であった日本キリスト教会にとって、ここに名を連ねている教師の数は決して少ないものではないと思われます。創刊号のあとがきに「御覧のように貧弱なガリ版刷りの粗末なものです。が全教会の関心と応援と共同責任の自覚をいただきまして、日本基督教会の生みだした教案としての真面目さと責任性に満ちていることを喜ぶものであります」とあり、また翌5月号のあとがきにも『我々の教会の雑誌』『我らの教案』等と連帯の責任を負ってください、また忌憚なきご批判やご意見もいただき……よりよき建設へと向わしめられますことを感謝いたして居ります」とあることを見ても、『日曜学校』誌の出版ということが全教会あげての事業として取り組まれたことが分かるように思います。その思いがこの内容にも込められていると言えるように感じます。この『日曜学校』誌は、1969年4月に季刊になるまで月刊誌として発行されましたから、当時の編集作業は大変だったはず。実際、月末までに発行できず、翌月初めに遅れて教会に届くということもあったようです。新しく歩み始めた日本キリスト教会にとって『日曜学校』誌発行は決して小さくない事業だったと思います。その重さに耐えながら力を注ぎ続けてきたのでした。

1952年6月号および7月号に「この教案の取

り扱いについて」という文章が載せられています。それによると、教案は聖書教案と教理教案からなり、聖書教案では1つの書、たとえばマタイならマタイを1年間で全体にわたって教えるようにテキストを選び、教理教案では1年間でキリスト教教理を全般にわたって取り上げるように考えられました。また、説教も分級も小学科、中学科が設けられ、分級教案としてはそれぞれについて旧約、新約、教理という3種類の教案が作られています。聖書と教理という骨格、年代別の教案というかたちは、現在まで受け継がれている基本的な考え方ですし、聖書と教理をとると明記されていることは、日本キリスト教会はやはり始めから日本キリスト教会だったのだと感じさせるところでした。

その他、目を引くのは、教案の方針として「新約より旧約へ」と記されていることです。1953年に制定された日本キリスト教会信仰の告白の一節に「新旧約聖書は神の言葉にして」とあります。日本語として「新旧」というのが普通の表現だからそう言ったとも言われますが、後に「旧約は新約の光の中で読まれるべきもの」という説明が加えられることもありました。あるいはそのような意識が初めからあったのかもしれないと、この記述を見て思います。創刊の年の翌年、1953年4月第13号の中学科Ⅰ（詩篇）の執筆の方針に、「旧約の信仰はキリスト信仰にまで来たらなければ完結しないから、常に新約の光によって読むように心がけなければならない」とあることもそのことを示していると言えるでしょう。とはいえ、決して旧約を新約の下に見ていたということではなく、どちらを読むことにも同じように力を注いでいたことは、このあとの教案ですべて旧約が取り上げられ続けることからわかります。

そして、この教案のもう一つの特徴は「難しさ」です。前述の「この教案の取り扱いについて」という文章の中に、「日曜日の朝ちょっと読んですぐ使える教案ではありませんから、教師が

よく勉強して、しっかり自分の中に咀嚼してから用いてください。聖書教案は注解書をできれば、2、3冊手元に置いて予め聖書研究をしておいてください。……新教案に教義学的なものが多すぎるとの批評もありますが教父時代の日曜学校の最初の形態は教理学校であったのですし、SSの本来の意義は教理を教えることにあるのですから、この困難は克服して頂かなければならぬと思います」と記されています。創刊号が出されたあと近畿中会で日曜学校教師修養会があり、その中で委員会との協議が行われたという報告が6月号に載せられています。そこに「一様に言われていることは教案が難しくこのままでは生徒に理解させることが困難だと批判」が出たと記されています。これもずっと『日曜学校』誌について言われてきたことです。教案が一通り読んですぐそのまま仕えるようなものではないということは当然のことかもしれないけれど、ではそれをどのように子どもたちに伝えればよいのかというその工夫や知恵についても教示してもらいたいというのが現場で奉仕する教師たちの願いだったのだと思います。それについて、1953年第3回大会の委員会報告に、教課内容は分量を減らし、実地的活用のための手引きを多くしなければならぬと考え、実行している、とあります。その1つとして、第3回大会において選出された新委員によって行われた1954年1月の委員会において生徒テキストの出版が決められました。この点は、このあとも少しずつですが改善しようとする試みがなされていきます。ただ、総じて言うならば、「読んですぐそのまま使えるような」という意味においてはあまり親切的な教案ではないということは初めから変わらない特徴だと言えるかもしれません。

そして、2年間創刊号のスタイルが続いたあと、1954年4月号から編集担当も東京中会所属の教師たちに移り、A6版、活版印刷に移行します。この年の第4回大会で「日曜学校日の設

定および日曜学校事業に関する建議案」が可決され、5月第1主日を日曜学校日としてその日の礼拝献金を日曜学校事業のために献げること、各教会日曜学校クリスマス献金の一部を大会日曜学校委員会のために献げることが定められました。日曜学校日の献金は今も続いており、現在の教育委員会の働きを支える大きな柱となっています。ただ、この建議案にも表れている通り、『日曜学校』誌を発行し続けるということは経済的にも大変だったことは間違いなく、1955年の大会報告を見ると、収入の中に広告料の項目があります。この当時の『日曜学校』誌を見ると、いくつかの広告が載っていました。現在の『日曜学校』誌にはないのですが、この事業を続けるために様々な努力がなされたことがうかがえます。

このあと1956年に編集担当が近畿中会に移ったとき、その後1985年に大きく変わるまで続く内容が決められています。小学科、中学科の説教教案、旧約教案、新約教案、教理教案、幼稚科、教師養成講座がその内容です。旧約、新約教案の名称が小学科第1、第2教案となったりすることはありましたが、大きな変更はないまま、この形が長く続きました。また、翌年に編集担当が北海道中会に移ったあと、1959年からは、日本キリスト教協議会（NCC）作成によるカリキュラムが用いられ始めます。キリスト、聖書、教会の3つの主題からなる3年1サイクルのカリキュラムです。これについて、1961年9月号のあとがきに、「現在の教案は現在の日本でどうしても伝えられなければならないものを中心にしています。(1)神はキリストにより啓示されているからキリストのことを、次に(2)キリストは聖書により証しされているから聖書のことを、更にまた(3)唯一の神を信じキリストに生きる人間が形成されるためにはどうしても教会生活が実践されなければならないから、教会のことを学ぶ必要があります。こうして3年1サイクルの教案ができていますので

す」とあります。大会のたびに、カリキュラム作成を検討するようという要望が出ていたようでしたが、独自にカリキュラムをもうけるための検討をするには、委員の数が足りなかったのではないかと思います。毎月の編集作業だけでもほぼ手一杯だったのではないのでしょうか。そんなことからNCCによるものが用いられることになったのでしょう。しかし、その後もカリキュラムについての要望や検討は続くことになります。

そんな中、1つの変化が起こります。それは『日曜学校』誌の発行が出版局の事業の1つに加えられたということです。それは1967年第17回大会の決議によるものでした。このとき、出版局の中に日曜学校誌担当委員を設けることが決められ、その担当者として2名がたてられています。このことも、先述のカリキュラムの検討を難しくした要因となったかもしれません。

そして北海道中会が10年ほど編集を担当したあと、1969年4月からの年度の『日曜学校』誌は近畿中会の担当に移るのですが、このとき、『日曜学校』誌はB5版で年4回発行の季刊誌になりました。この形が現在まで続いています。そして、1974年、「大会教育委員会設置に関する建議案」が提出され、可決されます。1度出版局の中の事業となった『日曜学校』誌の発行ですが、日曜学校生徒の減少、特に中高生の減少、教師難といった諸課題に直面しながら明確な方針も持てないままに危機感が高まったのだと思います。実際、ただ単に決められた本を出すというだけであれば出版局の1事業でもいいのかもしれませんが、教育という業に携わることを考えると、この体制ではあまりに貧弱だったと言えるように思います。改めて教育委員会が設けられたのは必要なことだったと言えるのではないのでしょうか。ちなみに、この前年、1973年に永井春子著『青少年のためのキリスト教理』が出版されています。

これは1970年度の『日曜学校』誌に教理教案として掲載されたものをもとにしてまとめられたものです。この本は、出版された当時から多く購入され、1975、76年の大会記録によると、それぞれの年に2,000部再版されています。今もこの本は多くの教会で用いられ続けており、2016年に12版が1,000部増刷されました。

その後、カリキュラムについての検討が続けられていきますが、1978～1980年度は、1年半ずつで旧約と新約を一通り学ぶというカリキュラムがたてられます。その最後の号になる1981年冬季号にはこう記されています。「カリキュラムについては今までの日本基督教協議会(NCC)のものの生活に密着したいいわゆる生活主義より聖書主義に大変転じ、聖書を組織的に教育する立場をとってきた。説教教案は一般に慣れている聖句が長らく愛用されていたが、最近では月々の主題を教会暦と現代の社会とを視野に入れて構成し、かつまた、テキストも聖書全般より新しいものも加味して選択するようにして参りました」これを見ると、長く続いてきた内容、構成について検討し直さなければならないときが来ていると感じられていたことが分かります。そして1985年度の『日曜学校』誌において、根本的に見直され、新しい方向性が指示されます。1985年冬季号に載せられた次年度カリキュラムについての説明を見ると、全体の目標を「聖書を、イエス・キリストによる新しい契約を中心とする神の救いの歴史としてとらえ、その展開(重要な救いの出来事)を教え、各々の発達段階にある子どもたちに、神の救いの御業を理解させると共に、更に信じ従うことへと導きを与えることにあります。中学科では信仰告白また受洗に向かう準備の学びが進められます」と定め、そのために、幼稚科は2年1サイクルで、小学科と中学科は3年1サイクルでカリキュラムが組まれます。そして説教は、聖書、教理、教会暦という3つの主題で1サイクルとされました。これにより、旧約教案、新

約教案は、小学科下級、小学科上級に変わりました。旧約、新約教案だったときは、対象となる子どもの年齢は考慮されず、おおよそ小学3、4年の子どもを対象とするつもりで執筆されていたのだろーと思われまゐす。しかし、それでは分級教案としては用いにくく、小学科でも幼稚科教案が使われることも多かつたようです。そういった現状を考へ、分級用には学年別に教案が作成されるようになったのでした。これ以後の『日曜学校』誌は、基本的にはこの方向で作成されていきます。また、1988年度には小学科上級と中学科用に、1989年には小学科下級用に生徒用教科書が久しぶりに作られます。さらに1994年には幼稚科で手作業をするためのワークブック『わくわくワーク』も作成されま

す。しかし、教科書作成は1996年に1度廃止され、1998年度にもう一度作成されますが、続いていません。また、この他に、1997年度には日曜学校ハンドブックが作られました。出席帳、聖書地図、パウロの伝道地図、聖書年表、主の祈り、使徒信条、十戒、子どもの祈りのサンプル、日本キリスト教会の所在地図などからなるものでした。

そして2006年度から1つの取り組みが始まります。それは教案の定本化です。ずっと以前から要望のあつたことですが、なかなか取りかゐることができずにいたのですが、この年から数年をかけて取り組まれました。それ以降については次回、改めてまどめたいと思います。

教会・国家・平和・人権

—とくに若い人々のために (6)—

木下裕也 (名古屋教会牧師)

日本国憲法 (2)

日本国憲法の三大原理の第二は、基本的人権の保障です。基本的人権とは、すべての人が生まれながらに持っている生命、自由、財産についての権利です。これはどのような権力も侵すことをゆるされない、とうとい権利です。基本的人権を守ることをのために政治はあるのです。また政治がそのようなものであるように、主権者である国民はたえず努力すべきことを求められています。

基本的人権は以下の五つに分けられます。

自由権：人々の生活を政治権力の介入や干渉から守り、さまざまな活動が自由にできるように求める権利です。思想・信条の自由、信教の自由、集会・結社・表現の自由、学問の自由、職業を選ぶ自由、財産を持つことの自由、居住の自由等です。

社会権：「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」^{注1}と明記されています。

人間らしい生活をいとなむことは健康な人や経済的に豊かな人だけでなく、すべての人が持つべき権利です。病気や経済的苦しさの中にある人々にも日々の生活を安心していとなむこと、教育を受けること、働くこと等の権利が保障されるべきです。そのための配慮や援助をなす義務が国にはあります。国民はそれを国に求めることができます。

受益権：国民がおのおのの権利を守ることにために、国に積極的な働きかけを求める権利です。権利や利益を侵害された場合に裁判をもとめる権利、損害賠償をもとめる権利、請願^{注2}を行う権利等があります。

参政権：政治に参加する権利です。国民主権の憲法のもとでは、当然求められるべき権利です。20歳以上のすべての人に選挙権があります。

平等権：「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地^{もんち}^{注3}により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」^{注4}と定められています。人の命と存在はみな平等であり、尊厳をもち、それゆえ差別されてはならないのです。現実には、この社会には人種、性別、身分、心身の障がいといった事柄にともなう差別があります。この悲しい現実とたたかい、すべての人がどうとばれ、守られ、平等に生かされる社会を築いていかなければなりません。

注1 25条1項。

注2 政治のありかたについて国民が希望を申し出ること。

注3 生まれつき持っている地位。貴族、平民といったもの。家柄。

注4 14条1項。

日本国憲法 (3)

日本国憲法の三大原理の第二は、平和主義です。このことは9条の条文に示されています。

「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」(1項)

「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、

これを認めない」(2項)

1項が定めるのは戦争の放棄です。戦争とは武力による国同士の争いですが、1項は国際法における正式の戦争^{注1}だけでなく、武力行使^{注2}や武力による威嚇^{注3}をも禁じています。つまり、あらゆる戦争を放棄するということです。しかも「永久に」放棄するのです。

「国際紛争を解決する手段としては」武力を放棄すると言われます。つまり国同士の争いごとをおさめるために剣を用いるのではなく、言葉を用いて、対話を積み重ねながら合意をつくりだしていく道を選ぶということです。言葉への信頼がなければできないことです。

2項が定めるのは戦力の不保持です。1項であらゆる戦争を放棄すると言っている以上、当然戦力も軍隊も必要ないわけです。

実は9条は、憲法の前文にうたわれていることと切り離すことのできない関係にあります。

「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う」

大切なのは、日本国憲法が歴史を背負いながら生まれてきたものだということです。9条の平和主義は「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように」(前文)との決意のもとにかかげられているのです。

9条には魂がこもっているという言葉が聞かれます。9条には、二度と悲惨な戦争をくりかえしてはならないとの多くの人々の切なる願いがこめられているのです。

注1 宣戦布告等の手続きを踏んだ戦争。

注2 宣戦布告等を行われていないものの、事実上戦争状態にある段階。

注3 相手をおどすこと。

日本国憲法 (4)

憲法9条について、いくらか補足をしておかねばなりません。すでに見たように9条はあらゆる戦争を放棄し、それゆえにあらゆる戦力をもたないことを定めています。それは自分の国を守るための権利、すなわち自衛権をも放棄するということです。日本国憲法がつくられた当時の政府は、そのような解釈にたっていました。ときの首相も、かりに正当防衛による戦争であったとしても有害である、なぜなら多くの戦争は自衛、正当防衛を口実にして起こされているからだと言っていたのです。

しかし、9条がそのように解釈されていたのはほんの短い期間でした。戦後アメリカと(当時の)ソビエト連邦との対立が深まり、冷戦^{注1}の時代になると、両国を中心に軍備の拡張に拍車がかかります。アメリカは戦後しばらく日本を占領していましたが、そうした動向の中で日本をアジアにおける戦略拠点とするため、日本の再軍備をうながすことになります。

そうなる、どうしても9条の平和主義はじゃまになってきます。以後9条の条文は変えないまま、その解釈のしかたを変えていくことで軍備を増強するという手だてがとられるようになります。いわゆる「解釈改憲」の歴史です。

敗戦から5年後、警察予備隊が発足します。今の自衛隊です。翌年、サンフランシスコ講和条約^{注2}が結ばれ、日本はアメリカの占領を解かれて独立を回復しますが、同時に日米安全保障条約^{注3}が結ばれました。日本の独立後もアメリカの軍隊が日本に駐留することを認めたものです。9条のゆえに戦力をもたない日本を、アメリカ軍がかわりに守るという構図であったわけですが、以後日本はアメリカの起こす戦争にふ

りまわされることになっていきます。日本に置かれた基地からアメリカ軍の戦闘機が、戦地に飛び立っていくこととなるのです。

安保体制のもと、日本は世界有数の軍事費を計上する国となりました。戦争に対処するための法律の整備がすすめられ、国際貢献の名のもとに自衛隊が海外の戦地に派遣されるまでになりました。9条については、その後個別的自衛権、つまり自分の国を守ることにについてはこの条文でも認められるとの理解がなされ、歴代の政府はこの立場に立ってきました。

けれどもいつしか集団的自衛権、すなわちたとえ日本が攻撃されていなくても同盟国が攻撃されたなら日本もその戦争にくわわるということごとまでも認める方向になびいていきます。結果、9条の条文とのへだたりが大きくなっていきます（9条をどう読んでも、集団的自衛権が認められるようには読めないのです）。同盟国がいつも正しい戦争をするとはかぎりませ

ん。いな、正しい戦争などひとつもありません。戦争に勝ち負けはあるにせよ、いずれの国も戦争をしたことそのものの責任を負わなければなりません。

日本が戦争に加担するなら、必ず敵をつくり、血が流されます。憎しみと報復の連鎖にまきこまれます。日本は9条のもと、戦後70年にわたって一度も戦争をせず、ひとりの人も武力によって殺すことがありませんでした。9条は世界とアジアの平和に大きく貢献してきました。そのことを心に刻んでおりたいのです。

注1 戦争は起こっていないものの、戦争を思わせるような国同士の厳しい対立、争いの関係。とくに第二次大戦後のアメリカとソビエトとの関係を言います。

注2 日本と連合国との間に結ばれた戦争終了、平和回復の条約。1951年締結、52年発効。

注3 1951年締結、60年改定。

イスラエルの歴史と信仰 (3)

赤石純也 (伊丹教会牧師)

3. 律法授与は二度ある

キリスト予告と切っても切り離せない、出エジプトの出来事の歴史的なポイントは二つあります。まずは、やがてキリストによってもたらされる救いそのものの原型がこの出エジプト、奴隸の家からの解放ということです。救いそのものの原型といってよいこの出エジプトの出来事を、イスラエルは祭りの中でも最も重要な「過越祭」として祝い続けました。そのさいの意味付けは、過去を祝うだけでなく、やがて真の救いをもたらすであろうキリストを「待つ」という、未来に目を向ける祭りだという意味付けです。紀元前1400年以来キリスト出現に至るまで、キリストを待つ祭りが過越祭だったからこそ、キリストご自身、過越祭に狙いを定めて十字架と復活を成し遂げられたのです。それは私たちが悩み苦しみの奴隸であるような生き方から解放されるということが真実に起こる、来るべき救いの本体を指し示す出来事として、出エジプトの出来事が記憶され続けたという歴史を踏まえたものだったのです。

もう一つ、この出エジプト記の中で大切なことは、何と言っても、シナイ山での律法授与です。律法授与について大事なことは、律法は2度与えられるということです。出エジプト記20章で与えられた十戒の石版を、モーセは32章で金の子牛の事件を目の当たりにして、地面に叩きつけて割ってしまいます。そのあと34章でもう一度、新しい石の板に神の律法が刻まれるわけですが、これが後々、古い律法のあとには新しい律法が与えられるという、独特の期待を形成することになります。その期待を、はやくも申命記が色付け始めます。そもそも「申=命」記という書名自体、「2度目の(申)」「律

法(命)」という意味ですが、その名の通り申命記は出エジプト記にすでに出ている十戒を「2度目に」書くのです。あたかも、2度目に与えられた十戒がこれだと言わんばかりです。当然のことながら十戒自体は同じもののなのですが、その同じ十戒を申命記がどのように色付けしているか見てみましょう。

まず出エジプト記によれば、1回目の十戒全体の目的は「あなたたちを試すためであり、またあなたたちの前に神を畏れる畏れをおいて、罪を犯させないようにするため」(出エジプト記20:20)とされています。それに対して2回目十戒が与えられる目的を申命記は「そうすれば、あなたたちは命と幸いを得、あなたたちが得る土地に長く生きることができる」(申命記5:33)からだと言うのです。2回目の神の言葉の目的は「わたしたちの命と幸い」のため、ないしは「永遠の命」のためだということ。これが、イスラエルがやがて与えられるべき新しい律法・新約を待ち望むさいの色付けになりました。

さらに具体的に第4戒の安息日律法の違いを見てみましょう。1回目では安息日を守らなければならないのは「神が七日目に休まれたから」(出エジプト記20:11)という、有無をいわさぬ理由しかありませんでしたが、2回目では「そうすれば、あなたの男女の奴隸もあなたと同じように休むことができる」(申命記5:14)からだという愛と思いやりの動機になっています。そしてもう一つ、「あなたもかつてエジプトの国で奴隸であったが、あなたの神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない。そのために、あなたの神、主は安息日を守るよう命じられたの

である」(申命記5:15)というふうに、救いを「思い起こすため」だという目的が言われています。救われたことの感謝と喜びを思い起こすことと、ひとを愛し、思いやること、この2つが新しい安息日の目的になったのです。だからキリストはことさらに安息日に愛と思いやりの業をしてみせて、従来の有無をいわさぬ「ねばならない」だけの安息日との違いを浮き彫りにされたのですね。

それだけでなくキリストは、公生涯を始めるさいサタンの誘惑を退けたときに一貫して申命記を引用されています。申命記8:3から「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きると書いてある」、申命記6:16から「あなたの神である主を試してはならないとも書いてある」、申命記6:13から「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよと書いてある」と引用することによって、まるで肉となった申命記であるかのように登場されたのです。つまり「あなたたちを試すため」の古い律法ではなく、「命と幸いのため」の新しい律法をもたらす方として登場されました。そして有無を言わさぬ古い安息日ではなく、救われたことの感謝と喜びを思い起こすことと、ひとを愛し、思いやることを目的とする新しい安息日をもたらされたのですね。

もし私たちが依然として「ねばならない」によって生きているなら、それは「命と幸い」のために与えられた2回目の律法であるキリストを生きていることになりません。まずは私たち自身が神の言葉を真実に2回目に取り受け直して、「命と幸い」へと生き返ることが必要でしょ

う。

1回目の律法が碎かれたあとに2回目の律法が来る、そのことの雛形を提供したのが、紀元前1400年ごろのシナイ山体験を描いた出エジプト記という書物なのです。

さらにこの、神の言葉は2度与えられるということ、1回目は「試すため」で2回目は「命と幸いのため」だということは、神の言葉というものをもう少し広く、私たちに対する神の扱いというふうに考えても、これはそのまま当てはまるようです。

ヨブは「憐れんでくれ、神の手がわたしに触れたのだ」(19:21)と叫びましたが、「神の手が触れた」とは神に撃たれた試練のことです。そしてまさにそのときに「わたしを贖う方がついに塵の上に立たれるであろう」(19:25)という謎のようなことを言ったのですね。このヨブの発言に対して、最後に神が「ヨブは正しく語った」(42:8)と承認するというのがヨブ記のストーリーですが、これを受けてやがて本当に「贖う方」が地の上に立たれたとき、重い皮膚病の人を「憐れんで、その人に触れた」(マルコ1:41)と聖書は告げるのです。旧約から新約に大きな虹がかかるように神の真実が弧を描いて浮かび上がって、私たちに対する2度の神の扱いというものが示されるのですね。1回目に神の手が触れた、神に撃たれる試練を味わった人に、2回目に神の手が触れる。そのときには神の癒しの手が触れる。1回目は厳しい試練として、2回目は命と幸いとして、私たちは2度、神の手に触れられる。どうやらこれが、常に変わらない神のなさり方のようなのです。

聖書默想・説教展開例・分級展開例

1. はじめに

キリスト教信仰は、イエス・キリストへの信仰を通しての救いを私たちに約束しています。人間は自分の力で救われるのではなく、私たちの罪のために十字架にかかり復活なされた御子イエス・キリストの故に救われるのです。それが福音の約束です。

実は、そのような福音の約束の前提となることがあります。それが創世記1章1節の御言葉が教えていること、すなわち「初めに、神は天地を創造された」という出来事です。「創造する」(バーラー)という言葉は、真の神による創造行為を表す特別な言葉です。また、「天地」はこの世界全体、宇宙全体を表しています。つまり、聖書が教える真の神は救済者であると同時に、天地万物の創造者であるということです。

2. 創造主である神の存在

神が天地万物の創造主であるということは、創造主である神だけが永遠から存在しておられる唯一の方であり、この世界、宇宙のすべての物は神の被造物であるということです(詩編8:4、104:24、エレミヤ10:12)。神はすべての物をご自分の言葉によって、無から創造なさったのです(詩編33:6、ヘブライ11:3)。このような考えを「キリスト教有神論」と言います。単に神がいると信じるのが「有神論」ではありません。

例えば、日本の神道では人間も死んだら神とされ、神社に祭られることがあります。また、「山の神」、「海の神」という信仰に表されているように、自然も神格化され、宗教的信仰の対象とされます。このような宗教観のことを「汎神論」と言います。そこではこの世界と神が混同され、神と世界の区別が曖昧になります。

もう一方で、天地万物を創造なさった神を否定し、この世界や万物は神と無関係に自然に存在しているという宗教観があります。それを「無神論」と言います。しかし、神の天地創造を否定すると、この世界は全く偶然に存在するようになったとい

うことになり、この世界の存在意味そのものが失われてしまいます。また、結果的に、神無きの世界そのものが神のようになってしまいます。

聖書は「汎神論」も「無神論」も両方とも正しくないと教えています。この世界は被造物であり決して神ではありませんが、同時に神の創造と無関係に自分の力で存在しているのでもありません。神の無からの創造こそが、天地万物の存在の根拠です。したがって、神が天地万物を無から創造してくださったというキリスト教有神論こそ、私たちキリスト者の宗教的前提となる世界観です。

3. 神が創造主であることの意義

神が天地万物を無から創造なさった創造主であるということは、私たちの信仰に二つの点で大きな意義を与えます。

第一は、神の救いの目的は単に私たちの心を罪から救うことだけではなく、この世界全体の回復であるという点です。神が天地万物の創造主である以上、救いは造られた物すべてに及びます。そうである以上、私たちの救いは単に自分の救いということに留まりません。つまり、人間の救いはこの世界全体の救いと深く結びついているということです。パウロがローマ8章19～22節で語っているように、すべての被造物もまた、神の子たちの現れるのを待ち望んでいるのです。私たちは創造主なる神を信じる時、自分の救いの意味と目的を正しく知ることができるのです(創世記1:28)。

第二には、神が天地万物の創造者であるからこそ、私たちはどんな時にも救いを確信できるという点です。神が創造主であるということは、この世界の中には神の物でない領域はどこにもないということです。だからこそ神はご自分の創造なさった人間とこの世界を完全に救うことができるのです。私たちは創造主なる神を信じる時、自分と世界の完全な救いを確信することができるのです。

神は創造主であるからこそ、造られた物がすべて神をたたえ、賛美することを望んでおられるのです(詩編96:1、103:22、145:10)。(弓矢健児)

テキスト 創世記 1章1～5節
カテキズム 子どもカテキズム 問11, 12

〔単元のねらい〕

いよいよ、救済史カリキュラムが始まります。今号、所収の「救済史カリキュラムのために」をぜひ、熟読してください。今朝は、聖書の1ページ、その第一声を共に聴き、学びます。創世記の著者は、自分たちが信じ崇め従っている神とは、天地を創造された力ある神、すべての「はじめ」、あらゆる存在の原因、いのちの根源でいらっしゃるのだと高らかに宣言します。本年は、創世記を軸に、カリキュラムを整えました。それは、ウェストミンスター信仰告白の「聖定」の教理と深く共鳴しています。永遠の愛の計画をもって、私たちに命を与え、お救いくださる神を信じ、誇りとし喜びとして生きる人の幸いを語り、讃美と礼拝をささげましょう。

「神さまがいなければ、世界はない」

今朝から、子どもの教会は新しくなります。これまででは説教や分級で、「子どもカテキズム」を一つひとつ取り上げて学んできました。ですから、聖書を開くのは、順序がバラバラでした。でも、今朝からは、順番に聖書を開いて行くこととなります。旧約聖書から始まって新約聖書へと読み進めて行きます。聖書を通して語られる神さまのみ声を、楽しみに聴いていきましょう。

聖書は66巻で一つの本になっています。この66冊は、順序だてて並べてありますね。聖書は、確かに、どこから読んでもかまいません。マタイによる福音書からでもいいわけです。でも、やっぱりいつか並んである順序に従って読むと、一番、神さまが僕たち私たちに伝えようとしていることが、すっきりとわかるようになると先生は思います。旧約聖書をずーっと読んで、いよいよ新約聖書のマタイによる福音書を開くと、感動しますよ。それは、神さまがご自分のことを紹介してくださる方法は、いきなり神さまの全部をどーんと教えてくださるのではなくて、私たちに合わせて、一步一步、繰り返して繰り返して、丁寧に、よくわかるようにしてくださるのです。

今朝から二年間、そのようにコツコツと皆と一しょに聖書を学んで、イエスさまを礼拝し、神さまのことを知って行きたいと思います。先生

も、とても楽しみです。

さて、今、聖書の最初のページを開いて、神さまのみことばを聴きました。今日の暗唱聖句ですから、もう一度、読みましょう「初めに、神は天地を創造された」。

いきなりすごい言葉です。天地とは、天と地、つまり世界ということです。宇宙と言ってもよいです。僕たち私たち、すべての生き物が生きている場所は、神さまによって造られたのです。場所のことを空間と言ったりします。宇宙空間という言葉もあります。どこまでも果てしなく広がる宇宙、ある学者の先生は、今も広がり続けているとか言います。その宇宙は神さまの作品。そして、それは、いつ始まったのか、誰も分かりません。でも、その始まりは、神さま、始められたのは神さまです。つまり、時間も神さまが造られたわけですね。空間も時間も、僕たち私たちのように生きとし生けるもの、生きている物がここに生きていられるために、絶対に必要なありとあらゆるものは、神さまによって造られたのです。すべての始まり、それは、神さまというわけです。それは、つまり、すべて在るもの、命が有るものをずーっとずっとさかのぼって行くことができるとすれば、神さまにたどりつくということです。

先生がここにいる。皆さんがそこにいる。それは、神さまがいらっしゃるからです。神さまが、深い愛のご計画をもって、僕たち私たちを生まれさせ、ここに置かれている……。もしも、神さまがいらっしゃらなければ、僕たち私たちも、天と地も、いっさいがっさい何にもないということです。神さまがすべてのすべて、中心の中心……なのです。皆さんにお話ししながら、先生は、感動します。

たとえば、地球や宇宙のお話をちょっとしてみます。神さまのおかげで、太陽は地球にとってちょうどよい位置に置かれているわけです。そして、太陽のまわりを、ちょうどよいように傾きながら、地球はぐるぐる回っているわけですね。そして、地球の上で生きているすべての生き物のために、一日一回転。ほんのちょっとでも、太陽に近づきすぎても、離れすぎても、傾きが傾きすぎても、生き物は生きられないのだそうですよ。もう、地球がいま、こうしてあることを知れば知るほど、それはもう奇跡！ としかおもえなくなるそうです。先生は、天体の専門家ではありませんが、ちょっとだけ教えてもらっても、なるほど奇跡だと思います。そして、ああ、やっぱり！ と思うのです。つまり、聖書に書いてある通りだなと思うのです。神さまが、お造りくださったのだから、完璧、狂いもなく、間違いもなく、スゴイことになっているのです。

ようするに、神さまは、一番偉いお方ってことです。だったら、この宇宙や地球に住んでいる僕たち私たちが、この神さまのことを無視したら、そんなに愚かで、悪いことはないと思いませんか。

明治時代のとても優れた教育者に新島襄という人がいました。同志社大学をつくった人として有名です。この先生は、まだ鎖国をしていたときに、

アメリカで勉強したいと思って船に乗りました。その船の上で、「初めに、神は天地を創造された」という聖書の言葉を読んで、神さまを信じる決心をしたそうです。新島先生は、船に揺られながら、きっと怖かったと思うのです。江戸時代のことで、アメリカに行くことは法律を破ることで、死刑になるかもしれません。なによりも、まだキリスト教を信じる人は殺されてしまうような法律があった時代です。もう、日本に戻れないかもしれないのです。でも、聖書を読んで、この天地を造られた神さまがいらっしゃると分かった時、信じられたとき、ものすごい勇気がわいたのだと思います。神さまが共にいてくだされば、こわいものはない。心配しないで、一生懸命、勉強しよう。神さまがなんとかしてくださるさ。こんな思いで、アメリカに渡ったのだと思います。

この新島先生がアメリカの大学で学んだのは、科学でした。先ほど、太陽と地球のお話をしました。天地を造られた神さまがいらっしゃるから、地球は完璧にすばらしい環境にあるわけです。きっと、新島先生は、神さまを信じたからこそ、もう迷信なんて信じない、占いなんてやらないし、たよらない。科学の勉強が楽しくなったのではないかと思います。神さまを信じたからこそ、そんな考え方ができるようになったのだと思います。

皆さんは今、この御言葉に感動していますか。先生は、この神さまがいらっしゃることがどんなにすばらしいかと思います。安心して生きていけるからです。つらいことにも悲しいことにも負けないで生きていけるのは、この神さまが共にいらっしゃるからです。そして、この神さまだから、イエスさまをお墓の中から復活させることもできるわけです。(相馬伸郎)

[今週の暗唱聖句] 創世記 1章1節

初めに、神は天地を創造された。

ねらい：神様が天と地のすべてのもののつくり主と知る。

視覚教材：暗闇の絵、光の絵

【お話の前に】

こども達にアクションをしてもらいながらする。

みんなしっかりと目を閉じてみて!! 夜のよう
に暗いね。

では目を開けてよく見て!! とても明るいね
窓の外の空を見てみてごらん!! 天（空）が
遠くに見えるね

周りを見て、地面をみて!! 私たちが座って
いるところが地ですね。

【お話】

昔々 ずっと昔、この世のはじめには、神様
だけがおられました。神様はいつもそこにおられ
ました。

周りには何も無い、でもすでに神様はそこにお
られました。

初めに人間はいませんでした。でも神様がおら
れました。

初めに木／車／教会／犬（子供たちにとって身
近なものを言いながら）はいませんでした。ただ
神様だけがおられました。

（聖書を見せながら）聖書にも初めがありまし
た。（創世記1:1）を開けて、聖書の一番最初のお
話は創世記といいます。みんな一緒に創世記と
言ってみましょう。創世記は「初めに」という意

味です。そこには何が書いてあると思う？（子供
たちの答えを聞いて）、こう書いています。初め
に天と地と創造された。空のある天と土のある地
を作られました。

地には何にもありませんでした。そこは真っ暗
で、深い水ですべての物がおおわれて、何も生き
ることはできませんでした。そして神様はいわれ
ました。光あれ。そして光ができました。

神さまは光を見て、よくできたと言われました。
神様は光と暗闇（まったく何も見えない世界）に
分けられました。そして光を昼と呼び、闇を夜と
呼ばれました。

夕方になり、朝になりました。そして第一日目
が終わりました。

【工作】

4/23、4/30の3回に分けて天地創造の絵本を作
成する。

A4の用紙に1から7の数字をコピーする。A4横
で二文字ずつ。



1と4は（黒画用紙又は白の紙に）黒字でコピー、
その他の数字は白抜きでコピーする。1から7の
字の周りをハサミで切り取る。切る作業が難しい
場合は、親もしくは教師が援助。1の上側に光と
なる黄色や白色の紙を貼ってもらう。今回は1だ
けを仕上げる。

幼稚科の工夫① ～視覚教材～

幼稚科のこども達の理解を助けるために視覚教材はとても大切です。紙芝居や絵を描くのも良いですが、パワーポイントは簡単にインターネットから画像を入れられ、編集も保存も容易です。プロジェクターだけでなく、テレビにもつなげられ、とても便利。画像はインターネットで、画像の名前、イラストと入れて検索するとスムーズです。

創世記1:1～5をよみましょう。

1. 天地がつくられるまえに、だれがいましたか？

2. 天地がつくられるまえは、なにかありましたか？

3. だいい日になにながつくられましたか？

4. どんなほうほうで、つくられましたか？

5. かみさまは、光とやみをなんとよばれましたか？

6. 光は、わたしたちにとってどんなものですか？

創世記1:1～5を読みましょう。

1. 天地創造の前に存在したのは誰ですか？

2. 天地創造の前は、どんな状態でしたか？

3. 初めに創造されたものは何でしたか？

4. どのような方法で、つくられましたか？

5. なぜ、光と闇が分けられたと思いますか？

6. 私たちにとって、光と闇はそれぞれどのようなものですか？

〈背景と文脈〉

ゲツセマネの園で祈り勝利された主は、父なる神の御心を成就するために、ご自身を自発的に罪人たちの手にゆだねられた。逮捕、最高法院での裁判を経た後、ローマの総督ピラトによる死刑判決がくだされた。総督の兵士たちはイエスを鞭打ち、茨の冠を頭にかぶせ、つばを吐きかけ、頭をたたき、侮辱したのち、十字架につけるため引いて行った。

〈十字架につけられる〉(27:32～38)

十字架刑を受ける者は、自分がはりつけにされる十字架の横木を刑場まで運んでいくのが習わしだったようである(縦木はすでに刑場に建てられていた)。夜を徹しての裁判で疲労困憊し、鞭打ちで体に傷を負われていた主は、それを運ぶ力がなかった、と思われる。兵士たちは、ちょうど通りかかったシモンという名のキレネ人に、主の十字架を無理に担がせた。

されこうべの場所という意味のゴルゴタは十字架刑が公開で執行される場所だった。兵士たちは、「苦いものを混ぜたぶどう酒」(34)を主に飲ませようとしたが、主はなめただけで飲もうとされなかった。苦いものを混ぜたぶどう酒は、十字架刑を受ける者の痛みの感覚を麻痺させ、軽減するものだったが、主はそれを望まれなかった。

十字架刑の場面を描写するにあたって、著者マタイはキリストの苦しみに焦点を置かず、兵士たちの行動に焦点を置いた。ちなみに「十字架につける」(35)という語は分詞で、主動詞は「その服を分け合い」(35)である。くじを引き、服を分け合った兵士たちの無意識の行動によって詩編22:19の預言が成就した。

頭上に掲げられた罪状書きには「これはユダヤ人の王イエスである」と書かれていた(37)。当時ユダヤはローマ帝国の支配下に置かれていたため、そう主張することは政治的な反逆罪に相当し

た。しかしユダヤ人にとってこの称号は、ダビデの子であるメシアを指すものであった。だから、その罪状書きを見て、ユダヤ人の祭司長たちはピラトに、「この男は『ユダヤ人の王』と自称したと書いてください」とわざわざ頼んだのである(ヨハネ19:21)。この罪状書きは、主イエスが神から遣わされたメシアであることを、いみじくも示していたのである。主の右と左に二人の強盗が十字架につけられた。これによって、「罪人のひとり数えられた」(イザヤ53:12)という受難のしもべの預言が成就した。

〈侮辱される〉(27:39～44)

この箇所には、十字架上の主に投げかけられた通行人の罵りの言葉(40)、祭司長たち、律法学者たち、長老たちの罵りの言葉(42～43)が記されている。左右の強盗までも同様に罵った、とある。

彼らの言葉の背後にあるのは、神の子でありメシアなら、当然十字架から降りて自分を救えるはずだ、という考えである。「他人は救ったのに」という表現は、主が病人をいやし、死人をよみがえらされたことを指している。自分を救えない者など、神の子、メシアであるはずはなかった。主は逮捕される時、「わたしが父にお願いできないとも思うのか。お願いすれば、父は十二軍団以上の天使を今すぐ送ってくださるであろう。しかしそれでは、必ずこうなると書かれている聖書の言葉がどうして実現されよう」(26:53～54)と言われた。主は、ご自分を救うことが出来たのに、そうならなかった。十字架を回避する誘惑を受けられていたことは、ゲツセマネの祈りから明らかである。祈りによって勝利された主は、神の贖いのご計画を成就するために、十字架から降りようとはされなかった。そのようにご自分を救わないで、他を救う道を開かれた方こそ、私たちのまことの救い主である。(後藤公子)

〔単元のねらい〕

受難週を迎えました。今回の聖書箇所は、受難のクライマックス、神様に見離される箇所は入っていませんが、ここに受難の本質がありますから、きちんと語っておきたいと思います。そして、イエス様の受難を「かわいそう」なことではなく、自分の救いにつながる厳粛な事実として伝えたいと願っています。

今回の聖書箇所は、イエス様がののしられながらも、その気になりさえすれば十字架から降りることもできたのに、私たちを救うというそのことだけのために、あえて十字架にとどまられたことが書かれています。先週のゲツセマネの祈りの箇所と共に、イエス様がご自分の意志で、私たちを救おうという神様の御心に従おうとされていることを喜びたいと思います。そして最後は、来週のイースターの喜びを予告して終わしましょう。

「十字架から降りてこないイエスさま」

ゲツセマネで捕まえられたイエス様は、裁判を受けて、十字架にかけられることになりました。イエス様は何一つ悪いことはしていないのに、死刑になることになったのです。十字架の刑というのは、死刑になる人を釘で十字架に打ち付けて、そのままだんだん弱って死んでしまうまで放っておくという死刑の方法でした。ですから、死んでしまうまでの時間、その人は長い間苦しまなければならなかったのです。

イエス様の苦しみは、それだけではありませんでした。イエス様はこの十字架の上で、神様に「お前なんか知らない！」と見離されなければならなかったのです。それは、私たちのためでした。本当は、神様に見離されるのは、神様の言うことを聞くように造られたのに、神様について行くよりも自分が神様みたいになって好きなようにしたいという「罪」があって、そのままでは天国の神様のところに行けない私たちだったのです。けれども、イエス様が私たちの代わりに、十字架の上で神様に見離されてくださって、私たちは「罪」がないことにしてもらえて、天国に行くことができるのです。私たちが天国に行くために、イエス様は苦しい十字架の上で、神様に見離されてくだ

さったのです。

そんなふうに、十字架の上で苦しんでいるイエス様に、まわりで見ていた人たちは言いました。「救い主だというのなら、自分を救ってみろ。苦しい十字架から降りて来てみろ」。イエス様と一緒に十字架に付けられていた強盗たちも、いっしょになってイエス様に悪口を言いました。みんな、イエス様のことを口先だけで何もできない奴だと思って、ばかにしていたのです。けれども、イエス様は何もお答えになりません。十字架にかけられてしまうと、イエス様も何もできないのでしょうか？ 私たちの救い主は、そんなに力のない方なののでしょうか？

そんなことはありません。イエス様は、何でもできる神様です。イエス様がその気になれば、天から大勢の御使いがやってきて、周りにいる人たちをけちらして、イエス様はまるで何事もなかったかのように十字架から降りることもできたのです。でも、イエス様はそうなさいませんでした。ご自分のお考えで、苦しい十字架から降りずに、神様から見離されることをお選びになったのです。

それは何のためだったのでしょうか。それは、さっ

きもお話ししました。私を、あなたを、天国に連れて行くためです。私たちが神様に見離されることがないように、神様の言うことを聞かなかったことなど何一つないイエス様が、私たちの身代わりになって神様に見離されるためです。イエス様のことを知らない人たちは、いろんな悪口を言います。でも、何を言われても、どんなに苦しい目にあっても、イエス様はただ私たちを天国に連れて行くために、十字架の上で痛いつらい目にあい、みんなにバカにされ、神様に見離されたのです。

そして、イエス様は、自分を十字架にかけたうえに悪口を言っている人たち、ファリサイ人や律法学者たちや強盗たちのためにも十字架から降りずにいたのです。みんなも良く名前を知っているパウロさんは、最初はイエス様の教えに反対するファリサイ人でした。でも、イエス様はパウロさんが救われるために十字架から降りませんでした。また、イエス様の隣で十字架にかけられていた強盗の一人は、最初はイエス様を馬鹿にしていたかもしれませんが、やがて十字架の上でイエス様が本当に神の子であることを信じました。イエス様は、この強盗が天国に入るために十字架から降りませんでした。イエス様は、こんな人たちのためにも、十字架の上で神様に見離されてくださったのです。

私たちは、そんなにも大きなイエス様の「私たち一人ひとりを大切に思う気持ち＝愛」に包まれ

ています。そして、イエス様が私たちを愛してくださるのは、それが神様のお考え（＝御心）だからです。ヨハネによる福音書の3章16節に、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」という御言葉があります。神様はご自分のたった一人の子、イエス様をお見捨てになるほどに、世（＝私たちのこと）を大切に思っておられるのです。愛しておられるのです。そして、イエス様を信じる私たちが、一人も欠けずに天国で神様といつまでも一緒にいることを願っておられるのです。なんでもできる神様がそうお考えなのですから、イエス様を信じる私たちが天国に入ることは確かなことなのです。

そのために、イエス様は、それはつらい苦しいことだったのですが、ご自分から進んで、十字架から降りずに、神様に見離される道をお選びになったのです。

そして、イエス様は、神様に見離されて、それで終わりではありませんでした。私たちは来週の日曜日、素晴らしい知らせを聞きます。それは、十字架の上で私たちの代わりに神様に見離されて死んでくださったイエス様が、生き返られた・よみがえられたという知らせです。そこで、私たちにどんな素晴らしい知らせが待っているのか、みなさん、楽しみにしててください。（伊藤治郎）

〔今週の暗唱聖句〕 ヨハネによる福音書 3章16節

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。

独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。



ねらい：イエス様が私のために十字架にかかられたことを知る。

視覚教材：正方形の箱、赤い画用紙の十字架、赤・黒・白のハート、リボン

【お話前の準備】

- ①正方形の箱の中にハートの画用紙を入れる
- ②箱を赤い画用紙の十字架で包む
- ③リボンをくくる

【お話】

みんなプレゼントをもらったことはあるかな？（プレゼントの箱を見せながら）プレゼントはどんな人からもらうかな？ お母さん？ お父さん？ 友達からかな？ みんなの事を大切に思っている人がプレゼントをしてくれますね。神様もみんなの事が大好きなので、あるプレゼントをくれました。このプレゼントのリボンを外してもらえますか？（箱は置いておいて、まず包み紙の赤の十字架を見せて）、これは何かな？ よく教会でみますね。ペンダントにしている人も見ます。十字架は大昔には悪い人がはりつけにされて殺されるための道具でした。でもなぜその十字架を大切にみんな持っているのでしょうか？

イエス様の事はみんな知ってるかな。どんなひとかな？（子ども達の言う事を聞く）とっても優しくてたくさんの人を助けられました。神様のひとり子、一度も悪いことをされませんでした。それなのにイエス様は十字架にかけられてとても苦しみました。十字架が赤いのは血の色です。

ちょっとケガしただけでも痛いですよ。イエス様は苦しくて痛くて、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか？」と言われるほどでした。苦しみながらイエス様はついに亡くなりました。

なぜイエス様は苦しみながら亡くなられたのでしょうか。何でもできる方なのになぜその場所から逃げ出されなかったのでしょうか？ その答えはこの箱の中にあります。（赤いハートの紙を出して）それはみんなの事を大好きだからです。（黒いハートを出して）私達1人ひとりにはうそをついたり、人をいじめたりする悪い心があります。本当ならば私たちが十字架にかかって死ななければいけないのに、身代わりにイエス様が十字架にかかり、私たちの真っ黒な心を真っ白にしてくださいました。（白いハートを出して）この十字架にかかられたイエス様が、神様からの一番のプレゼントです。

【工作】

- ①プラ版を十字架の形に切り、上の方にパンチで穴を開ける。
- ②子どもたちに油性のマジックで色を塗ってもらう。
- ③大人がそれを預かり、オーブンレンジ（500w）で20秒から30秒ほど、くしゃくしゃにしたアルミホイルの上で小さくなるまで焼く。
- ④本の間にプラ版を挟み平らにする。紐やリボンを通し出来上がり。（プラ版や油性ペンは100円ショップで購入できます）

マタイ27:32～38をよみましょう。

1. なぜ、へいしたちはイエスさまのじゅうじかをべつの人にかつがせたのですか？
2. イエスさまはにがいものをまぜたぶどうしゅ（いたみをやわらげるためのもの）をのみましたか？
それはなぜですか？
3. なぜ、じゅうじかに「ユダヤ人の王」とかかげたのですか？

マタイ27:39～44をよみましょう。

4. とおりかかった人はなんと言いましたか？ さいしちょうたちはどうですか？
5. イエスさまは、ののしる人たちになにか言いかえしましたか？
6. イエスさまは自分をすくうことがおできになりましたか？
7. じゅうじかのイエスさまのすがたを、どう思いますか？

マタイ27:32～38を読みましょう。

1. なぜ兵士たちはイエス様の十字架をシモンに担がせたのですか？
2. イエス様は苦いものを混ぜたぶどう酒を飲まれましたか？ それはなぜだと思いますか？
3. イエス様に対する兵士たちの態度はどうでしたか？
4. 「ユダヤ人の王」という罪状書きを掲げた意図は何でしたか？

マタイ27:39～44を読みましょう。

5. 通りかかった人、祭司長たちがイエスさまに投げかけた言葉はどのようなものでしたか？
6. それに対して、イエス様は何か反応されましたか？
7. イエス様は、十字架の苦しみから自分を救うことができましたか？
8. このイエス様の姿を、あなたはどのように思いますか？

テキスト マタイによる福音書 28章1～10節

〈背景と文脈〉

主イエスの復活は十字架の死とともに、聖書の最も中心的な使信である。復活は、主イエスの贖いのみわがが父なる神に完全なものとして受け入れられ、完成したことを示す。パウロが「キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、罪のなかにあることになります」（コリント一15:17）と言っているゆえである。

マタイ福音書は他の福音書と同様に、主イエスがいつ、またどのように復活されたかについては記していない。墓が空であったこと、よみがえられた主が数人の女たちに顕現されたことを通して復活の事実を証している。

マタイは特に、祭司長たちとファリサイ派の人々がピラトに願いで番兵たちに墓を守らせたこと（27:62～66）を記している。彼らは、主イエスの死体が弟子たちによって盗みだされないように、とできる限りの対策をとった。

〈天使の顕現と使信〉（28:1～7）

「週の初めの日の明け方」に「マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った」（1）。ちなみに並行記事（マルコ16:1、ルカ24:1）を見ると、彼女たちの目的は主の御体に香料を塗るためであったことがわかる。もう一人のマリアはヤコブとヨセフの母マリアであり（27:56）、ヨハナ（ルカ24:10）、そのほか名を記されていない他の婦人たち（ルカ24:10）も一緒だったことがわかる。福音書の記事の間に矛盾があるのではなく、誰に焦点をあてているかによって異なっている。ちなみに、ヨハネ福音書はマグダラのマリアの名だけを記している。

2節の「すると」と訳されている語は「見よ!」という意味であり、読者の注意を喚起している。大きな地震が起こり、天使が天から降って来て、墓の入り口にあった大きな石（27:60、66）を転がした。これは、婦人たちが墓の中に入り、空に

なっているのを確認するためであった。「座った」（2）は直訳すれば「座っていた」（原語では未完了過去が使われている）という意であり、これは婦人たちが墓に到着する前に起こった出来事と考えるのが自然である。

天使の顕現に接し、番兵たちは恐怖のあまり全身が麻痺し動けなくなった。彼らはピラトの命によって、主の遺体が弟子たちによって盗みだされないために番をしていた（27:65）。人間的な安全対策（封印された大きな石、番兵たち）は、神の御力の前には何の意味もなかった。

天使は婦人たちに、主イエスの復活とガリラヤで主と会えることを弟子たちに伝えるよう命じた。墓に行った彼女たちの目的は主の御体に香料を塗るためであったことから、主の復活をまったく予測していなかったことがわかる。婦人たちにとって復活のニュースはまさに喜びの訪れ（福音）であった。彼女たちは、恐れながらも大いに喜び、その使信を弟子たちに少しでも早く告げようと走って行った。

〈復活の主の顕現〉（28:8～10）

9節の「すると」も「見よ!」という意味である。まだ墓から遠くない所で、主イエスは婦人たちにご自身を現わされた。「おはよう」（9）は直訳すれば「喜びなさい」という挨拶の言葉である。婦人たちは主の前にひれ伏し礼拝した。主は、弟子たちへの伝言を婦人たちに託された（10）。主はその伝言のなかで「わたしの兄弟たち」と弟子たちを指して言われている。主が十字架にかかれたとき、ヨハネ以外の弟子は逃げた。しかしそうした彼らを赦され、弟子たちを「わたしの兄弟たち」と呼ばれたのである。マタイは、主が約束通りガリラヤで弟子たちにご自身を現わされ、そのような弱い弟子たちに、出て行ってすべての民をわたしの弟子にしなさい、という大宣教命令を与えられたことを記している（28:16～20）。

（後藤公子）

テキスト マタイによる福音書 28章1～10節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問24

〔単元のねらい〕

よみがえった主イエスの第一声は「カイレテ（おはよう、ごきげんよう）」という、日常的な挨拶の言葉だった。それはかつて「喜びなさい（カイレテ）」と仰せになった、懐かしい説教を想起させる言葉でもあった。これを聞いて主のご復活を信じたマグダラのマリア。重病を癒されて献身的な奉仕者へ、十字架の死と埋葬の目撃者から復活の証言者へと導かれた彼女を物語ることによって、キリストが罪と死に勝利された意味を、身近な喜びとして伝えたい。

「おはよう」

「おはよう」……その声に目を覚ます。鳥たちのさえずりが耳に届く。両手と両足をぐーっと伸ばして、布団の上に起き上がり、起こしてくれた人に、「お・は・よ・う」。こんな平和な朝がどんなに幸せなことか、思いもしないで立ち上がる。そそくさと身支度し、御飯もそこそこに出かけてゆく。気がつけばお祈りしていない。そんな毎日を送っていないでしょうか。

もしもある朝、起こしてくれるはずの人がいないとしたら。もしもある朝、目を開けても光を感じない、耳を澄ましても音を感じないとしたら。もしもある朝、手足がこわばって動かない、舌がからまって口も利けないとしたら。起き上がることも立ち上がることも、身支度することも御飯を食べることもできないとしたら。今朝は、そんな体験をした人のお話です。

イエスさまがイスラエルの町や村を巡って旅をしておられた頃のこと。ガリラヤの湖の西のほとりに、マグダラという大きな町がありました。湖の魚をとる漁師たち、水揚げされた魚をせりにかける仲買人たち、仕入れた魚を塩漬けにする職人たち、買いつけて売りさばく商人たち。町は活気に満ちていました。この町にマリアという女の人がいたのです。自分もいつか商人になって、大きな商いをしてみたい。それとも職人になって、大きな工場をきりもりしたい。いつか結婚して、家族と一緒に暮らしたい。そんな夢を描く女性だっ

たでしょう。ところが、その夢を打ち砕く出来事が、彼女の身に起こりました。見えていた目が見えない、聞こえていた耳も聞こえない。器用だった手が動かない、軽やかだった足も動かない。舌がもつれて声も出ない、水も喉を通らない。医者に診てもらっても治らない。すると心ない人たちは呟きます。「マリアは七つの悪霊にとりつかれている」と。しかし、優しい人たちは、言葉と癒しに力のあるイエスさまの所へマリアを連れて行くのです。

折しも、大勢の人々が集まっていました。そこでマリアは、イエスさまに手を置いてもらったのです。するとどうでしょう。七つの悪霊が彼女から出て行ったのです。目に光が射し、イエスさまの顔が見えて来たのです。耳に音が届き、イエスさまの声が聞こえて来たのです。「貧しい人は幸い、天の国はその人のものだ。悲しむ人は幸い、その人は慰められる。飢え渴く人は幸い、その人は満たされる。迫害される人は幸い、天の国はその人のもの。カイレテ！ 喜びなさい！ 大いに喜びなさい！ 天には大きな報いがある」。するとどうでしょう。手足のこわばりが去って、彼女は起き上がり、立ち上がったのです。舌のもつれが解けて、語り始め、食べ始めたのです。暗闇と沈黙の中で祈っていたマリアを、イエスさまは知っておられ、地上に訪れた天の国へ招き入れてくださったのです。

その日から、マグダラのマリアは、元通りの女の
人になったというよりも、全く新しい人に生まれ
変わりました。死んでも同然だった私を生きる
ことができるようにしてくださった御方、イエス
さまを、私の人生の主としよう。これからは、イ
エスさまのために生きてゆこう。そう心に決めた
のでした。十二人のお弟子と共に、イエスさまに
従い、町や村を巡る旅人になりました。元々、工
場をきりもりしたい、大きな商いをしたい、そん
な夢を描くような才覚のある女性でしたから、イ
エスさまとお弟子の毎日の必要を賄うため、大い
に知恵を働かせ、献身的にお仕えたのでした。

彼女の毎日は、喜びに満ち溢れていました。一
つの心配事を除いて。イエスさまの言葉と癒しは、
神さまの御言葉と御業そのものでした。それが余
りにも素晴らしいので、イスラエルの偉い人たち
がイエスさまを殺そうと狙っている。それを知っ
たのです。しかもイエスさまのお言葉、「人の子
は必ず多くの苦しみを受け、長老・祭司長・律法
学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活す
る」、そう聞いたからです。

彼女の心配は、現実になってしまいました。過
越祭の金曜日、薄暗い明け方、イエスさまは逮捕
されてしまいます。総督ピラトの裁判で、罪のない
御方が、罪深い人々の手に引き渡されてしまっ
たのです。散々痛めつけられ、十字架を担がされ
て、ゴルゴタの丘で釘付けにされたのが朝の九時。
まるで夜のような闇に包まれたのが昼の十二時。
そして息を引き取られたのが午後の三時でした。
安息日の始まる日没まえ、遺体は布を巻かれた
だけで岩穴の墓に葬られ、すぐに大きな石の蓋が
閉められたのです。

長い長い一日、なすすべもないマグダラのマリ
アは、ただイエスさまを遠くから見守るしかあり
ませんでした。人生の主と心に決めてお仕えて
きた方が、目の前で殺され、葬られた。そのあま
りにも惨い現実を、どうしてすぐに受け留めるこ
とができたでしょう。金曜の夜から土曜の夜まで、
重苦しい安息日を過ごす中で、彼女は悶々と考え

ます。最後に何かして差し上げることはないもの
か。せめて、ご遺体の傷口を洗って、香油を塗る
ことはできないものか。日曜の朝が明けるや否や、
彼女は香油を持って墓へ走ります。するとどうで
しょう。墓穴を塞いでいた大きな石が取り除けて
あるではありませんか。恐る恐る中を覗いてみる
と、なんと！ イエスさまのご遺体がない！ 誰
かが運び去ったに違いない！ 自分にできる最後
の奉仕さえ叶わない！ 彼女は途方に暮れ、泣き
崩れました。

するとそこに、白い衣を着た誰かが現れて、声
をかけます。「恐れるな。あなたの捜している御
方は、この墓にはおられない。復活なさったのだ。
さあ、急いで、弟子たちに伝えるのだ」。彼女は
思い出します。「人の子は殺され、三日目に復活
する」。そう仰せになったイエスさまの御言葉が、
彼女の心に響き渡ります。するとどうでしょう。
悲しみの涙が、喜びの涙に変わったのです。彼女
は立ち上がり、走り出しました。その行く手に今
度は、見覚えのある方がまるで迎えてくださるよ
うに立っておられる。そして、こちらに声をかけ
てくださるではありませんか。「カイレテ！ お
はよう！ 喜びなさい！」。その声はまさしく、
あの方の声でした。ガリラヤの町や村を旅した毎
日、エルサレムへと向かった毎朝、いつも聞いて
いたイエスさまの声でした。復活なさった主の足
を抱きしめ、御前にひれ伏したマリアに、イエス
さまは仰せになります。「恐れることはない。兄
弟たちに、ガリラヤへ行くように伝えなさい。そ
こで会おう」。

マグダラのマリアは再び、喜びに満たされまし
た。主は生きておられる！ 主の御用のためにお
仕えすることができる！ この喜びを彼女から奪
い去ることは、誰にもできません。死さえ、この
喜びを消し去ることはできないのです。主イエス
は、死を突き抜けて生きておられるからです。そ
して、この方にお仕えするマリアは、その命をい
ただいたのです。 (二宮 創)

〔今週の暗唱聖句〕 マタイによる福音書 5章12節

喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。

あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。

ねらい：イエス様がよみがえられ、今も生きておられることを知る。

視覚教材：イエス様の復活の紙芝居や power point など

【エッグハンティング】

CS ルームにイースターエッグ（お菓子をつめて）を隠して、子どもたちにさがしてもらいましょう。（イースターエッグやイースターエッグチョコ、イースターのクラフトなどは Foreign buyers club で手に入ります）

【お話】

イースターと言えば何を思い浮かべるかな？（子ども達の声を聞きながら）エッグハンティング、うさぎ、ひよこ、卵。イースターは世界中の人がびっくりして、そして大喜びをした記念の日です。

先週のお話を覚えているかな？

イエス様が十字架にかけられて、なくなられました。今日はその後のお話です。イエス様は十字架から降ろされお墓に入れられました。昔のお墓は大きなほら穴に、石の重いふたをかぶせたものでした。大きい大人が何人も一緒にしないと、簡単には動かすことができません。その上ローマ人の強い人たちが、墓の前でみはっていました。

しかし3日後の朝早く、イエス様の友達だった女の人たちが墓につきました。そして驚くことに

お墓のまえにあった大きな石が開いていました。恐る恐るお墓の中に入ると、イエス様の姿がみえません。すると突然真っ白な服を着た天使があらわれました。そして女の人たちにたずねました。

「こわがらなくてもいいですよ。イエスを探していますか？ イエスはここに居ません。神様が生き返らせたのです。急いで行って、弟子たちにイエスがよみがえったことを伝えなさい」女の人たちは大喜びでその知らせをみんなに伝えようと走り出しました。その途中ある人に「おはよう」と声をかけられました。その声はいつも聞いていたイエス様の声でした。彼女たちはイエスの足を抱きしめ、「イエス様ー」と喜びました。イエス様は「怖がらなくてもいいですよ。わたしの兄弟（友達）たちの所に行って、ガリラヤの町に行きなさいといいなさい。そこで私に会うことができるから」といわれました。

イースターは私たちのために死んでくださったイエス様がよみがえられた日です。イエス様は本当に強い方です。そのイエス様がいつも私たちと一緒に居てくださいます。

【工作】

イースターのバスケット作り。紙皿を使って簡単にできるクラフトです。

紙皿にシールなどを貼り、裏側に対角線を引き、ハサミで真ん中まで切る。ホッチキスでとめて、取っ手を付ける。



幼稚科の工夫② ～Foreign buyers club～

Foreign buyers clubって？外国の食材やクラフト用品、もちろんイースターやクリスマス用品なども安く手に入れることができます。特にクラフト用品の Wiggly eyes（動く目）Maggic color scratch Crosses（スクラッチでカラフルな色が出る十字架のカード、カラフルなアイス棒など外国製なので量は沢山ありますが、色々なクラフトに使用でき便利でした。

マタイ28:1～7をよみましょう。

1. マリアさんたちは、いつ、どこへ行きましたか？

2. そのとき、どんなことがおこりましたか？

3. 見はりのばんぺいたちはどうしていましたか？

4. てんしはなにをしらせましたか？

マタイ28:8～10をよみましょう。

5. マリアさんたちはだれに会いましたか？ どんなきもちだったとおもいますか？

6. イエスさまはなんと言われましたか？

7. イエスさまのふっかつは、あなたにとってはどんなできごとですか？

マタイ28:1～7を読みましょう。

1. マリアたちが墓へ行ったのはいつですか？ 何のためでしたか？（マルコ16:1参照）

2. その時、何が起きましたか？

3. 墓を守っていた番兵たちはどうしましたか？

4. 天使が告げたことは何でしたか？

5. マリアたちや弟子たちは、イエスさまが復活することを知っていましたか？

マタイ28:8～10を読みましょう。

6. 天使の話を聞いた婦人たちの反応はどうでしたか？

7. その後、誰に出会いましたか？

8. 復活のイエスさまに出会った婦人たちは、どんな気持ちだったのでしょうか？

9. イエスさまの復活は、あなたにとってはどんなことですか？

1. はじめに

創世記1章には、神がどのように天地万物を創造なさったかということが具体的に記されています。しかし、間違えてはならないことは、創世記の物語は決して自然科学の本ではないということです。ここで言われている創造の御業の具体的描写は、決して自然科学的な真理を伝えようとしているものではありません。ここで教えられていることはもっと根源的なことです。つまり、この世界の一つひとつの秩序は決して神の意思と無関係に存在するのではないということです。本来この被造世界は、神の愛と祝福の下で秩序正しく創造された善い世界であるということです。

2. 神の愛による秩序ある世界

創造主である神はこの世界のすべてのものを六日間で創造されました。しかし、これは現代人の時間感覚である一日を24時間とした上で、神は六日間で、すなわち144時間で世界全体を創造なさったということではありません。ここで「第一の日」とか、「第二の日」という場合に使用されている「日」（ヨーム）という言葉は、「時」という意味を持つ言葉です。つまり、ここで大切なことは、創造主である神はこの世界を無から一瞬に造られたのではなく、時の区別の中で、慎重に時間的な順序を踏んで造られたということです。つまり、神は天地万物を十把ひとからげに扱われる方ではなく、一つひとつの順序をよく考え、一つひとつのものに心を配って創造なさったということです。

そのことは創世記1章に記されている創造の順序をよく見ると分かります。そこには被造物に対する深い配慮があります。というのも、神は第一日目に光を創造し、光と闇を分けることにより時間的秩序を造られました。第二日目に天を創造し、天と地を分けることにより垂直的な空間を造り、第三日目に地上において水を一箇所に集めることによって海と陸を分け、水平的な空間を造られました。こうして神は第三日目までに被造世界の時

間的・空間的基本秩序をしっかりとお定めになったのです。そして、神はそのような秩序を創造なさった上で、植物を造り、水と空と地に住む動物を造り、最後に人間を造られました。つまり、神はすべての生き物が最も相応しい環境で増えて、満ちて行くことができるような順序で被造物を創造なさったということです。私たちは創世記にある神の創造の御業とその順序を見るとき、被造物に対する神の深い愛と配慮を教えられます。

なお、太陽、月、星などの天体の創造が植物と動物の間に記されていることは、何か科学と矛盾するかのように感じるかもしれません。しかし、そもそも創世記は科学的真理を教えるために書かれてはいません。創世記が天体の創造をこの箇所に記しているのは、天体を神々と考え礼拝していた古代社会の人々に対して、天体もまた神の被造物であるということを教えるためであると考えられます。

3. 善き創造の世界

神が深い愛と配慮を持って創造なさった世界は、当然ですが素晴らしい善き創造の世界です。そのことは、この創世記1章の記事の中に、「見て、良しとされた」という言葉が六回も使用されていることから分かります（1:4, 10, 12, 18, 21, 25）。つまり神は、創造なさったものをその都度よく見て、それが良い状態であることを確認しながら創造なさったのです。そして、創世記1章31節では、神が造られたものすべてをご覧になった時、「見よ、それは極めて良かった」とあります。

この世界の中に本来、良くないもの、悪いもの、必要のないものは何もありません。すべての被造物が神の善き創造の賜物として造られているのです。そうである以上、すべての被造物は創造主である神の栄光を表すものとして存在しています（民数記14:21、詩編72:19）。

確かに、今私たちの世界は人間が犯した罪によって墮落しています。しかし、本来この世界は神の愛による善き創造の世界として造られていることを忘れてはなりません。（弓矢健児）

テキスト
カテキズム

創世記 1章6～24節
子どもカテキズム 問11, 12

〔単元のねらい〕

創世記は、徹底して、御言葉の力を物語ります。神は、みことばによって、ご自身の御心を狂いなく実現させ、無から有をあらしめます。それゆえに、被造物をご覧になって自ら、「良し」と宣言されました。神ご自身が、満足し、「すばらしい！」と声を挙げられたのです。それはどこまでに、被造物はすばらしい神の作品なのです。私たちもまた、神と共に、世界を、被造物のすべてを「すばらしい！」と感動できる信仰の感性を磨くことが大切です。また、創造物語は、進化論を教えられた子らにとって、躓きを与えるものとなります。（中学科以上は、分級などで進化論についてきちんと説明する必要があるでしょう。）創世記は、科学の知を明らかにする教科書ではありません。神の英知、救いの真理は、物語（作り話ではありません）によって明らかにし得るのです。展開例には、メッセージがたくさん込められていますが、取捨選択してください。

「なんてすばらしい世界！」

世界ははじめ、混沌だったと書いています。コントンって、何でしょう。この礼拝堂は、コントンとしていません。先生がお話しする場所があるし、皆さんは、きちんと並べてある椅子に座っています。整理整頓され、お掃除も行き届いたきれいな礼拝堂ですね。コントンというのは、バラバラ、ぐちゃぐちゃっていうかんじです。もし先生もみんなも、あっちに座ったり、こっちに立ったり、しかもぐるぐる動き回ったりしていたら、そんな場所では、落ち着いてお話も聴けませんね。しかも、なんとそこは、真っ暗闇。もう、めちゃくちゃな場所です。

しかし、やがて神さまは、ついに、外に向かって、御言葉を発せられました。どんな言葉ですか？「光あれ」です。「光あれ」いったい、どんな響き、どんな感じでおっしゃったのでしょうかね。ともかく、そのとき、たちまち光が射したのです。

神さまが最初に造られたのは、光、暖かい光、命の光です。こうして、世界は明るくなりました。しかも、神さまは、この光をご覧になって、「良い」「すばらしい」とおっしゃって、ご満足なさいました。たった一回、一発で、完璧にすばらしい作

品がつくられました。さすが、神さまはすごいです。光、明るい世界、光のある世界は、生きるために、絶対に必要なものです。

先生は、ここで言われていることを、いったいどんな光景なのかと想像してみますが、ちょっとイメージがつかいません。誰か、映画監督とか、画家になって、目に見えるようにしてくれるとうれしいですが、とにかく、コントンではなくなったということなんだと思います。

こうして、世界は、その第一日目で、神さまが計画された通りに造られたわけです。さらに、第二目、第三日目、第四日目、第五日目、そして人間が造られた第六日目と、コントンではなく、順序よく、一つひとつを丁寧に、慎重に積み重ねるように造られたのです。そして、その目標、目的は何ですか。来週、学びますが、僕たち私たち人間を創造する、いわば準備のためでした。人間が生きるためのすばらしい楽園とするためでした。

それなら僕たち私たちもまた、神さまと一緒に、「なんて、すばらしい世界。なんて、きれいなんだろう。美しいんだろう！」って、思えたら素敵ではないですか。名古屋の街の中は、ビルが多くて、「わぁー、きれいだなぁ！」って息を飲むよ

うな美しい自然はありません。でも、きれいな海を見たり、山に登って雲や空、そしてまわりの景色を見たりすると、「わあー、すごい！」って叫びたくなるようなことはありませんでしたか。先生は、そんなとき、神さまが造られた匂い、雰囲気が残っているような気がします。そして、そのような美しいものを見ると、心が感動し、自分の心まできれいになるように思います。神さまを知っている僕たち私たちですから、神さまの造られた世界を、美しい、素晴らしいと感じる心を、大切にしたいと思います。

さて、神さまが世界をお造りになられ、大空、地、海、草花、果物を実らせる木、太陽や月、魚、鳥、動物などを造って行かれました。さて、その方法は、なんでしょうか。先ほども言いましたね。第一の日である、第二の日である、第三の日である、第四の日である、第五の日である。第六……、ずっと繰り返されている、フレーズ、「決まり文句」があることに気付きませんか。

3節、「神は言われた」、「光あれ」、「こうして光があった」。次に、6節、「神は言われた」、「そのようになった」。次もまた、「神は言われた」、「そのようになった」。その次もまた同じですね。「神は言われた」、「そのようになった」。それが、31節、第六の日まで続くのです。

なんだか、創世記を書いた人は、これでもか、これでもかって、ちょっと、くどすぎない？ と思えてしまうほどです。

でも、それは、これを読んでいる僕たち私たちに、絶対伝えたいことがあるんだなって思いませんか。絶対、忘れてはいけないよって、伝えたいだなんて思います。それは、なんでしょうか。それは、神さまのみことばには、力がある、必ず実現する、だから、御言葉をあなたも聴きなさい。御言葉を聴いて信じなさい。そのとき、あなたの

上にも、神さまの、ご計画、すばらしい！ ご計画、良いご計画、美しいご計画が実現するということです。

さて、今朝の暗唱聖句をもう一度、唱えましょう。パウロ先生の言葉です。「神がお造りになったものはすべて良いもの」、「感謝して食べるなら何一つ捨てるものはない」。人間が食べれるものは、神さまに感謝のお祈りをして食べるなら、すべて食べてよいし、良いものだよ、ということです。キリスト教には、あれを食べたらダメ、これをやったら罰があたる、こうしないとダメ、そんな掟は、ありません。神さまがお造りになられたものは、良いもの、すばらしいものだ、言うのです。

そこで大切なのは、「感謝して」という御言葉です。感謝しないと、良いことなのに、良くなってしまうというわけです。感謝するということは、神さまが祝福してくださった食べ物だということ、忘れないということです。良いものは、神さまが良しとされたのですから、良いものの源、神さまを忘れたら、せっかくの良いものも良いものでなくなる場合があるというわけです。

つまり、神さまからの御言葉のすばらしい祝福を受けるためには、感謝が必要だということです。感謝とは、お祈りのことです。犬や猫は、食べる時、お祈りしますか。しません。それは、悪くありません。でも、人間は、御言葉を理解し、信じていることができます。神さまのみことばによって、造られた人間は、なんと、自分も言葉をしゃべれる特別の生き物なのです。その言葉は、何のために与えられたのですか。神さまに感謝するため、お祈りするためです。それが、言葉の一番大切な使い道です。だから、今日の日曜日、僕たち私たちは、お祈り、礼拝をささげるのです。最後に、お祈りしましょう。（相馬伸郎）

〔今週の暗唱聖句〕 テモテへの手紙ー 4章4節

というのは、神がお造りになったものはすべて良いものであり、
感謝して受けるならば、何一つ捨てるものはないからです。

ねらい：全てのものを造られた神様に感謝する
視覚教材：紙芝居。又は厚紙、黒、水色の画用紙。

土（茶色の画用紙）、雲、植物や太陽、
月、魚、鳥、動物などをプリントアウト。
スプレーのり（100円ショップの
貼って、はがせるものが使いやすい）

【メッセージ前の準備】

厚紙（又は段ボール）の表に黒、裏に水色の画用紙をはり、天地創造の舞台にする。土や空の雲、植物や太陽、月、魚、鳥、動物などをプリントアウトしたものをカットし、スプレーのりをつけ貼り付けられる準備をする。

子ども達に小道具（植物、魚、鳥など）を渡しておいてお話の途中で貼ってもらう。

【メッセージ】

すべてのものには、はじまりがあります。みんな目を閉じて、両手で耳をふさいで、何もない所を想像できますか？ 空もない、人もいない。何もありませんでしたが、ただ神様だけがおられました。

はじめの日、神様は何を造られたか覚えていますか？「光（よ）。あれ」と言われました。すると光ができました。神様はそれを昼と呼ばれ、闇を夜と呼ばれました。

二日目、神様は大空（青い空と雲）と水を分けられ、三日目には地を造られました。神様は水を集め海とし、地があらわれ、山や丘を造られました。また神様が言われた通り、いろいろな色の花や、草、野菜、高い木、強い木、木にはフルーツ

も育ちました。神さまはすべてを見て、「よくできた」と言われました。

四日目には、神様は何を造られたでしょうか？

神様は昼に太陽を造られ、夜には月を、そして沢山の星も造られました。しかし神様はこれで終わりにはされませんでした。

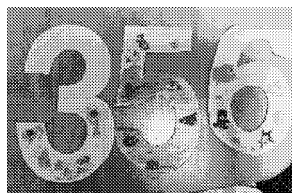
五日目には、神様は鳥と海の生き物を造られました（鳥や魚を子どもたちに一枚ずつ渡し貼ってもらって、何の生き物か名前を言ってもらってもよい）。

六日目には、神様はもっとたくさんのものを造られました。地を様々な動物でいっぱいにしました。

鼻の長いぞうや首の長いきりん、もこもこ羊やするどい牙のライオンなど……動物の名前を言ってもらおう。どこを見ても動物だらけ。しかしまだこれで終わりません。神様は次に何を造ったでしょう？ このつづきはまた次回にお話しします。

【工作】

材料：わた（雲用）、花・鳥・星・魚・動物などのシール、色紙（太陽・月）4月2日に切ってもらった1から7の数字を出し、2から6までを仕上げていく。2日目の2にはわたをボンドではる。3日目の3には植物（花や木）のシールをはる。4日目の4には星と月、太陽をはる。5日目には鳥と魚のシール、6日目には動物シールをはる。適当にペンで絵を描いてもらったりすることで、子ども達の世界が広がると思います。



創世記1:6～25をよみましょう。

1. だい2の日につくられたのはなんですか？

2. だい3の日につくられたのはなんですか？

3. だい4の日につくられたのはなんですか？

4. だい5の日につくられたのはなんですか？

5. かみさまはつくられた生きものに何と言いましたか？

6. かみさまはどんなほうほうでせかいをつくりましたか？

7. かみさまがつくられたものは、いまのわたしたちにもかんけいがありますか？

創世記1:6～25を読みましょう。

1. 第2日に神様が創造なさったものは何でしたか？
2. 第3日に神様が創造なさったものは何でしたか？
3. 第4日に神様が創造なさったものは何でしたか？
4. 第5日に神様が創造なさったものは何でしたか？ 第4日までに造られたものと違う点は何ですか？
5. 神様はどんな方法で世界を創造されましたか？
6. 神様は創造されたものをどう評価されましたか？
7. 今、世界に神様の創造の業を感じることはできますか？

テキスト 創世記 1章31節～2章3節

1. はじめに

神は六日間で天地万物を創造なさった後、七日目に創造の仕事を離れ、安息され、この日を祝福し、聖別なさいました（創世記2:3）。けれども、この七日目の安息は、神の創造の御業と決して無関係な出来事ではありません。創世記2章2節で、「第七の日に、神はご自分の仕事を完成され」とあるように、神の創造の御業が完成されたのは第七の日：安息日です。つまり、神の善き創造としての被造世界全体の完成は七日目の安息において実現したのです。

2. 神の安息に向けて創造された世界

七日目の安息において創造の御業が完成されたということは、別の言い方をすれば、この世界は七日目の安息を目指して創造されたということです。神が深い愛を注ぎながら、六日間にわたって順序よく天地万物を創造なさったのは、この世界が七日目の安息にあずかるためであったということです。ここに被造世界の存在の目的があります。

それならば、この被造世界が七日目の安息にあずかるとはどういう意味なのか。創世記2章3節から分かるように、七日目の安息は単に神が休まれたということだけを意味しているわけではありません。神が休まれたのは、この日を祝福し、聖別するためであったのです。聖別とは「神のものとして特別に取り分ける」ということです。つまり、神が七日目に安息なさったのは、この世界全体の創造を喜び、祝福するため、また、この世界全体が神のものであることを記念するためであったということです。したがって、この被造世界が七日目の安息にあずかるということは、この世界全体もそのような神の祝福と喜びの中に入れられるということです。この世界は神の祝福の中で、神のものとされ、神の喜びが満ち溢れる世界となるよう創造されたのです。

3. 神の栄光と祝福を現わす世界

神の創造なさった世界は、「見よ、それは極め

て良かった」（創世記1:31）と言われるような良い世界であり、神の栄光と祝福に満ちた世界です。ですから、神によって創造された人間が神の栄光のために生きるべき場所はこの被造世界全体です。私たちはこの世界から離れて神のために生きることはできません。人間はこの世界の中で神の喜びを自分の喜びとして生きることが大切です。

もちろん、この世界の墮落という現実を、私たちは決して軽視するものではありません。また、神の国の祝福が最も豊かに満ち溢れている場所がキリストの体である教会であるのも事実です（エフェソ1:23）。だからこそ主の民は教会の礼拝を通して神の栄光に仕えるのです。

けれども、神の救いの目的は究極的には教会ではありません。この被造世界全体の回復と完成こそ神の救いの究極の目的です。イエス・キリストは「わたしたちの罪、いや、わたしたちの罪ばかりでなく、全世界の罪を償ういけにえ」（ヨハネ2:2）として十字架にかかってくださったのです。だからこそ、主の民である教会は人間の罪の故に、「被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっている」（ローマ8:22）現実をしっかりと見て、被造世界全体の回復と完成という神の御業に仕えていかなければなりません。教会は人間の魂の救いだけでなく、被造世界全体の回復に対しても大きな責任があるのです。

この世界が七日目の安息に向かって創造されたということは、今のこの世界もまた終末の完成という究極的な安息に向かって導かれていることを意味します。神はこの世界全体が神の祝福と喜びに満ち溢れる世界として回復し、完成されるために働いておられるのです。その中で、主の民である私たちは既に毎週の主の日の礼拝において、その完成の前味にあずかることが許されています。

既に終末的完成の恵みにあずかっている主の民の使命は、この世界全体の終末的完成という神の御業に仕えるために、神の祝福と栄光の舞台である世界の中で生きることです。（弓矢健児）

テキスト 創世記 1章31節～2章3節
カテキズム 子どもカテキズム 問1, 11, 12

〔単元のねらい〕

契約の子たちは、神の民、幼きキリスト者として歩んでいます。それゆえ彼らもまた、さまざまなプレッシャーを受けながら生きているはずで、私どもは、この日本で信仰の厳しい戦いを生きている。ついつい、生活のさまざまな局面において「あれもダメ、これもダメ」と否定的、消極的なものの言い方、見方に陥りやすいと思います。それが、契約の子たちの信仰への消極的態度を促すことをおそれます。反対に、万一、そのようなプレッシャーを避けさせようとするなら、契約の恵みを軽んじ、空しさの中へと進んで行くこととなるでしょう。創世記の創造物語は、徹底的に世界を肯定的に見る視点を確立させる源泉です。世界は、神の栄光の舞台です。人間こそ、このひのき舞台の上で、神の御前で思いっきり生きることができるし、そうすべき最高の生なのです。肯定的、積極的、明るいキリスト教有論の人生観を子どもたちに！

「世界は神さまの栄光を物語る」

一週間は七日間あります。一週間は日曜日から始まります。明日は二日目の月曜日、そして、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日と続きます。最後の第七日目は土曜日です。

神さまは、天と地、地球と宇宙を造られたとき、このように順序正しく、きちんと丁寧に造って行かれました。そして、第六の日に、お造りになられたすべてのものを、じつとご覧になられて、仰いました。「良し・すばらしい・見事・美しい」。聖書の著者も、心の底から感動して言います。「見よ、見てごらんさい。極めて、良かった」。

でも、この創世記を書いた人は、神さまが天地を創造された様子を見たことは、ありませんよね。人間はそれを見ることはできなかったのです。まだ、造られていなかったのですから。それなら、この創世記を書いた人は、どうしてそんな風に言えたのでしょうか？ 昔からこれを書いたのは、モーセさんだと言われてきました。モーセさんはどんな人かというと、イスラエルの人々をエジプトの奴隷から脱出させた偉大なヒーローでした。神さまは、エジプトの王子として育てられていたモーセを通して、イスラエルの民を救いだします。エジプトの王と戦ったモーセは、ついにイスラエ

ルの人々を引き連れて、約束の地を目指して脱出します。ところが、エジプトの軍隊が追いかけてきました。目の前は行きどまり、海です。ところが、神さまに祈ったモーセが、その海に向かって手を差し伸べると、どうでしょうか。ものすごい風がビュービューと吹いて、海が真っ二つに分かれてしまいました。イスラエルの人々は、海の底を通過して進むことができたのです。

すごい奇跡ですね。それをなさったのは、聖書の神さま、僕たち私たちの神さまで。モーセさんは、この神さまのすごい力と愛をその目で見ました。だから、こんなすごい創世記を、神さまに教えられたとおり書けたのかもしれない。

僕たち私たちは、聖書によって、この創造のお話を読んでいます。それを、信じています。どうして、信じられるかというと、イエスさまを知っているからでしょう。イエスさまが、神さまなのに、天から降りて、人間となってくださった。そして十字架について死んでくださった。そして、死の力を打ち破ってよみがえってくださった。今も生きて、世界中の教会とイエスさまを信じるキリスト者たち、僕たち私たちを守っていてくださり、世界中の国々と人々を守っていてくださるこ

とを知っているからでしょう。本当にイエスさま、神さまの御わざは、すごいですね。

神さまは、第七日に休まりました。それは、何にもしないということではありません。神さまが創造された世界を神さまが、喜び、楽しんでおられるのです。そうすると、これまでのお働きの中で、一番すばらしい日はいつになるのでしょうか。先生はこう考えます。すべては第七の日のために、それを目指して、神さまは働かれました。どの一日一日のお働きも楽しく、うれしく、すばらしかったと思います。でも、その目標はその完成だと思っています。神さまが創造された最高傑作は人間でした。僕たち私たちです。つまり、世界は、僕たち私たちがそこで楽しく、喜んで生きることができるようにつくられた樂園だったのです。神さまの栄光を燦然と輝かす、見事な、あまりにもすばらしく、美しく、過ごしやすく、働きやすい、言葉では決して言い表せないほどの、すばらしい世界だったのです。神さまの造られた栄光の舞台。栄光の劇場です。僕たち私たちで言うと、栄光の遊び場、砂場？ かもしれません。

ということは、そこで、僕たち私たち人間が、思いつきそれを楽しんで、生き生きと生きることが、神さまに喜ばれることになるはずですね。そんな世界を、神さまもまた、おもいつき祝福されました。特別の日として、取り分けられたのです。聖別されたということです。

今朝の暗唱聖句をもう一度、読みましょう。「天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す。(昼は昼に語り伝え／夜は夜に知識を送る)」。今、僕たち私たちは、聖書を持っているでしょう。聖書には、神さまのことが直接書いてありますね。詩人は、「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業

を示す」と言って、神さまが造られた世界のことを「第二の聖書」って呼びました。神さまがいっちゃって、どんなに美しく、すごい力を持っておられるのか、それは、海と空を見れば、分かるからです。

今は、どんな時代ですか。2010年4月25日。その通り、でも、もっと大きく数えると神さまの造られた時間のなかで、第七日目です。僕たち私たちは、この世界、この時間の中で、神さまに祝福されているのです。あらためて、子どもカテキズムの問1を思い出してください。「人生の目的とはなんですか。神さまを知り、神さまを喜び、神さまの栄光を現すためです。これがわたしたちの喜びです!」。つまり、この神さまがつくられたすばらしい世界、わたしのこの命、人生を喜ぶこと、それが、神さまを喜ぶことに、つながっているのです。神さまが、僕たち私たちが喜んで生きることを喜ばれているのです。だったら、神さまの栄光を現すことも、神さまを喜ぶことと、つながっていることがわかりますね。この人生の中で、思いつき生きること、栄光の舞台の上で、我を忘れて、楽しむこと、遊ぶことです。20世紀の一番有名な神学者の先生は、「人生は遊び」って言ったそうです。先生も、昔、子どもが砂場で夢中になって遊んでいる姿を見て、うれしかったことを覚えています。神さまは、僕たち私たちが、そんな風に、神さまの栄光の舞台で生きることを、大喜びで見てください。だからと言って、勉強しないでいいのかということではありません。勉強もまた、遊びの一部だということですね。そんな神さまを知ることができた僕たち私たちは、幸せです。今日は安息日ですね。最高の遊びは礼拝ですね。(相馬伸郎)

〔今週の暗唱聖句〕 詩編 19編2節

天は神の栄光を物語り
大空は御手の業を示す。

ねらい：神様が造られた素晴らしい世界を知る。
視覚教材：植物や動物の写真や絵、

【お話】

神様はなにもない所から素晴らしい世界を造りました。まず何を造ったかな？（子どもたちに質問しながら復習する）、水や土があるから、花や木が大きくなります。そして草を食べて、牛や馬などの沢山の動物が生きていけます。どんなに小さな虫も、草も花も神様が全てをお世話しています。神様は6日間の間に造られた全てのものをみて、みんなすばらしい!! と言われました。ほんとうにすばしくて、神様はすべてのものを心から大切にしました。

その次の日神様は何をしたでしょうか？ 6日

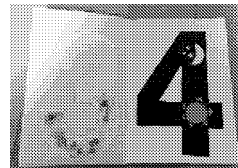
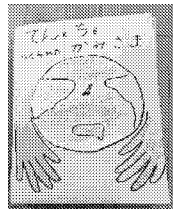
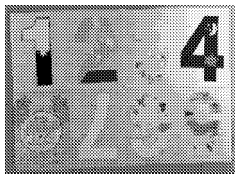
間いろいろなものを造るために働かれた神様は7日目に祝福して休まりました。そしてその日を特別に神様を礼拝する日として決められました。

このすばらしい世界を造ってくださった神様は今も、私たちのためにいろいろな仕事をしてくださっています。そのことをいつも忘れず、神様ありがとうございましたとお礼をいしましょう。

【工作】

7日目の7は空白のまま使用。大きな模造紙（A3サイズ位）に1から7の数字を貼る。

表紙に好きな絵を貼って折りたたむと絵本として使用できます。



創世記1:26～31をよみましょう。

1. かみさまはさいごになにをつくりましたか？

2. 人は、なにににせてつくられましたか？

3. かみさまが人にあたえられたしゅくふくとやくめはなんですか？

4. かみさまが人にあたえたたべものはなんですか？ わたしたちのたべものとおなじもの、ちがうものがありますか？

5. 人（あなた）のどこが、かみさまににているとおもいますか？

テキスト 創世記 1章26～31節

〈六日目の創造〉

天地創造の最終段階に至って人間が創造される。家畜・這うもの・地の獣が同日に置かれるのは、人間もまたそれらの生き物と同類と看做される所以であろうか。しかし、その差異は明瞭である。人間は神にかたどって創造され、創造の冠として、天地万物が整ったのち地上に現れる。

人間の創造に際し、神が「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」（26節）と一人称複数で語られたことが議論になる。数々の解決が試みられてきたが、神の熟慮を表す複数と捉えておけばよい。三位一体の神の対話という伝統的な解決法は歴史的釈義からは導出されないが、啓示の進展の上で正当化されよう。

〈神のかたち〉

「神のかたち」とは何かがさらに議論となる。伝統的には人間の本性が神に類似するものと捉えられ、理性や自由意思、道徳性などと考えられた。しかし、旧約では「かたち」は具象的であり、身体性と精神性をあまりに厳密に区別することは相応しくない。26節の表現は、5章3節でアダムが息子をもうけたくだりて繰り返されており、そこから推察される含意は「複製」である。子は父の存在を受け継いでこの世に生を受けるが、初めの人間は身体的・精神的すべての存在を通して神を映すものとして創造される。

旧約聖書が背景とする古代オリエント世界では王が神のかたちを有すると看做され、一般庶民とは区別された。聖書はその王に相応しい権能や尊厳を人類一般に敷衍し、すべてのものが神のかたちを有すると主張する。古代世界で神のかたちを有する王が人民を支配したように、人間は自然界を統治する権能をもつものとしてこの世に創造され、その命の尊厳については最高度の価値が付与される（9章1～6節）。

〈男女の平等〉

神のかたちに創造されたのは男だけではない。

27節で「男と女に創造された」と加えられているのは、男女一对の姿もまた人間の本性たる神のかたちに含まれていることを示唆する。後に「人が独りでいるのはよくない」と言われる所以である（2章11節）。

〈祝福された生命〉

はじめに神は生命に満ちた世界を創造し、これを祝福された。旧約における神の祝福は繁栄を約束する。人間は与えられた尊厳ある使命に基づいてその繁栄を司る。神は人間の命を養うと同時に、あらゆる生き物の命をも養われる。人間による自然の支配を命じる神の言葉は、自然崇拜を行う世界に神中心的な世界観を与えると同時に、人間のエゴイズムによる自然破壊にも警鐘をならす。王に求められるのは義の実行である。人間は自然界の王として、与えられたすべての力を神の祝福の実現のために用いるよう、世界に存在する。

〈創造と終末〉

祝福の内容には人間および地上の生物の食物に対する関心が示され、基本的に創造の時点ではみな草食である。自然科学の見地から実際にどうかとの問題は別にして、血の流れる生き物が互いに血を流すことなく生きる世界がここに描かれる（イザヤ書11章6～9節、65章25節）。肉食は罪ある世界を神が滅ぼさないと決意された洪水後の時代に許可され（8章21節、9章3節）、動物犠牲がささげられる現在を指し示す。創造は終末を表示する。初めに神が創造された世界は、「極めて良かった」と賛辞が贈られる状態で完成された。来るべき終わりの世界はこの初めの状態への回復へ方向づけられ、キリストによる真の完成を待つ。ゆえに、キリスト者の求める神の栄光・永遠の喜びは、神の被造世界と切り離された個人的瞑想において実現するのではない。キリストの救済の業は選びの民によって創造の回復に向けて進められており、地上のあらゆるものが聖なるものとして神へと立ち帰る途上にある。（牧野信成）

5月7日

人間の創造と人生の目的

説教展開例

テキスト

創世記 1章26～31節

カテキズム

子どもカテキズム 問1

〔単元のねらい〕

天地創造のみわざの中で、とくに人間の創造について学ぶ。今回のカリキュラムでは、天地が神の栄光の舞台であることが強調されている。人間は、その栄光の舞台におかれた「創造の冠」である。その光栄を知り、心に刻むことを中心にしたい。神の恵みに感謝し、神を畏れること。そこから、神を喜び、神の栄光をあらわす人生の目的へと導きたい。人の被造物支配、文化命令は、その中で理解される。

「創造の冠としての人間」

神さまの天地創造のみわざを学んでいます。神さまが、「光あれ」とおっしゃって光が造られて、天地創造のみわざが始まりました。第一日、第二日、第三日と、順序立てて、秩序正しく、六日間かけて、天と地が創造されました。天と地のすべて、この世界は、とても美しく造られています。神さまが秩序立てて、配慮して造ってくださったから、そして、神さまの愛が込められているから、この世界はとても美しいのです。

今、生態系の破壊や気候の変動といった環境問題が大きく注目されています。確かに、動物や植物の生態系は破壊されています。お天気、気象もおかしくなってきました。けれども、神さまがこの天地を支えておられることには変わりありません。今日も、東から太陽が昇り、西に沈みます。春のあとには夏が来て、秋があって、冬がある、その順序も変わっていません。「もしも季節がいちどにきたら」という子どもの歌で、全部の季節がいちどに来て、海で泳いで雪合戦をするという楽しい歌がありますね。でも、残念ながら、いくら異常気象ということがあっても、季節がいちどに来たりはしません。神さまが造ってくださったこの世界は、今も、神さまご自身の御手によって支えられ、守られています。

神さまは、六日間で天と地のすべてを造り、第七日に、この天と地のすべてのものを祝福して、安息されました。創造のみわざを終えて、安息さ

れました。そのことを、先週、学びました。さて、その第七日の祝福の前、天地創造のみわざを終える前の、神さまの最後のみわざは何だったでしょうか。神さまが、天と地を造る、その最後に造られたものは何だったでしょうか。そう、それが人間です。わたしたち人間です。人間は、神さまが創造のみわざの最後に造られたものです。

「最後」と言うのと、「何だ！ いちばん最後なのか？」と思うのでしょうか。でも、こう言い換えるといよいでしょう。最後というのは、締めくくりなのです。天地創造の締めくくりであって、いわば、天地創造のみわざを完成させる、そのために、人間を造ってくださいました。人間の創造は、天地創造の締めくくり、天地創造を完成させる、神さまのみわざです。(※もちろん、天地創造の完成は、第七日の安息にあります。けれども、第七日の安息は、人が神と向かい合って神との交わりに生きることとおして実現します。神さまは、人とおして第七日を祝福し、聖別されることを良しとされました。その意味で、人間の創造は、創造のみわざの完成に不可欠なものとしてされています)。

ですから、人間のことを「創造の冠」(あるいは「被造物の冠」と呼びます。すべてのものが創造されて、その極みとして人間が造られました。造られたものすべて、被造物すべての上に人間という冠が置かれている、そのような存在として、人間が造られました。そのような、大切な、尊い存在として造られた人間である。そのことを、ま

ず大切に心に刻みましょう。

さて、そのように、人間が締めくくりとして、最後に造られました。人間が創造の冠である。そのことは、逆に言えば、それまでのすべての被造物が人間のために造られ、備えられたものである、ということでもあります。今朝の御言葉にも繰り返されていました。「海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう」(26)、「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ」(28)、「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる」。こうあって、人間のために備えられ、人間に与えられ、人間が支配する、ということが語られています。しかし、これは、わたしたちが、すべての被造物、神さまの造られた世界を好き勝手にして良い、わたしたちの思いのままにして良い、ということなのでしょう。

ひとつには、すべての被造物がわたしたち人間に与えられている。わたしたち人間の手にゆだねられている。そのことは真実です。主なる神に感謝しましょう。神さまをほめたたえましょう。

けれども、次に、わたしたちに与えられているからと言って、ゆだねられているからと言って、思いのままにして良い、何でも自分の好き勝手に利用して良い、ということではありません。

聖書の詩編8編にこうあります。

「あなたの天を、あなたの指の業を／わたしは仰ぎます。月も、星も、あなたが配置なさったもの。そのあなたが御心に留めてくださるとは／人間は何ものなのでしょう。人の子は何ものなのでしょう／あなたが顧みてくださるとは。神に僅かに劣るものとして人を造り／なお、栄光と威光を冠としていただきせ／御手によって造られたものをすべて治めるように／その足もとに置かれました。羊も牛も、野の獣も／空の鳥、海の魚、海路

を渡るものも」(8:4～9)。

詩編の御言葉は、人を創造の冠として造られた神さまに対する畏れを言い表しています。この天と地のすべてを造り、治め、支えておられる神さまが、大きな栄光と名誉を与える存在として人を造り、造られたものすべてをゆだねてくださいました。それに対して、わたしたちは、神さまに感謝し、畏れをあらわし、神さまに喜ばれる生き方をして応えることが求められています。大きな恵みと栄光が与えられたならば、それを自分のものとして思いのままにするのではなく、神さまに感謝と畏れをあらわして、神さまをほめたたえて歩まなければなりません。

神さまは、「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」(26)とおっしゃって、「神にかたどって」(27)人を創造されました。天地の造り主である神さまは、この天と地を愛し、良い配慮で満たし、はぐくまれたお方です。わたしたちは、その神さまにかたどり、似せて造られました。神さまと向かい合って生きる存在として造られました。

そうであれば、わたしたちは、神さまと向かい合って、神さまをほめたたえて歩みます。子どもカテキズム問1にあるとおり、「わたしたちが生きるのは、わたしたちの神さまを知り、神さまを喜び、神さまの栄光をあらわすためです」。それは、礼拝をささげて、神さまを喜んで生きることです。そして、この世界、天と地のすべてのものを大切にすることをとおしても、神さまをほめたたえることができます。最初に言いましたように、生態系の破壊や気候の変動といった環境問題があります。神さまは、それでもなおこの世界を維持し、支えてくださっています。ですから、わたしたちも、この世界を大切にすることによっても神さまに仕え、神さまの栄光をあらわしましょう。

(望月 信)

〔今週の暗唱聖句〕 詩編 8編5節前半

そのあなたが御心に留めてくださるとは／人間は何ものなのでしょう。

ねらい：神様が人間を特別な存在として創造し、
人生に目的を持たれていることを知る
視覚教材：犬（動物）のぬいぐるみ

【お話】

今日はあるお話をしたいと思います。ある日ゆうたくんのパパが、子犬をプレゼントしてくれました。

ゆうたくんは大喜びで飛び上がりました。「やった一、ぼくには弟ができたぞー。この子の名前はけんくんにしよう!! けんくん、椅子に座って。何か食べよう」みんなはその犬が椅子の上に座ると思うかな？ 難しいね。この犬は動物だから、人とは違う。神様は人を特別に造られたから。

「けんくん、一緒にぼくのおもちゃで遊ばないかい？」その犬はどうしたと思う？

（歯磨き／服を着替える／絵を描く／携帯電話でおばあちゃんとお話をするなど具体的な例を話しながら、人と動物が違う存在ということを伝え、子ども達にゆうたくんがけんくんを人間のように扱おうとするとどうなるか想像してもらってください）

神様がきれいな色の花や草、そうやライオンなどの動物たちを造った後、神様はすべてを見られ、なんてすばらしいと言われました。でもまだ終わりにされませんでした。自分と姿形が似ていて、お話ができるものがほしいなと思いました。

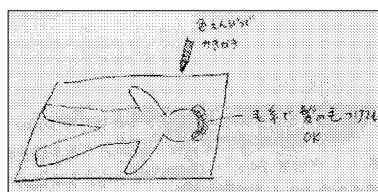
そして神様は何を造ったでしょう？ そうです。人を造られました。それも特別な方法で。まず土で人間の形を造って、その後、鼻から息を吹きかけられました。すべて神様が造られた動物や花や鳥、魚のお世話をしてもらうために。特別にきれいな庭もプレゼントしました。神様は造られたどのものよりも人を愛されました。一人一人がとっても大切な存在なのです。

【工作】

模造紙でダイナミックな作品

大きな模造紙を一枚ずつ渡し、その上で仰向けに寝てもらう。大人に体の周りの線だけ鉛筆でかたどってもらう。その絵に、顔、髪の毛、手足、服などを描いてもらい仕上げる。髪の毛は毛糸などを使用しても可。

カーペットの上ではなく、床の上での作業ですが、幼児でなくては大きさを考えてもできない作業です。



幼稚科の工夫④ ～物語の話し方～

子ども達は物語が大好き。ある子どもは絵がなくても、物語からその光景を想像することができます。本来子ども達にとって聖書は物語の宝庫です。教会学校の教師がどのように伝えるかによって子ども達の理解も大きく違ってきます。ボディランゲージを使い、囁いたり、叫んだり、ゆっくり話したり、声のトーンを変えてキャラクターを演じたり。また足でリズムをとったり、大きく目を見開いたり、大きさを表すために手を用いたり、私自身も外国の方の様に、様々な方法を用いて表現できたらと思います。

創世記1:31～2:3をよみましょう。

1. かみさまはつくったすべてのものを見て、どうおもいましたか？

2. あなたは、かみさまのつくったせかいをどうおもいますか？

3. すべてのものは、なん日でつくられたのですか？

4. だい7日に、かみさまはなにをしましたか？

5. あんそく日は、なにをおぼえるための日ですか？

創世記1:31～2:3を読みましょう。

1. 神様は創造されたものをご覧になって、どう評価されましたか？
2. あなたは、神様のつくられた世界のどんなところが素晴らしいと感じますか？
3. 天地万物は第何日に完成しましたか？
4. 第7日に神様は何をなさいましたか？
5. 安息日は、何をおぼえるための日ですか？

2. あなたは、神様のつくられた世界のどんなところが素晴らしいと感じますか？

3. 天地万物は第何日に完成しましたか？

4. 第7日に神様は何をなさいましたか？

5. 安息日は、何をおぼえるための日ですか？

神は人間の創造にあたって男女を一組としてつくられた(1章27節)。これは神の創造の祝福に与る人間の基本的なかたちを表す。しかし、1章の記述とは別に、2章では、人は初めから二人だったのではなく、神が二人にされたと知らされる。エデンの園で、初めに人は独りきりであり、その自覚すらなかったであろう。大地の基が据えられ、天には星が輝き、緑が生い茂る、新しい命が輝き満ちている世界に、神のかたちを宿した人間がひとり立ち上がった時、神はそこに、ある欠けを認めている。そして、「人が独りでいるのはよくない」との発言がある(2章18節)。そこで神は行動を起こし、人間のパートナーとして地上の生き物を造るが、その中に人の求める伴侶は見出されない。すると、神は人を深い眠りに落とされ、人の身体からもう一体の人をお造りになり、最初の人のところへ連れて来られた。その時、人が叫んだ言葉が「ついに、これこそ、わたしの骨の骨、わたしの肉の肉」である。「これぞ」と声を挙げる興奮の中、人は真の伴侶を見出す。人間が心から求めたのは人間である。人はこのように二人になることにより、互いに愛する関係に生きる者として神の前に立つ。

人間の創造にまつわるこの記述は、人類の原初を語ると同時に、結婚という出来事を通して知られる神の御業を教えている。人が独りでいるということは、何も独身でいることを意味しない。創造されたときの人間は、文字通り一人きりだった。ただ、その後、人類が世界に増え広がって人は孤独にはなりえなくなったかといえば、そうではない。結婚をしていても、家族があっても、友人に取り囲まれているようであっても、人は独りきりで生きていることがある。愛を生み出すのには相手が必要だが、その相手を見出すことのできないところに人の孤独な姿がある。人がそのようになってしまったのは、人が罪を犯して神の御前から失われてしまったからだ、と聖書は語る。

人が独りでいるのはよくない—神はご自身に向かってそう語られ、我々はここで一人きりでいる人をご覧になる神の心を告げられる。続いて神が行動を起こされたとき、一人は二人になる。それが押し付けでないことは、初めに動物を連れて来られた時も、神は人がどう受け取るかをご覧になっていたことで分かる。二人を無理やり結びつけるのではなく、人の喜びとなる相手を造るために神は働かれる。伴侶を得るということは、ある人がただ近くに場所を占めるということではない。そこで互いの心が開かれ、結びつくことが大切である。そこに「出会い」がなくてはならない。動物ではなく、人間が造られて連れて来られた時、そこには心踊るような出会いがもたらされた。人を造られた神は、人が愛する者となるために、出会いを導いてくださるお方である。

「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる」(24節)。神に導かれた出会いにより、互いを自分自身のように愛することを学びながら、結婚した二人は心も身体も一つにされる。結婚には神が人間をお造りになった喜びが込められている。

創世記はこの後、結婚の祝福を与えられた人間がそのままの愛を保って幸せになった、とは記していない。むしろ、二人になった人間が神の御前に罪人となったとき、互いの愛は直ぐにも傷ついてしまう。人が歴史の現実にあって経験する人と人との結びつきは、互いの利益を巡る駆け引きの中で脆さをさらけ出す。その現実の中で私たちが聴くべきは、天地創造の時から今日この時に至るまで変わらない神の御旨と御業である。教会で挙げられる結婚式では、人が罪に敗れ傷ついていく世の中で、人と人が出会い、互いの愛に生きることを誓う、新しい出発を造りつづけておられる神の御業が目撃される。神は出会いを創造し、その原初の出来事を通して愛に生きよと人に呼びかけておられる。(牧野信成)

テキスト 創世記 2章18～25節
カテキズム 子どもカテキズム 問15

〔単元のねらい〕

人間の創造の中でも、とくに男と女の創造ということに絞って学ぶ。創世記2章の結婚が神の制度であることを教える御言葉を取り上げるが、結婚ではなく、「人が独りでいるのは良くない」がこの単元を中心となる。神が交わりのうちに生きるお方であるように、人も交わりのうちに生きる者とされている。神との交わりに支えられて、人と人との交わりに生きる。そのあらわれの一つが男と女という違いを持つ存在として造られたことである。互いの違いを尊び、共に生きることへと招きたい。

「男と女、互いに助ける者として」

創世記には、天地創造のことが二回、出て来ます。創世記1章から2章のはじめまでと、創世記2章の4節から25節までです。これは、天地創造が二回行われたということではありません。ていねいに読むと分かります。創世記1章は、人間が造られたことも含まれていますが、天地創造のみわざの全体が教えられています。天と地を秩序正しく造られた、その全体です。2章4節からは、人間がどのようなものとして造られたのか。人間の創造ということが中心になっています。人間の創造ということがクローズアップされて、男の人と女の人、そして、その結婚ということも出て来ます。今日は、とくに、人間が男の人と女の人に造られたということを学びましょう。

創世記2章18節からです。主なる神さまが、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を人のところに持ってきて、人がそれをどう呼ぶか、御覧になりました。そして、人が呼ぶ名前がその生き物の名前になることを良しとされました。人が呼ぶと、それが生き物の名前になる。これは、その生き物を人間にゆだねておられる、生き物を支配することを人間におまかせになっておられるということです。これは、先週学びました。この天と地の生き物は、わたしたち人間にゆだねられています。大きな光栄と責任が人間にあります。

そのところで、「人はあらゆる家畜、空の鳥、

野のあらゆる獣に名をつけたが、自分に合う助ける者は見つけることができなかった」(20)とあります。神さまが人のところに野の獣や鳥を持ってこられたのは、人に合う助ける者を見つけるためでした。けれども、見つかりませんでした。

皆さんの中には、犬や猫を飼っている人がいるでしょう。あるいは、金魚やカメを飼っている、ハムスターを飼っているという人もいるかもしれません。生き物を飼うというのは、とても大切なことです。生き物をとおして、命の大切さを知ることができます。食べ物必ずあげなければなりませんから、責任感を養うこともできます。そして、心が安らぎ、気持ちが落ち着くということもあります。わたしも、子どもの頃、家で犬を飼っていました。お友だちのように、犬と一緒に遊びました。犬や猫は、ただペットとして飼うというだけではなく、お友だちや家族の一員と言えるほど、親しくなることができます。そのことによって、人間だけではない、多くの生き物の大切さを教えられます。人間だけではない、神さまが造られたあらゆる生き物の大切さを知ってください。

けれども、そのところで、聖書は言っています。「自分に合う助ける者は見つけることができなかった」。どれほど犬や猫の生き物と仲良くなっても、どれほど一緒に生活して、親しくなっても、

家族の一員と呼ぶほどになっても、決して「自分に合う助ける者」にはなれません。ですから、人間以外の生き物ではなく、人間に、自分に合う助ける者を求めなければなりません。

先週学んだ創世記1章27節にありました。「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された」。人は神さまにかたどって造られました。だから、です。人は、神さまに似せて造られています。ですから、神さまが霊的なお方であるように、人も霊的な存在です。人には、肉の命があるだけでなく、魂の命があります。人は、自分という存在を知り、頭の中で思いめぐらし、言葉でそれを表現することができます。神さまと向かい合って、神さまと共に、神さまとの交わりの中で生きる者として造られました。人は魂で生きるのです。そのことが、人とほかの生き物とを決定的に違うものとしています。そのことを教えるために、神さまは、このとき、人に、あらゆる獣と空の鳥を持ってこられました。ほかの生き物の中に、自分に合う助ける者を見つけることはできない、そのことをここで教えてくださったのです。

神さまが、ご自身にかたどって人を造るときに、男の人と女の人に造られました。これは大切です。わたしたちは、神さまと同じように霊的な存在であり、魂の交わりの中で生きる存在です。思いめぐらしていることを言葉で言い表し、互いに支え、助け合い、命をはぐくみ合って生きていきます。神さまとの交わりに支えられて、人と人との交わりに生きるのです。人が、男の人と女の人という、それぞれ違う仕方、けれども、違いはあっても人なのです、どちらも魂の交わりの中で生きる存在です。互いの違いを尊びながら、魂をはぐくみ合って生きることができるのです。これは、神のかたちの具体的なあらわれのひとつです。

神さまは、人を深い眠りに落として、人からあ

ばら骨の一部を抜き取り、そのあばら骨で女の人を造り上げられました。とても不思議なことです。こうして女の人造り上げられて、そしてはじめて男の人造り上げられました。

「あばら骨の一部で」というのは、あばら骨は肉体の心臓や肺といった大切な部分を守っている骨です。大切な骨なのです。あるいは、胸を指さして心がある場所と言いますね。科学で証明されていることではありませんが、心のある場所を守る骨、ということでもあるでしょう。そのような大切な骨で造られたのであって、男の人にとって女の方は、それほど大切な存在であるということです。そして、人が独りでは、その大切な部分が欠けた状態のようなものである、と神さまが教えてくださっているのでしょうか。いずれにせよ、人が「ついにこれこそ／わたしの骨の骨／わたしの肉の肉」(23)と呼ぶほどに、お互いにとって大切な存在なのです。こうして、神さまは、人に合う助ける者をお与えくださいました。

男の人と女の人には違いがありますが、どちらも神さまが大切に造ってくださいました。神さまにかたどり、神さまに似せて、男の人と女の人に造られました。神さまとの交わりに支えられて、わたしたちは、この男の人と女の人がいる社会の中で、共に生きていくのです。もちろん、男の人どうしも、女の人どうしも、互いに励まし合い、支え合って生きていきます。

わたしたちは、罪のため、残念ながら、人を傷つけてしまう、人に傷つけられる、ということを経験します。人に裏切られることもあります。そんなときに、人の声を聞きたくなくなることがあるかもしれません。交わりから離れたくなるかもしれません。けれども、人を助けることができるのは、人しかいないのです。神さまを恐れ、人と人との交わりを喜んで、主にある良い交わりを建て上げて歩いていきましょう。(望月 信)

〔今週の暗唱聖句〕 創世記 2章18節より

人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。

ねらい：神様が男の人と女の人を造られた目的を知る。

視覚教材：男の子の絵と女の子の絵

【お話し】

（男の子と女の子の絵を見せ）この絵は男の子の絵かな？ 女の子かな？

男の子と女の子はいろんな所が違うね。どこが違うかな？

着る服／髪型／遊び方など例を挙げる。

神様は人を神様に似た姿に造られたとき、男の人と女の人を造られました。まず最初にアダムを土から造りました。でも一人ぼっちでいるのは良くないと神様は思いました。そしてアダムの胸のあたりにある大切な骨（あばら骨）でエバを造りました。二人はを助け合うために、仲良くするために、話し合うために、一緒に神様が造られたも

ののお世話をするために造られました。

でも違いがある分、男の人と女の方は時々一緒にいるのが難しい時があります。みんなのお父さんとお母さんもたまにはけんかをするかもしれない。またみんなもお友達とけんかをするかもしれない。でも神様はお互いの良い所をみつけて、仲良くしてほしいと思っています。そのことをいつも忘れずに、助け合いましょう。

【工作】

Paper doll template をプリントし、服の色を塗り、ハサミで切る。男の子と女の子との違いが分かるように、2種類作る。Pinterest で paper doll printable で検索すると何種類もの紙の人形が出てきます。アダムとエバのものも検索できます。

幼稚科の工夫⑤ ～工作のアイデア～

子ども達が工作が大好きなのはわかっているけど、準備が大変、工作のアイデアがないと悩んでいる方も多いのでは？ そんな時に役立つのが pinterest。パソコンや携帯のアプリで簡単にダウンロードでき、検索すればあらゆる分野のアイデアや情報が入手できます。聖書やCS 関連のものを日本語で検索しても少ないので、是非英語での検索をお勧めします。例えば Genesis（創世記）craft for kids

創世記2:18～20をよみましょう。

1. かみさまは、人が一人でいることについてなんと言いましたか？

2. そのために、かみさまはなにをしましたか？

3. 人は、どうぶつになにをしましたか？

4. どうぶつの中から、たすけるものは見つかりましたか？

創世記2:21～25をよみましょう。

5. かみさまは、なにをなさいましたか？

6. 女の人を見た男の人は、どんなきもちでしたか？

7. かみさまは、男の人と女の人をおたがいにどうするようにつくられたのですか？

創世記2:18～20を読みましょう。

1. 神様は、人が独りでいることについて何と言われましたか？
2. そのために、神様がされたことは何ですか？ 人は何をしましたか？
3. 動物の中に、人にふさわしい助ける者はいましたか？

創世記2:21～25を読みましょう。

4. 神様は何をなさいましたか？
5. それに対して、男の反応はどうでしたか？
6. 女が男にとってふさわしい助ける者である理由は何ですか？
7. 今の私たちと違う点はどこですか？

テキスト 創世記 3章1～13節

3章では、二人となり、夫婦となった人間が神に背く。蛇と女との対話を通して人が罪を犯す際の心の動きが丁寧に描き出される。発端となる蛇の誘惑は知恵の囁きを意味する。蛇は巧妙に神の言葉を捻じ曲げて問いかける。「園のどの木からも食べてはいけない」とは神は言われていない。むしろ逆で、「どの木からも食べて良い」(16節)と言い、ただ一本の木から採って食べることを禁じられた。蛇の誘導は神の言葉に疑いを抱かせることを狙いとする。問いかけに対する女の答えには、その畏にはまった人間の心理が映し出されており、女は「触れてはいけない」という、元々命じられてはいい禁止事項を加えている。この誇張には、「いけない」と命ずる神の言葉に対する不満が表示されているとみることができよう。禁止命令は「死んではいけない」という、人の生命を保護するために与えられた(神の律法はイスラエルを神の民として生かすための具体的な指針であったことを思い起こされたい)。しかし否定の言葉が不服と感じられた時、行動へはあと一歩となる。

蛇が女の目を木の実に向けさせると、それは魅力的で美しく、賢さを誘うものであった(6節、ヨハネの手紙一2章15節参照)。この魅力の前に「食べてはならない。きっと死ぬ」(2章17節)との神の言葉は消し飛んでしまう。むしろ「死なない」との蛇の言葉が欲望を後押しし、ついに人は禁じられた木の実に手を伸ばす。ここから神の言葉は忘れられ、モノと人間相互の密接な支配関係が始まる。

こうして人は「善悪を見分ける」ようになったが、神が世界を創造された時点でまだ悪は存在しない。それが「見分ける」ことができるようになり、善と悪との区分・対立が生じる。神は初めに人間を良いものに創造されたが、知識の木の実を食べることで悪を内に持つようになった。これが

聖書の記すところの「原罪」である。人は神に対して生きる存在であり、神によって豊かに生きる命を養われているのだが、サタンの囁きによって神を疑い、目の欲に促されて、神の警告に反して死を選択する。これは過去の話ではなく、神に背き、悪への誘惑に弱く、神のごとき知識を目指して突進する今日の我々を映す鏡である。

女による違反は続く男の反応と一連の出来事であり、罪を犯した結果として、人間は裸であることを恥じ、神の気配から逃れようと身を隠す。さらに神の追及を逃れようとした男は、罪の責任を女に転嫁し、さらに「あなたが与えた」といって神を罪の作者とする。ここに現れたのは、神に祝福されたはずの人間同士の絆が、罪の結果、脆くも崩れ去った模様である。人はもはや、神が与えたもう伴侶をも信頼することができない。

この墮罪の記事は罪ある人間の原初の物語であり、今現に神の御前に生きるすべての人の原像を映している。人間が違反によって手に入れた、神に等しい賢さは決定的な魅力である。しかし、神に等しいのであれば保護は必要ない。彼らは楽園を出なければならず、苦しみが多い世界に生きるものとなる。罪を知ることの大切さは、人間のこの本来的な暗さを知ることによって、明るい方向へと具体的に踏み出すことができる点にある。他方、罪を知らないことの問題は、自分を過信して、今気が付いていない問題をさらに取り返しめの付かない方向に悪化させてしまうことにある。罪人という、聖書が示すところの否定的な人間像は一般的には受け入れがたいものであろう。しかし、そこからしか始まらない、神に造られた人間の命の在り方がある。また、自分の罪を認めるということは、同時に、隣人の罪をも知り、私たちの暮らすこの社会や世界の罪を自覚することへと広がる。神の救いはそこから現実的に語り得るものとなる。(牧野信成)

テキスト

創世記 3章1～13節

参照カテキズム

子どもカテキズム 問16、17、ウェストミンスター小教理 問13～19

〔単元のねらい〕

主によって最初に極めて良く造られた人間でありながら、今、私たちは苦しみと死を避けてとおることができなくなっています。それは、最初にアダムとエバがサタンに誘惑され、罪を犯したが故です。子供たちに語ろうとする時、「最初の罪があるから、私たちも罪人だ」と語っても子供たちは理解することは難しいでしょうし、物語として記憶に留めておくだけでも不十分だと言わなければなりません。むしろ、ここに記されている最初の罪こそが、私たちが持っている罪の原形であり、ここに記されている罪こそが、私たち自身の姿を語っていることを共に覚えましょう。しかし、「私たちは罪人だ」とばかり意識させるのではなく、同時にイエス・キリストの十字架による神の救いが約束されていることを伝えましょう。

「つい罪を犯してしまった！」

神さまは人間をととてもすばらしくお造りくださいました。そして人は生きるようになったのです。最初の人、アダムさんは、神さまに似せて、神さまにかたどられて創造されました。それは、罪を犯すことなく、正しく生きることができる状態でした。罪を犯さないのだから、死ぬことも考えられませんでした。そのため、最初の人アダムさんとエバさんは、エデンの園というすばらしい場所で、神さまに愛され、またふたりが互いに愛し合って、とても幸せでした。

神さまに似せて、神さまにかたどられて創造された人の幸せは、神さまと共にあり、神さまとの交わりに生きることです。食べるために必要なものは、園の中にすべてあり、自由に選んで食べることができたのです。何一つ不自由のない、苦しみのない生活をするのができたのです。

主なる神さまは、ふたりにただ一つの約束を与えられました。それはエデンの園での生活よりもっとすばらしい、天国での幸せで喜びの生活を準備してくださっていたからです。その約束とは、「善悪の知識の木からは決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう」(2:17) ということです。ふたりにとっては十分に守ることができる約束でした。神さまは、ふたりが神さまの御言葉

に従うかどうかを確かめられたのです。

そこにサタンが蛇の姿をして現れます。サタンは、人を神さまから引き離そうと、人を誘惑します。蛇は最初、女に言います。「園のどの木から食べてはならない、などと神は言われたのか」(3:1)。女は蛇に答えます。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてはいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました」(3:2～3)。

しかし、蛇は女に「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存知なのだ」(3:4～5)と語りました。そのため、女は、その木がいかにもおいしそうで、目を引きつけ、賢くなるように思ったので、実を食べ、男にも渡しました。

ここに罪の誘惑があります。誘惑とは、「食べると死ぬ」と言われていたのに、「決して死なない」と約束を変更させるのです。誘惑は、罪を犯すことが非常に素晴らしいことのように見せるのです。最初の約束は、神さま以外に変更することなどできないのに、目の前にある木の実が非常に魅力的ですばらしいもののように見えるため、蛇に

言われるままに、自分の判断で、神さまの約束を変更し、これ位大丈夫だと思いこみ、罪を犯してしまったのです。

みんなも経験がありませんか。お友だちの家に遊びに行く時に、お父さん・お母さん・家族に「今日は5時に帰ってきなさい」と言われ、「はい、5時には帰るから。行ってきます」と言い、遊びに行きます。でも帰り際に、お友だちから「もうちょっといいでしょ」と言われ、5時半や6時に帰ってしまい、怒られてしまったということ。これが罪の誘惑です。家族の人との約束は守らなければなりませんよね。しかし遊ぶことが楽しくて、「少しくらい」と思ってしまふところに誘惑があるのです。約束を忘れ、自分で約束を変更してしまうことこそが罪です。それは自分が神さまとなっているのです。

アダムさんとエバさんが、神さまとの約束を破り、木の実を食べてしまったことこそが、罪です。彼らはその結果、神さまが最初に約束されたとおり、死ぬこととなります。それもアダムとエバから生まれたすべての人、つまり私たちも、死ぬこととなったのです。「なんで私たちも」と思ってしまひますが、約束を守り、罪を犯さないということは、それだけ重要なのです。

その後、主なる神さまがアダムさんとエバさんの所に来た時、二人はどうしたでしょうか？ 恐ろしくなって隠れてしまうのです。これ位なら、

誰にも見つからないだろうと思って行うことでも、内心はドキドキです。しかし神さまは、そのすべてのことをご存じなのです。私たちはどれだけ小さな嘘であっても、神さまの御前には隠すことはできません。だからこそ、私たちは、アダムさんとエバさんから生まれた子孫であるというだけでなく、私たち自身がこれ位大丈夫だと思って行ってしまう小さな罪の故に、神さまによって罪に定められ、死ぬことを免れることができなくなっているのです。だから、私たちは誰も神さまの御前で、「自分は悪いことはしていない」とは言えないのです。

しかし神さまは、私たちのすべてをご存じであり、「あなたは罪を犯し、悪いことをしましたね」と怒られるばかりのお方ではありません。それでもなお、神さまは私たちを愛していてくださっています。そして「あなたの罪のために、イエスさまが十字架にお架かりくださったのですよ。だからあなたは罪に定められることはありません」とお語りくださっているのです。

私たちは、みんな、アダムさんやエバさんのように、神さまとの約束を守ることはできず、罪を犯してしまひます。それでもなお、神さまは、その罪を認め、イエスさまを信じる人に救いを約束してくださっているのです。神さまがお与えくださった恵みに感謝しましょう。（辻 幸宏）

〔今週の暗唱聖句〕 ローマの信徒への手紙 6章23節

罪が支払う報酬は死です。

しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。



ねらい：神様に素晴らしいものを与えられていても、欲にまけて罪を犯してしまう私たち。
視覚教材：アダムとエバの紙芝居、パワーポイントなど

【お話】

最初に神様が造られた人の名前はわかりますか？ アダムとエバです。

神様は二人の事が大好きで、とても大切にされました。

二人のために素晴らしい庭も造られ、たくさんのおいしいたべものがあり、何も困ることもなく、アダムとエバはとても幸せでした。

神様は「ここにある果物はどれでも食べてもいいよ。でも真ん中にある木の実だけは食べてはいけないよ。死んでしまうから」と言われました。

でもある日、エバのところにへびがやってきました。「あの真ん中にある木の実を食べてごらん。食べても死にはしないよ。もしこの実を食べたら、良いことと、悪いことがわかり神様の様になれるんだよ。へびはうそをついたのです。エバはその実を食べました。アダムもその実を食べました。

二人は神様を信じないでへびのいう事を信じま

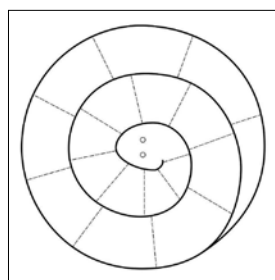
した。さあ大変です。二人が神様の約束を破ったとき、「罪と呼ばれる」悪い心が生まれてしまったのです。そのことは神様をととても悲しませました。

【工作】

へび作り

色画用紙を、直径30cmほどの円にハサミで切る。中心から円を書き、へびを造る。

へびの目の所に動く目を貼ったり、体の部分にシールを貼ったり、色を塗り、口の所に赤い折り紙を貼るなどするといいです。頭の所に穴を開け、紐でつりさげることもできます。

**幼稚科の工夫⑧**

クリスチャン人口が80%の南アフリカで、子どものミニストリーをされていた方の言葉、「子どもにとって教会は楽しい所でなければいけない」。子どもが教会学校で楽しく聖書を学べれば、子どもたちの好きな活動が沢山詰まっている場所であれば、子どもが両親に「教会に行きたい」と言うようになります。私たちの教会ではHappy Kids（幼児のための英語礼拝）を公同礼拝の時間と並行して行っています。中には親と離れても平気で1時間ほど楽しく過ごせる自立した幼児もいます。スタッフやいろんな条件がそろわなければ、難しい環境で、ほとんどの教会では公同礼拝前に30分ほどの教会学校を行っているのではないのでしょうか？ 短い時間にできる事は限られます。でも工作などは時間がかかっても、続けられる工夫をすることで、子どもたち自身も楽しく過ごせます。厳かな公同礼拝で無理に静かに子ども達が過ごす事によって後々の教会嫌いにつながらないように願いつつ取り組んでいます。

創世記3:1～5をよみましょう。

1. ヘビはどんな生きものでしたか？

2. ヘビは女になんとはなしかけたか？

3. 女はなんとこたえましたか？

4. 2:16～17もよみましょう。ヘビと女の言ったことはありますか？

創世記3:6～13をよみましょう。

5. 女はなぜ実をとってたべましたか？

6. 男は、なぜたべたのですか？

7. 二人はその実をたべたあと、どうなりましたか？

8. かみさまがちかづいてきたとき、どうしましたか？

創世記3:1～5を読みましょう。

1. 蛇はどんな生き物でしたか？

2. 2:9, 16, 17も読みましょう。

蛇の言葉と神様の言葉の違いは何ですか？ 女の言葉と神様の言葉の違いは何ですか？

創世記3:6～13を読みましょう。

3. なぜ女は実を取って食べましたか？

4. 男はなぜ食べたのですか？

5. その実を食べた後、二人はどう変わりましたか？

6. 神様が近づいてきたのに気づいて、二人はどうしましたか？

7. 男と女は、実を食べた理由を神様に何と説明しましたか？

神の言葉に背いた罰として人間には死が定められた。人間は苦しんで子を産み（或いは子育てに苦勞する、と理解することも可）、土を耕し、最後には土に返る。そして、樂園から追放され、命の木に至る道が閉ざされる。人間はもはや自力でそこへ戻ることはできない。しかし、この墮罪の原点において、神が人間を見る眼差しには慈愛が宿る。

神の憐れみを示す文脈は次の通り。まず、女が木の実を食べ、すぐさま男が口にするが、それで彼らは即死しない。創造者にはそうした罰を下す権限があるはずである。しかし、神は自分で造った人間を失敗作として廃棄せず、憐れみによって生かし続ける。

神は人間を呪ってはいない。呪いは祝福とは逆に、この世の悲惨と死をもたらす力である。罪の結果として呪われたのは、人間ではなく大地である。園の外では過酷な労働が課せられるが、人間自体は神に呪われた存在ではない。女にはエバという名も与えられ、その名（「命」の意を表す）の通り、命がそこから生まれるようになる。

神は人間を園から追放するが、彼らには皮の衣が着せられ、神は彼らを保護される。人間はエデンの外で始まった歴史を、神の憐れみの眼差しの下で生きてゆく—これが聖書が語るところの世界観・人生観である。

注目すべきは、そこに約束が与えられていることである。神が蛇（つまりサタン）に向かって語られた言葉の中に、罪を犯した人間に対する希望が示される。すなわち、3章15節の「原福音」である。「蛇の子孫」とは、後の時代のサタンの働きを指す。そして、「女の子孫」は将来の人間を指す。その両者の間に敵意がおかれる。つまり、人間は罪へと誘う力に立ち向かうようになることが暗示される。約束された将来において、人間は

悪のかしらを砕き、悪は人間のかかとを砕く。かかとを砕かれても死なないが、かしらを砕かれれば間違いなく死に絶える。つまり、女から生まれてくる人によって悪が減ぼされる、という約束である。ここに与えられた預言は、最終的には神から送られてきた人が悪を減ぼし、神の園を世界規模で回復するという、人類の救済にまで行き着く。

聖書全体の展望がここから開かれる。すなわち、聖書は次のことを人類全体に関わることとして語る。神は罪人を憐れんで、世界に救済をもたらす。具体的には、それはイエス・キリストによって歴史の上に実現された。イエス・キリストは十字架におかかりになった神の子であるが、それが、原福音にある「彼はお前の頭を砕く」という事態に相当する。十字架は神の子を破壊した出来事のようにみえるが、実はそうではなく、悪がそれによって減ぼされることになった事態である。つまり、キリストの十字架は、罪のために死に定められた人々から罪を取り去るための犠牲をあらわし、キリストの復活は罪が人にもたらした死を終わらせることを意味する。罪を知るということは、神の憐れみに触れ、このキリストの十字架と復活による救いを身に受けることによって、再生した新しい命を得ることに結びつく。

ここに聖書が差し出す救済史の大きな展望が開けている。人間は初めに二人で園を出た。しかし、キリストの十字架を折り返し地点として、こんどは世界がこぞって天の国へ帰る道が開かれる。新しく用意された場所はもはや二人きりしかいない園ではない。海の砂のように、天の星のように増え広がった人々の園が、その彼方に見えている。人間が神から離れてしまった時代にも、我々の思いの及ばない神の計画が世界の歩みを終わりへと導いている。（牧野信成）

テキスト

創世記 3章14～24節

参照カテキズム

子どもカテキズム 問18、ウェストミンスター小教理 問20

〔単元のねらい〕

創世記3章の前半（前々回）では、人間に罪が混入してきたことを学びました。今日のテキストからは、まず罪の結果、人が生きることに労苦しなけりばならなくなつた悲慘について覚えたいと思います。すべての人が、アダムとエバの子孫だからこそ、現在の生活があり、本来、神さまが創造してくださつた最初の人の状態とは異なっていることを確認したい。またさらに、主なる神さまは、人を罪と悲慘の中に置かれ、突き放されたのではなく、なおも人を愛してくださり、恵みの約束（原福音）をお与えくださっていることを確認していただきたい。

「神さまは見捨てません！」

アダムさんとエバさんは、神さまとの約束を破り、善悪の知識の木から木の実をとつて食べてしまいました。神さまは最初に、この木の実を「食べると必ず死んでしまう」とふたりと約束していましたが、彼らが罪を犯した結果はどうなつたでしょうか？

木の実を食べるとすぐに死ぬことはありませんでした。しかし、アダムさんとエバさんは、やがては死ぬこととなつたのです。そしてふたりから生まれる子どもたち、すべての子孫が、生まれながらにして、必ず死ぬこととなつたのです。これは、神さまが最初、人を造られた時、「命の息を吹き入れられ」（2:7）、生きる命をお与えくださったこととは、違ふのです。今生きている私たちは、「年をとれば、やがて死ぬんだ」と思っています。しかし、神さまが最初に人を造られた時には、そうではなかつたのです。私たちがやがて死ぬのは、アダムさんとエバさんが最初に罪を犯したからであり、アダムさんとエバさんから生まれた私たちもまた、毎日、神さまの御前で罪を犯しているからなのです。

アダムさんとエバさんが罪を犯した結果、他にも変わったことがありました。神さまによって創造された時、エデンの園の中にあるどの木から取つて食べても良かったのです。そのため、食べ物を得るために、ふたりは苦勞する必要はなかつ

たのです。しかし、罪を犯した後、ふたりはエデンの園から追ひ出されます。そうすると、ふたりは、食べ物を得るために、自分で農作業を行つて汗を流し、苦勞しなければ、食料を得ることができなくなつたのです。今も同じです。みんなはまだ、学校に入っていない人もいれば、小学生・中学生・高校生の人もいますよね。わたしたちは、社会に出るために勉強しなければなりません。そして高校・大学を出れば、働くことが求められます。それは生きていくのには、お金が必要だからです。お金を稼いで、それで食べるもの・着る物・また必要なものを得なければならないのです。みんなのお父さん・お母さんも、毎日働いていますよね。中には、お母さんは仕事には出ていないという人もいますが、ご飯を作つたり、洗濯したり、家庭の中の仕事をすることも大変ですよ。ね。「働かざる者、食うべからず」とのことわざがありますが、アダムさんとエバさんが罪を犯した後は、人として生まれてきた以上、働くことが求められるようになったのです。だからこそみんなも、高校・大学を卒業したら、働くことが求められるのです。

また、神さまは特に女の人たちに特別のことをお語りになりました。それは、子どもを産むことの苦しみです。みんなは、赤ちゃんが生まれてくるまで、どれだけの期間、お母さんのお腹の中に

いつきとお か
いるか知っている？ 十月十日と言われている。その間に、赤ちゃんがだんだんだんだん大きくなり、生まれる直前は、お母さんは非常に大きなお腹で、毎日生活しなければなりません。非常に大きな苦労があるのです。それでも赤ちゃんが生まれる喜びを知っているからこそ、それに耐えることができるのです。

このように、罪人となった人は、神さまが最初に創造して下さった時からかなり離れてしまい、毎日毎日働くことが求められ、赤ちゃんを産まれるにしてもお母さんは大変苦しみ、さらに最後には土に返る、つまり死ぬこととなったのです。「もう生きていくのが嫌になった」なんて言わないでください。神さまを知らないならば、確かに希望はありません。しかし、みんなは神さまを知っているのです。主なる神さまも、みんなのことを良く知っていてくださいます。そして、神さまを信じるならば、苦しみながら死んでゆくものではありません。主なる神さまは、この時、神さまを信じて生きる人に対して、救いを約束してくださいました。アダムさんとエバさん、そしてみんなが神さまから離れ、罪を犯した結果、死なな

ければならないのですが、神さまは悲しく思われ、みんなを愛して、イエスさまによる救いを約束してくださいました。そしてイエスさまの十字架によって、サタンが滅ばされ、みんなが背負っている罪が赦され、そして神さまの子どもとして、救われるようにしてくださいました。

神さまは、このように、アダムさんとエバさんが最初に罪を犯した直後に、すでにみんなのことを覚えていてくださり、みんなを救うために、イエスさまを準備し、約束をして下さっていたのです。このことで、本当に、神さまがみんなのことを愛していて下さっていることを理解していただけたと思います。

だからこそ、みんなも、これから長い人生、生きていく間には、いろんな苦しみもあると思いますが、それでもなお神さまが共にいてくださり、助け、救ってくださっていることを覚えて、神さまを信じて欲しいです。神さまを信じることによって、神さまは、私たちを、もう苦しみもない、悲しみもない、天国の祝福で満たしてくださいませ。(辻 幸宏)

〔今週の暗唱聖句〕 ローマの信徒への手紙 5章8節

わたしたちがまだ罪人であったとき、
キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、
神はわたしたちに対する愛を示されました。



ねらい：私たちは生まれながらに罪人。でも神様は愛し、救いの約束をしてくださった事に感謝する。

視覚教材：黒のハート（画用紙）、白のハート（画用紙）、赤い十字架

【お話】

アダムとエバは神様が造られた庭で幸せに暮らしていました。

でもある時ヘビが来ますね。その後どうなったか覚えてるかな？ 神様が食べてはいけないと言われていた木の実を食べてしまいました。そして神様の素晴らしい世界に（黒のハートを見せながら）悪い心が入ってしまいました。それは誰も消すことができませんでした。アダムとエバは恥ずかしがり、いつも神様から逃げました。ふたりの心は傷ついて、前のように幸せではなくなりました。

神様の心がきれいで真っ白（白のハートを見せながら）なので、神さまの約束を守らなかった二人を神様のそばに置いておくことはできませんでした。神様はアダムとエバに「なんでそんな事をしたのか？」としかり、二人を園から旅に出させ

ました。でも神様は二人をそのままほっておくことはしませんでした。人間を救うことも約束してくださいました。

この約束とはイエス様がやがて私たち人間の罪（黒のハートを見せて）のために十字架（赤い十字架を見せて）にかけられ死なれた後、よみがえられるという事です。イエス様のおかげで私たちはもう一度きれいな心を持つことができ、（白のハートを見せる）神様と仲直りができるのです。悪い事をしてしまう私達でも、神様、イエス様は愛して下さい、救ってくださる約束をして下さい（緑の手を使用し、成長することについての説明もできます）。

【工作】

5つ（金・黒・赤・白・緑）の色のビーズを使って、ブレスレット作り。黒と白はハートのビーズでもいいと思います。紐の代わりに、ビーズの穴に通る位の細めのゴム（髪用）を使用すると作業がしやすいです。工作の時には子ども達に色の説明（幼稚科の工夫参照）をしながらするといと思います。

幼稚科の工夫⑦

子ども達は色や形が大好きです。物事を記憶するのに形や色を用いると、より印象が残ります。色は字のない絵本を参考にしています。

金の○：神様、天国、 赤の十字架：イエス様、 黒のハート：罪、悪い心、 白のハート：きよめ、 緑の手：成長（成長する5つのキーワード）

- ①教会に行くこと ②祈ること ③聖書を読むこと ④聖書の話聞くこと
- ⑤証すること（イエス様の事を人々に伝える）

5色の画用紙で、5つの形を切り、CS教室の子どもの見える場所に貼っておくといつも復習しながら覚えることができます。

創世記3:14～15をよみましょう。

1. かみさまはへびにどんなばつをあたえましたか？

2. わたしたちにも、へびのようなさそいがありますか？

創世記3:16～19をよみましょう。

3. 女にはなにがおきるようになりましたか？

4. 男にはなにがおきるようになりましたか？

創世記3:20～24をよみましょう。

5. かみさまはアダムとエバにばつだけをあたえましたか？

6. かみさまはアダムをどうなさいましたか？

7. かみさまはすべてをよくつくられたのに、なぜアダムとエバはエデンのそのからおいだされることになってしまったのですか？

創世記3:14～15を読みましょう。

1. 神様は蛇をどのように取り扱いましたか？
2. 蛇の子孫と女の子孫とは、何を指していますか？

創世記3:16～19を読みましょう。

3. 女にはどんな苦しみを与えられましたか？
4. なぜ、土が呪われたのですか？
5. 男にはどんな苦しみを与えられましたか？
6. 人は最後にはどうなると言われていますか？

創世記3:20～24を読みましょう。

7. アダムは女に何と名前を付けましたか？ それはなぜですか？
8. 神様はアダムとエバに罰だけを与えましたか？
9. なぜ、エデンの園から追い出されたのですか？

〈背景と文脈〉

主イエスは父なる神の使命を帯びて地上に來られた。そのクライマックスが十字架上での贖いの死と復活であった。使命を終えられて父なる神のみもとに歸られるにあたり、主は福音伝道の働きを弟子たちに託された。マタイ28章18～20節、マルコ16章15～18節、ルカ24章44～49節には、復活された主イエスの宣教命令が記されているが、今日の箇所もそれらに相当する。弟子たちの派遣が、特に聖霊の授与との関わりにおいて強調されていることに注目したい。

〈復活の主の顕現〉(20:19～20)

復活された主イエスは、「その日(20:1)、すなわち週の初めの日の夕方」に弟子たちに現れられた。そのとき、彼らはユダヤ人を恐れて、家の戸に鍵をかけていた。この場合のユダヤ人とは、特に主を死に追いやった宗教的指導者を指す。

主イエスは彼らの真ん中に立たれ、「あなたがたに平和があるように」と言われた。これはユダヤ人の通常の挨拶言葉であるが、二回繰り返されている(19, 21)ことから、単なる挨拶ではなく、実質的な意味をもっていた、と考えられる。主イエスは十字架にかかれる前、弟子たちに「わたしの平和を与える。わたしはこれを世が与えるように与えるのではない」(14:27)と言われた。贖罪のみ業によって信仰者は義とされ、神との間に和解が成立し、平和が与えられる(ローマ5:1)。この平和は義認の結果としての平和であり、主イエスだけが与えることができる。

鍵がかかっている家に主が顕現されたことから、復活体はそれまでとは異なった体であることがわかる。しかし、ふたつの体の間には継続性が見られる。すなわち、主の手には、釘を打たれたときの傷跡と、脇には槍で突き刺された傷跡(19:34)があった。それらは、主イエスご自身であることを証明するものであった。それで弟子た

ちは喜びに満たされた。

〈聖霊の授与と弟子たちの派遣〉(20:21～23)

主は地上での使命を終えられて父の御許に歸られるに際して、和解の福音を伝える働きを弟子たちに託された。主は、彼らがこの使命を遂行することができるように、三年余弟子たちを訓練されたが、今やその時が来た。

彼らを宣教に遣わされるにあたり、息を吹きかけ、聖霊を授与された。「息を吹きかける」(22)という語は、七十人訳(旧約聖書のギリシャ語訳)の創世記2章7節、「命の息を吹き入れられた」で使われている語である。

そして言われた。「だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る」(23)。弟子たちへの聖霊の授与は、彼らが力と權威をもって伝道できるためであり、彼らが罪を赦したり、赦さなかったりする権能を与えられたことを意味しない。聖書は、神だけが罪を赦すことができるお方である、と言っている(マルコ2:7)。「その罪は赦される」(23)、「赦されないまま残る」(23)、という表現は、文法的に言えば、過去の行為に基づく結果を表す完了形の受動態が使われており、もちろんその行為者は神ご自身である。ゆえに、神によって罪が赦される、あるいは赦されないまま残る、ということに関して宣言する権能を弟子たちが与えられた、と考えることができる。

信じない者に対して主は、「あなたたちの罪は残る」(9:41)と言われた。弟子たちの伝道を通して、結果的に、主を信じる者と信じない者が現れるが、信じる者の罪は赦され、信じない者の罪は赦されないまま残ることを宣言する権能が彼らに与えられた、と考えられる。聖霊なる神は、伝道する者と共におられ、確信と力と權威を与えてくださるお方である。(後藤公子)

6月4日

聖霊降臨と教会

説教展開例

テキスト

ヨハネによる福音書 20章19～23節

カテキズム

子どもカテキズム 問80

〔単元のねらい〕

これまで、聖霊降臨祭は、使徒言行録を通して、新しいイスラエルであるキリストの教会の誕生に中心をおいて祝ってきました。今年は、復活された主イエスが弟子たちに現れた出来事から学びます。この御言葉は、復活祭に読まれるべき個所の一つです。しかし、ヨハネによる福音書は、ここで聖霊降臨の出来事を先取りしています。主イエスは、息を吹きかけ、聖霊を受けよと招かれます。主イエスご昇天の後、共同体として聖霊を受け、キリストの教会としての務め、罪の赦しの福音を全世界に宣教するように遣わされます。今朝、子どもたち一人ひとりに、主イエスが息を吹きかけられていることを確認しましょう。礼拝式においては、共同体で聖霊を注がれ、本来のあるべき人間へと、取り戻されていることを告げましょう。聖霊を受けるために、主イエス・キリストを信じ、熱心に祈り求めることへと励みましょう。

「聖霊を受けなさい」

今日は、教会にとって特別の日をお祝いします。聖霊降臨祭です。ペンテコステの日です。それは、世界で最初に始まった教会の誕生日です。世界中の教会のお母さんのような教会です。その教会のことをエルサレム教会と言います。その教会は、イエスさまの十二人のお弟子さんたちによって始まりました。

世界で最初のエルサレムの教会が始まる時、お弟子さんたちは、さあ、イエスさまの教会を始めるぞと意気こんでいたのでしょうか。違うのです。お弟子さんたちは、イエスさまが、ユダヤの国の王様となって、自分たちの国を救ってくださる。自分たちはイエスさまの国の大臣になれる、そう考えていました。ところが、イエスさまはユダヤの警察に逮捕されました。彼らはイエスさまを捨てて逃げてしまいました。

お弟子さんたちは、家のカギをしっかりと閉めて、息をひそめて隠れていました。エルサレムの町には、イエスさまを殺した指導者たちがいて、自分たちもひどい目にあわせられるかもしれないからです。怖くて怖くてしかたがありませんでした。

彼らは、もしかすると、イエスさまに出会って、

夢のように共に過ごした素晴らしい日々を思い返したかもしれません。イエスさまの教え、神さまの力に夢中になって過ごした日々……。でも、もう、おしまいです。イエスさまを裏切り、見捨てて逃げたのです。イエスさまは、もう、殺されたのです。弟子たちは、結局、田舎に帰って、昔の生活に戻ろう、ひっそりと誰にも知られないように暮らそう。そう考えていたかもしれません。

ところが、まさに落ち込みへたり込んで、動けずにいるお弟子さんたちのところに、お甦りになられたイエスさまが駆けつけられたのです。

「よくもわたしを捨てて逃げ去ったな。情けない。もう二度と弟子にしない。絶対にお前たちを信用しない。これでおしまい。わたしは出て行って、本物の弟子を探しに行く」。そんなことは一つも書いてありません。そんなことは、ひと言も仰いけません。イエスさまは、弟子たちを叱りつけるために来られたのではありませんでした。まったく違います。その正反対です。

イエスさまはこう告げられました。「あなたがたに平和があるように!」。「神さまの平和があなたがたに、今、ある。今、ここで実現した」と言

われたのです。

世界で、もっともすばらしい祝福、それは平和です。神の平和を受けることです。それは、神さまとの間に何のわだかまりもないということです。神さまとの間に、これっぽっちも溝がないということです。まっすぐな関係です。すこしの影もありません。「良い関係になっているよ」と、裏切った弟子たちにイエスさまが宣言されたのです。

つまり、彼らのすべての罪、ありとあらゆる罪はもう赦されている。消し去られている。神さまは忘れてしまわれたと仰ったのです。

ほんとうに驚きです。不思議すぎます。お弟子さんたちは「ごめんなさい」ってひと言でも言いましたか？「ごめんなさい」と言ったからイエスさまが赦されたとは、まったく書いていません。つまり、イエスさまは、一方的に赦してしまわれたのです。

ポカーンとしているお弟子さんたちのために、イエスさまは、本当にイエスさまだということを証しするために、手とわき腹に残っている傷跡を見せられました。この傷によって、あなたの罪は赦されたのだよと教えるためでもありました。

ついに、お弟子さんたちは本物の喜びにあふれます。喜びが爆発します。「イエスさまは、私たちの罪を赦すためにご復活された！」

イエスさまは、この弟子たちにあらためてお命じになられます。「この平和を世界中に広げなさい！ わたしは、そのために天のお父さまのところから遣わされた。わたしも、あなたがたを平和の使者として遣わします」。

神さまの平和、救いを告げる仕事、伝道こそ、人間ができるもっともすばらしい仕事、もっともすばらしい働きです。

でも、そのためには、一つだけ、条件があります。聖霊を受けることです。それは、もう、決し

て自分の力を頼りにしては生きないということです。自分の「おりこう」な考えでは、イエスさまのことも、その説教も分かりません。そんな生き方はイエスさまを信じて生きる生き方ではありません。お弟子さんたちの失敗は自分の力を信じたからです。

イエスさまは、そのことを心の底から教えたくてしかたがないのです。だから、イエスさまの霊、神さまの霊を注がれたのです。

こうして、お弟子さんたちは、まさにまったく生まれ変わったように、それから、自分に頼らず、イエスさまに頼りながら、イエスさまがお命じくださった平和を告げる働きに命をかけて従いました。それが最初のエルサレム教会となりました。そして、その教会は世界に広がったのです。

今日の暗唱聖句をもう一度、読みましょう。僕たち私たちは、神さまの霊を注がれるとき、本当に生きるもの、神さまの前に生きる人間、神さまと平和に生きる人間になります。神の平和を生きる幸いを知ります。

聖霊は、聖書を読んで、お話を聞いて、お祈りをする、この礼拝式で、目には見えていませんけれど、神さまの霊は、天から、ほら、皆さんに注がれています。先生にも注がれています。その恵みを心から信じ、感謝しましょう。この恵みがあるから、ここに僕たち私たちの教会も誕生し、今もここにいますのですから。

この教会は、僕たち私たちの教会です。皆がいなければ、教会になりませんよ。だったら、僕たち私たちも、教会のためにお祈りし、教会の仕事、平和を告げる働き、伝道の働きのお手伝いができるはずですよ。それをしてゆきましょう。その働きの大切な一つは、お友だちに優しく、親切にすること、赦してあげることです。自分の力ではとても無理と思うでしょう。でも、聖霊の力を受けているのです。挑戦しましょう。（相馬伸郎）

〔今週の暗唱聖句〕 創世記 2章7節

主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、
その鼻に命の息を吹き入れられた。
人はこうして生きる者となった。

ねらい：イエス様が送ってくださった助け主―聖霊がおり、最初の教会が誕生したことを知る。

視覚教材：聖霊の絵 紙芝居、パワーポイント

【お話】

イースターやクリスマスはもちろん知ってるね。でもペンテコステという言葉はあまり聞いたことはないかな？ それと同じぐらい大切なお祝いの日です。教会の誕生日とも言いますが、あるびっくりする事が起こりました。

イエス様が十字架にかけられ、3日目によみがえられました。そのお祝いをするのがイースターでしたね。それからしばらくしてイエス様が天国の神さまの所に帰られる前、いつもそばにいた人たちにこう言いました。「私はあなたたちとこれから一緒にいますよ」って。でもどうやって？ イエス様はびっくりする事を用意していました。

ある日、イエス様を信じていたたくさんの人たちが、ある家の2階にいました。強い風が空から吹いてきて、炎のようなものが一人一人の頭に降りてきました。ふつうの炎ではありません。これは何でしょう？ それはイエス様が約束してくれていた聖霊というものでした。

みんな今までに感じたことがない程の喜びでいっぱいでした。イエス様が愛してくれることが、そして一緒に居てくれていることがわかるもので

した。

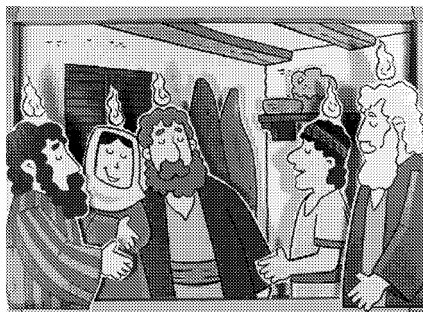
でもイエス様を信じていない人たちには何が起こってるのかよくわかりませんでした。

ペトロという人が立ち上がって、大きな声で叫び始めました。「みなさん。イエス様は私たちが罪（悪い心）から救われるためにきました。イエス様は天国に行かれましたが、私たちに聖霊をくださいました。私たちはこのように喜びでいっぱいです!!」

これを聞いて、数えきれないぐらい沢山の人がイエス様を信じました。そしてたくさんの教会ができました。

【工作】

mylittlehouse.org の3D の picture の the gift of the holy spirit をプリントアウトし、ハサミで切る。立体感を持たすために、背景と人物の間にクッション付きの両面テープなどを貼るとより映えます。



幼稚科の工夫⑧

mylittlehouse.org の3D の picture は種類も豊富で無料でダウンロードやコピーができます。mylittlehouse.org を検索し、左上にあるホーム画面より、Bible 3D pictures を検索すると、旧約聖書や新約聖書などの色々な絵を選択できます。立体のハウスやカード、カレンダーなどもあります。

ヨハネによるふくいんしょ20しょう19～23せつをよみましょう。

1. でしたちは、そのひ、どこにいましたか？

2. なぜ、いえのとかぎをかけていたのですか？

3. そこに、だれがきましたか？

4. イエスさまは、なんとおっしゃいましたか？

5. イエスさまは、でしたちになにをお見せになりましたか？

6. でしたちのはんのうは、どうでしたか？

7. イエスさまが、つぎにいわれたことはなんでしたか？

8. でしたちは、なにをあたえられましたか？

9. イエスさまをしんじた人に、なにがあたえられますか？

ヨハネによる福音書20章19～23節を読みましょう。

1. 弟子たちは、その日、どこにいましたか？
2. なぜ、家の戸に鍵をかけていたのですか？
3. そこに、誰がきましたか？
4. イエス様は、何とおっしゃいましたか？
5. イエス様は、弟子たちに何をお見せになりましたか？
6. 弟子たちの反応は、どうでしたか？
7. イエス様が、つぎに言われたことは何でしたか？
8. 弟子たちは、何を与えられましたか？
9. イエス様を信じた人に、何を与えられますか？

テキスト 創世記 4章1～16節

原初史のテーマは、神から離れていく罪人の、醜さと愚かしさを描き出すことにあると言える。神がどういう方であるかということよりも、神から見て人間はどういう存在であるのかということに、より一層の強調点が置かれて書かれている。ここには最初の殺人の記録がある。エデンの園にもはや帰ることができない人間は、これからどれほど悲惨な歩みを刻むのか。その前途多難な旅のはじまりの記録である。

カインは農夫、アベルは羊飼いであった。これは古代西アジアにおける基本的な二つの生活様式であった。ここで神はアベルの献げものに目を留め、カインの献げものに目を留めなかったとある。新約聖書はその理由として、アベルが優れた犠牲をささげた（ヘブライ11:4）、アベルは正しい人だった（マタイ23:35）と説明しているが、物語自体はその理由を何も語らない。兄弟の優劣などは、一切注目されていない。

理由は分からない。ただ、不条理にさえ思える神の自由な選択だけが示されている。ここでは「神の恵みの不公平さ」がテーマとされているという学者さえいる。

近代人は、人間は平等だと言いたがる。しかし各個人に与えられる境遇には明らかに違いがあり、例えば大富豪の御曹司とスラム街の孤児とでは、生まれた瞬間からスタート位置が違うのが現実である。それを一人ひとりに与えられた最善の配剤と信じて、希望を見出すことができるのは信仰のみであって、聖霊との出会いなき者の目には、まさに恵みの不公平としか見えないであろう。それはいつも人間が直面する事実であり、カインはその悲劇を味わっている。

そしてここでのカインの姿は、まさに人間その

ものである。神の自由な恵みの采配を認めることができず、弟への嫉妬に身を焦がし、「神に愛されていない」と、勝手に自分で間違った判断をしてしまう。顔を伏せ、「どうして私は選ばれない？」と問うこともせず、神との対話を拒絶してしまう。これこそが「正しくない」ことであり、非常に危険な状態である。罪はそんな彼を待ち伏せて、蹂躪する。罪を支配できずに、支配されてしまった人間が、こうして最初の殺人を犯す（私訳では、7節は「もしお前が正しくふるまおうとするならば、顔を上げなさい」であり、ここで神が求めておられる「正しいふるまい」とは、神との関係の中にとどまり続けることだと考える）。

神はこの殺人者に、あえて弟の所在をたずね、もう一度対話を求めるが、カインはますます心を閉ざしてシラを切る。そんな彼に、神は厳しい処罰を下す。それまで生活の基盤としてきた地の実りが与えられず、定着民が軽蔑する放浪者に転落せねばならない。これは最も厳しい裁きであった。カインは自分の罪の重さに嘆き、与えられた運命に恐怖した。それは神の「御顔から隠されて」、庇護のないままに罪の世界を行く恐怖であった。

しかし神は、カインを見放したわけではなかった。彼の死を望んではおられず、安全を保障するためにしるしをつけられる（刺青のようなものか？）。まるで「これは私の愛する者だ」と示すように。そこには神の憐れみがあふれている。「この者を殺すな。この者は罪の力に呑み込まれてしまった、私のできそこないの子だ……、でも誰にも手出しさせはしない。私の大切な子だ……」こういう神の声が聞こえてくる思いがするのは、私だけであろうか。

（坂井孝宏）

テキスト 創世記 4章1～16節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問21

〔単元のねらい〕

アダムとエバの罪は彼らの初めての子カインにも受け継がれた。弟アベルを殺したカインの罪に、わたしたちは慄然とする。わたしたちはおのおの、罪がいかに手ごわいものであるのかを知っている。しかしわたしたちは贖い主イエス・キリストを仰ぐことができる。いかなるときにもキリストを仰いで生きる。それこそが罪に勝利し、命を得る道であることを確かめたい。

「神さまを仰いで」

アダムとエバとの間に、ふたりの男の子が生まれました。お兄さんのほうはカイン、弟のほうはアベルと名づけられました。大きくなってカインは土を耕す人になり、アベルは羊飼いになりました。

あるとき、カインもアベルもともに、神さまにささげものをささげました。それぞれの仕事に応じてカインは土の実りを、アベルはよく肥えた羊をささげたのです。

このとき、神さまはアベルのささげものは受け入れられましたが、カインのささげものには目をとめられませんでした。なぜなのだろう、それでは不公平ではないかと思うかもしれませんね。そのことについてはさまざまに推測をする人々がありますが、聖書にははっきり書いていないのです。

ひとつだけ言えることは、カインはこのことをも受け入れるべきであったということです。神さまはなぜ弟のささげものを受け入れられたのに、自分のは受け入れられなかったのか。カインには納得ができなかったでしょう。でも、神さまのなさることにはまちがいありません。このことにも、神さまのお考えがきっとあったにちがいありません。ですから、カインはこの神さまのなさりかたをも受け入れるべきでした。神さまがわたしたちに求めておられることは、どんなときにも神さまに従い、神さまのみこころを受け止める信仰なのです。

けれどもカインはこのときに、激しく怒りました。このような判断をなさった神さまに怒りを燃やし、弟のアベルをねたみました。そしてアベルを野原に誘い、アベルの命を奪ってしまったのです。

アダムとエバがエデンの園で、神さまのみ言葉に背いて、禁じられていた木の実に手を伸ばしたとき、人類に罪が入ったことを学びましたね。なぜアダムとエバが木の実に手を伸ばしたのかを思い起こしてみましょう。それはサタンから、この木の実を食べてもあなたがたは決して死ぬことはない、それどころかあなたがた自身が神のようにになれるのだと誘惑されたからです。

罪とは何でしょうか。それは、神さまをさしおいて自分が神のようになろうとすることです。神さまよりも自分を正しいとすることです。

このときのカインもそうだったのです。神さまが弟のささげものは受け入れ、自分のささげものは受け入れられなかったことを、まちがったことだと考えたのです。そして、まちがったことをなさる神さまに対して怒りを燃やす自分は正しいと信じたのです。アダムとエバの罪が、確かに子どもカインにも受け継がれていたのですね。

わたしたち人間は神さまのみこころをきわめ尽くすことはできません。時には、神さまのなさることの意味がわからないということもあるでしょう。けれども、そのときにも神さまは正しいのです。神さまの正しさは、わたしたちの正しさをは

るかにこえています。そのことを信じて、どんなときにも神さまをあがめ、神さまに従っていくことが、わたしたち人間の道なのです。

実は神さまはカインがアベルを殺してしまうより先に、カインに警告のみ言葉を語ってくださいました。顔を上げなさい、との警告です。カインは神さまのみ前で、顔を伏せたままでした。自分の正しさにとらわれ、怒りに支配されているとき、わたしたちは顔を伏せます。顔を上げて、神さまを仰ぐことができないのです。神さまよりも自分のほうが正しいと思っているからです。けれどもそのようなときこそ、神さまはわたしたちに顔を上げよとおっしゃるのです。わたしを上げとおっしゃるのです。なぜなら神さまを仰ぐとき、わたしたちは暗い罪からときはなされるのだからです。

神さまはカインに、お前は戸口で待ち伏せている自分の罪を支配しなければならないとおっしゃいました。自分の罪を支配するとはどういうことでしょうか。自分の力で罪の誘惑とたたかって、追い払わなければならないということでしょうか。

そうではありません。わたしたちを罪から守ってくださるイエスさまのもとに逃れることです。罪の力は手ごわいので、わたしたちは自分の力でこれにうちかつことはできません。けれどもイエスさまを仰いで、イエスさまのみ前にへりくだるとき、罪に勝利する力をいただくことができるのです。

顔を上げて、イエスさまを仰ぎましょう。イエスさまはどのようなときにも、わたしたちとともにいてくださいます。そしてわたしたちを守ってくださるのです。
(木下裕也)

〔今週の暗唱聖句〕

詩編 46編2節

神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。
苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。

イエスさま...



ねらい：何か悪いことをしてしまいそうな時、神様に助けをくださいとお願いできる。

視覚教材：男の子の人形二つ。羊のぬいぐるみ（絵）や食物の絵など

【お話】

ケンくんにはおにいさんがいました。その名前はたかくんです。二人は大好きなお父さんの誕生日にプレゼントをしたいと思いつき、一生懸命準備をしました。でももしお父さんがたかくんのプレゼントだけを喜んだらケンくんはどう思うでしょう？ なぜ？ ぼくのはだめなの？ っていうか、くやしく思うかもしれません。二人は仲が悪くなってけんかをするかもしれません。

このお話と少し似た聖書のお話があります。アダムとエバを知っていますね。二人はカインとアベルという二人の子どもを生みました。やがて大きくなり、お兄さんのカインは畑で野菜や麦を育てる人、弟のアベルは羊のお世話をする人になりました。ふたりはそれぞれ神様にささげものをすることにしました。カインは畑で育てたものから、アベルは自分のためにとっておきたかった一番いい羊を神様にささげました。

さて神様はどちらのプレゼントを喜んだでしょう？ 神様はアベルのささげた羊を喜びました。アベルが神様を信じていて、持っている中で一番

に良いものをささげたのが神様にはわかったからです。カインはそのことに対してとてもおこりました。

その後、二人は野原に行き、なんとカインはアベルを殺してしまいました。神様はカインにたずねました。「弟のアベルはどこにいるんだい？」「知りません」カインはうそをついてしまいました。

神様はカインに対しておこって、カインはその後一つの場所に住むことができず、ずーっと旅をしなければいけなくなりました。

みんなもカインのように人に対しておこったり、何か悪いことをしてしまいそうになったりすることはありませんか？ その時は神様に助けをくださいとお願いしてください。神様は必ずアベルの様に正しいことができるように助けてくれます。

【工作】

ginagraham.com の two offerings を使用。

A4に two offerings をコピーし、色鉛筆で色を塗ってもらい、カインに植物の絵を書く、もしくはシールを貼ってもらい。アベルには羊の絵を書き、綿を貼る。



カイン アベル
2つのささげもの

そうせいき4しょう1～4せつをよみましょう。

1. エバがうんだ子どものなまえをいってください。

2. それぞれ、どんなしごとでしたか？

3. ふたりのささげものは、なんでしたか？

そうせいき4しょう5～8せつをよみましょう。

4. かみさまのはんのうは、どうでしたか？

5. そのことで、カインはどうおもいましたか？

6. 主はカインになんといわれましたか？

7. カインはそのあと、どんなことをしましたか？

そうせいき4しょう9～16せつをよみましょう。

8. 主はカインにどんなしつもんをしましたか？

9. かみさまは、カインをどのようにされましたか？

10. カインははらをたてたとき、どのようにすればよかったとおもいますか？

11. あなたは、かみさまをふこうへいだとおもったことがありますか？

創世記4章1～8節を読みましょう。

1. カインとアベルは、どんな仕事でしたか？
2. ふたりの捧げ物は何でしたか？
3. 神様の反応は、どうでしたか？
4. そのことで、カインはどう思いましたか？
5. 主はカインに何と言われましたか？
6. このとき主は、カインに何を期待しておられたと思いますか？
7. カインはその後、どんなことをしましたか？

創世記4章9～16節をよみましょう。

8. 主はカインにどんな質問をしましたか？
9. 主はカインをどのようにされましたか？
10. あなたは、神様を不公平な方だと思ったことがありますか？
11. そんなとき、あなたはどのようにふるまいますか？

1. 人の罪に心を痛められる神 (6:1～8)

ノアが五百歳になった頃 (5:32)、すでに人々は地上に増え広がり、自分の好むままに妻を得ていた。そこには主なる神の御心に従って生きる信仰に基づく生活はなかった。地上は人の悪で満ちていた。そのような人の状態をご覧になった主は、地上から人を拭い去ることをお決めになられた (6:7)。

「人の一生は百二十年となった」 (6:3)。洪水の後に生まれた人々の寿命が五百年弱になり (11:10以下)、バベルの塔の出来事の後、さらに二百年弱になる (11:19以下) ので、人の寿命のことと見る見方もあるが、通常、6章冒頭で主が洪水による裁きをお語りになってから、人間に対する猶予の期間として120年が与えられた、と見られている。

「ネフィリム」 (6:4) は、「落ちる、倒れる」という意味の言葉からきている。「他の人々と共通な水準からかけ離れた、ほしいままに凶暴な振舞いをする人々がいた」(カルヴァン)ということ、自分の力に頼り、神を畏れることのない思い上がった者たちのこと。

主は「地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた」 (6:6)。主は人のように自分のしたことを悔やんで嘆くということはない (民数23:19)。しかし、主は人のなす悪事に大変心を痛められた。主は人の罪を何とも思わないなどということはないのであって、罪を嫌われる。それを表わすために後悔し、心を痛められた、と表現される (エフェソ4:30)。

2. 神と共に歩んだノア (6:9～7:5)

「その世代の中で、ノアは神に従う無垢な人」 (6:9) であった (エゼキエル14:14参照)。「無垢な」という日本語では、「混じりものがない、汚れがない」という面が強調され、ノアが一心に主を求めた信仰の姿勢が示されている。ノアは、エノク (5:24) と同様「神と共に歩んだ」。神はエノクを

取られたが、ノアには大変な苦勞をして箱舟を造り、生き延びよう命じられる。神と共に歩む人生は多様である。神は時を支配しておられる。すべての肉なるものを滅ぼし絶やすことをノアに知らせ、箱舟の建造を命じられた。

「アンマ」は、肘から中指までの長さで、約45cm。それで計算すると箱舟は長さ約135m、幅約22.5m、高さ13.5m。

神はノアと契約を立てられた (6:18)。ノアは神に従う人であったが、一連の出来事はノアの正しさではなく、神の御心に基づいており、神の確かな契約に根拠がある。

神はノアに、妻子と嫁たちと共に箱舟に入り、その他すべて命あるものから一つがいつ箱舟に入れるよう命じられる (6:19)。さらに、清い動物と空の鳥については七つがいつ取るよう命じられる (7:3)。清い動物と清くない動物は、主が区別される (レビ記11章)。

3. 洪水 (7:6～24)

主が名指して選ばれた者だけが箱舟に入れる。これは再三記される (6:18, 7:7, 13)。他の人々は、「神が忍耐して待っておられたのに従わなかった」 (ペトロ前3:20)。

「主は、ノアの後ろで戸を閉ざされた」 (7:16)。箱舟の中と外は主が明確に区別しておられる。人がそれを開けることはできない。主イエスは、ご自身が再び来られる時のことを、ノアの時と同じだと言われ、目を覚ましているようにとお命じになった (マタイ24:37～39)。

神の前にはなほだしく墮落していたのは人間であったが、神は「地の表にいた生き物はすべて、ぬぐい去られた」 (7:23)。人の罪により大地に住むものも滅ぼされる。人が神の前に与えられた立場が非常に重い。「被造物は神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいる」 (ローマ8:19～22参照)。(久保田証一)

テキスト 創世記 6～7章
参照カテキズム 子どもカテキズム 問7～21

〔単元のねらい〕

最初の人間が神様に背いて以来、人間は、神様からますます離れ、自分勝手に生きようになっていった。そんな罪人であふれる大地を神様は大洪水によってぬぐわれることになったが、決して、無情な独裁者のように大地を裁かれたのでないことをおぼえたい。さらに、御自身の約束への忠実さから、ノアとその家族を選ばれて、大洪水から救われ、女の子孫へと続く血筋を保ってくださいましたことをおぼえたい。

「神さまといっしょに歩むノアさん」

愛する子どもたち、おはようございます。

今は梅雨。今日も、雨の日曜日になりました。先生が、みんなの頃は、梅雨と言えば、雨が、シトシト、ずっと降っていました。けれども、最近、雨がザーザー降ったかと思うと、すぐにカーッと晴れて、太陽が顔をのぞかせたりします。時にはバケツをひっくり返したような土砂降りの時もあります。そのため、川やドブが雨水であふれて、洪水になって、お家が流されたり、つかってしまうことがあります。けれども、何十日も、二十四時間、大雨なんてことは経験したことがありませんよね。ところが、今日の聖書には、昔々の大昔、雨が、四十日四十夜も降り続いて(7:12)、大洪水が百五十日も続いた(7:24)と書き留められているのです。

さて、神さまに造られたアダムさんとエバさんが、罪を犯して、神さまなんか知らない！ になってしまったから、何年ぐらい経ったのでしょうか？ 人間が増えて、大地のいろんな所に住むようになりました。ところが、人間は、神さまなんか知らない！ という罪の状態ですから、人間が増えて、大地のあちこちにひろがって行くということは、それだけ、人間の罪が増えて、罪が大地を覆って行くということでもありました。その人間の罪深い行いの一つが、男の人が自分で選んだ女の人を妻にすることでした。

でも、結婚というのは、出会ったお互い同士が

好きになって、この人を私の夫にしよう、この人を私の妻にしようと、自分で選んでいっしょになるわけだから、別に悪いことではないのでは？ と思うかも知れません。だけど、この時、人々は、神さまを抜きにして、結婚していたんだ。この神さま抜きが大問題なんです。それで、この神さま抜きは、何も、結婚だけではなかったわけです。何をするにも、神さまなんか知らない！ 自分一人で、何でも決めたり、したりできるんだ！ そういう態度だったのです。

神さまは、御自身に似せて人間を造られ、愛されました。それは、人間が罪を犯してからもそうでした。ですから、人々が、そんな状態になってしまっていたので、神さまは、とても心を痛められました。それで、神さまは、心に痛みをおぼえられながら、大地から、人間の罪とその影響を大洪水によってぬぐうことになったのです。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する」(6:7)。

しかし、神さまは、罪深い全ての人間、或いは、全ての生き物を大地からぬぐってしまわれることが御心ではありませんでした。神さまのお約束を思い出しましょう。「お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に／わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き／お前は彼のかかとを砕く」(創3:15)。

ところで、神さまは、どうして、信頼すること

ができるのでしょうか。「信仰」や「信頼」の“信”という字を辞書で調べると、信じるというこちら側のことよりも前に、信じる相手側のこと、つまり、「約束にそむかないように行動する」という意味が第一にあげられています。神さまこそ、まさにお約束通りに行動なさるお方です。だからこそ、心から信頼できるのです。

神さまは、人間の中の一人、ノアさんを御心に留められました(6:8)。このノアさんのことが、こう言われています。「その世代の中で、ノアは神に従う無垢な人であった。ノアは神と共に歩んだ」(6:9)。ノアさんは、お約束に忠実な神さまに信頼し従って生活していたのです。それなら、ノアさんがそうだったからこそ、神さまは、ノアさんに御心を留められたのでしょうか。いいえ、ノアさんも、罪人の一人でした。しかし、憐れみ豊かな神さまは、御心のままに、そんな罪人の一人、ノアさんを選ばれたのでした。「しかし、ノアは主の好意を得た」(6:8)。まず、神さまが、ノアさんを選ばれ、彼と一しょに歩もうと決められたのです。だからこそ、ノアさんは、神さまに信頼し従って生活できたのです。神さまといっしょに歩めたのです。

神さまは、ノアさんに箱舟を造るようにお命じになりました(6:14～16)。みんなに馴染みのない、「アンマ」という単位が使われています。約45センチです。それで、メートルに直すと、箱舟は、長さが約140メートル、幅が約23メートル、高さが約14メートル。大きなビルを横にした感じでしょうか。神さまは、かなり細かい指示を出されました。さらに神さまは、箱舟には、奥さんと子どものセムさん、ハムさん、ヤフェトさんとそれぞれの奥さんたち、そして、生き物のオスとメス、ワンペアーずつ入れなさいとお命じになりました(6:18～20, 7:2～3)。神さまのご命令は本当に細かいものでしたが、ノアさんは、全部、神さまがおっしゃった通りにしました(6:22)。このように神さまは、とても細かいご命令を出されました

が、それは、神さまが、ノアさん一家を大洪水から救われるために、本当にきめ細かく御心をかけておこなってくださったということです。救いのために必要なことは全て、神さまがおこなってくださったということです。ですから、ノアさんは、神さまがおっしゃるままにするだけで、大洪水から救われるのです。

雨が降り始めて、洪水が起こり始める中で、完成した箱舟の中へと大移動が行われました。神さまがお命じになられたように、全ての生き物ワンペアーが入ると、神さまが箱舟の戸を閉ざされました(7:16)。ここからも、神さまが、救いのために必要なことを全ておこなってくださったのだと知ることができます。そして、神さまの予告通りに、雨が、四十日四十夜も降り続き、大洪水が百五十日も続きました。水の勢いがすごい時には、高い山さえ、すっぽりと覆われるぐらいでした。地球の表面がまさに海のようになってしまうと、ノアさんの箱舟がブカブカ浮いているような状態でした(7:17～20)。こうして、地上の生き物は、人はもちろんですが、家畜、這うもの、空の鳥に至るまで、大地からぬぐい去られたのです。しかし、神さまがおっしゃるままに、箱舟に入ったノアさん一家と、全ての生き物ワンペアーだけは、救われたのでした。神さまといっしょに歩むこと、それは、ノアさんのように、神さまに信頼し従って生活することです。特にノアさんは、神さまがおっしゃる通りにすることで、神さまなんか知らない！ という罪への裁きとしての大洪水から救われました。今のみんなにとって必要なのは、やはり、神さまがおっしゃる通りに、神さまがお与えくださった最後の裁きからの救い主イエスさまを信じること、イエスさまに信頼し従うことです。神さまはノアさん一家を大洪水から救われるため、その救いに必要なことを全ておこなってくださったように、最後の裁きからのみんなの救いのために必要な全てことも、イエスさまによっておこなってくださったのです。(長谷川 潤)

[今週の暗唱聖句] 創世記 6章9節

ノアは神と共に歩んだ。

ねらい：ノアさんは神様の言葉にいつも忠実に従いました。子ども達も神様の言葉にも従うことができるようになる。

視覚教材：紙芝居、powerpoint など

【お話】

アダムとエバにカインが生まれ、カインにまた子どもが生まれ、その子どもにまた子どもが生まれ、地球はたくさんの人でいっぱいになりました。でもみんな神様の事を忘れて、悪い事ばかりしていました。あんなにすばらしくて、大好きだった世界が変わっていくのを見て、神様はとっても悲しまれていました。

でも一人神様の事をとても愛している人がいました。彼の名前はノアさんと言って、いつも神様がお話になることをよく聞き、ノアも神様にお話しました。

ある日神様がノアにいいました。「ノア。この世界の人たちはみんな愛し合うのではなく、憎しみあっている。他の人を傷つけたりひどいことをしている。どうにかしてやめさせなければ」

神様はノアに「箱舟を造りなさい。嵐が来る。あなたとあなとの家族に十分な食べ物をつみなさい」神様は箱舟の造り方さえ教えてくれました。

ノアは大きな箱舟をつくりました。近くに住んでいる人がノアの箱舟をみてバカにしたとしてもノアは気にしません。「あらしが来るって？ こんないい天気が続いているのに？」

とうとう箱舟が出来上がりました。神様は「み

んな早く船にのりなさい」ノアの家族と動物たちもみんな船にのり、神様がしっかりとドアを閉めました。そして雨が降り出しました。何時間、何日も、昼も夜もそして40日降り続けました。大変なことになりました。水は住んでいた場所も人もすべて流し、どんな高い木や山さえも水の中に入ってしまった。箱舟の中にいるノアさんの家族と動物たちだけが助かりました。神様がおけるとすごいことが起きますね。

ノアさんが助かったのは何ででしょう？ ノアさんが助かるためにいろいろと考えましたか？
いいえ。ノアさんは神様に言われる通りにただでして。神様が全部してくださいました。

神様は私たちの事を本当に大切に思ってくださいます。ノアさんのように神様のいう事を聞いていると必ず守ってくださいます。

【工作】

青の画用紙に、アイスの棒を並べ船の形を造る。船の下は草原でもいいし、水の上の設定でもいいと思います。船の周りに動物のシールを貼ったり、雲を綿で貼る、または折り紙を雨の形に切って、貼り付けて貼ってもいいと思います。



そうせいき6しょう5～10せつをよみましょう。

1. 主はなぜ心をいためられたのですか？

2. ノアはどんな人ですか？

そうせいき6しょう11～13せつをよみましょう。

3. そのじだいのほかのひとびとは、ノアとどちらがいましたか？

4. かみさまは、ノアに、なにをなさるとおっしゃいましたか？

そうせいき6しょう14～22せつをよみましょう。

5. 主なるかみさまは、ちじょうになにをおこなうことにされましたか？

6. ノアは、なにをするようにめいじられましたか？

7. ノアは、かみさまのごめいれいに、どのようにはんのうしましたか？

そうせいき7しょうをよみましょう。

8. ちじょうになにがおこりましたか？

9. あめはどんなふうにふりましたか？

創世記6章5～13節を読みましょう。

1. 主はなぜ心を痛められたのですか？
2. ノアはどんな人ですか？
3. その時代の他の人々は、ノアとどう違いましたか？
4. 神様は、ノアに、何をなさるとおっしゃいましたか？

創世記6章14～22節を読みましょう。

5. 主なる神様は、地上に何を行うことにされましたか？
6. ノアは、何をするように命じられましたか？
7. ノアは、神様の御命令に、どのように反応しましたか？

創世記7章を読みましょう。

8. 地上に何が起こりましたか？
9. 今日の聖書の箇所から、神様とノアの関係はどうだと思いましたか？

■案内者のために■

今回と次回は聖書箇所が長いので、分級の時間に合わせて工夫してください。
話の中心がノアよりも神様に置かれるように気をつけるとよいでしょう。

1. 洪水の終わり (8:1～22)

「御心に留め」(8:1)。神が箱舟の中のすべてのものに御心を留めてくださっていたので、何ヶ月のもの間、無事に守られた。箱舟の頑丈さや堅固さによりどこがあるのではない。

「深淵の源と天の窓が閉じられた」(8:2)。降水量がどれほどかという、今日の自然科学的な観点から見るのではなく、神によって雨が降り洪水が起こったことを示す、聖書が記された当時の詩的表現と見ればよい。

「第七の月の十七日」、「第十の月の一日」(8:4, 5)。ノアの生涯の第六百年の七ヶ月目と十ヶ月目。「百五十日の後」は、雨が降り始めた第二の月から数えたもの。箱舟はアララト山の上に留まり、その後約二ヶ月半で山々の頂が現れた。アララト山(山々)は、通説では現在のアルメニヤ地方の一つの峰とされるが諸説がある。

ノアは鳥、鳩を順に放って水が引いたかどうかを調べたが、神が箱舟から出るようにお命じになるまでは出なかった。ノアの六百一歳の第二の月の二十七日に地はすっかり乾いた。雨の降り始めから約一年経過。ノアは外へ出てからまず祭壇を築き、主を礼拝した。清い動物と鳥とは七つがいつづ取っていたので、その中から焼き尽くす献げ物として主にささげた。

洪水が起こって箱舟の中にいたもの以外はみな滅ばされたが、なお、洪水以前との連続性がある。人が心に思うことは幼いときから悪い。その理由によりこのたびの洪水によるような仕方で生き物を打つことを主はなさらない(9:11)。「地が続くかぎり」(8:22)この地は保たれ、季節も夜昼も繰り返されるが、それを終わらせる時の来ことも暗示される(ペトロ二3:5～7)。

2. 神の祝福 (9:1～7)

「産めよ、増えよ、地に満ちよ」(9:1)。神は天地創造の時と同じことを言われた(1:28)。動いている命あるものはみな人の食糧としてよいと神

は言われた。しかし「血」についてはその重要性が教えられる(レビ17:10～14参照)。人の血は特別で、その代価は命である。人が神にかたどって造られたからである(1:26, 27)。他の動物はそれぞれに地が生み出すように神は命じられたが(1:24)、人には神のかたちが与えられた。神と言葉により対話をする者、神に似たものとして人は造られた。人は「神に僅かに劣る」(詩編8:6)とまで言われる。人が産み、増え、地に満ちることは神の祝福そのものである。しかし、命である血が流されることについて、賠償には命が要求されることを人は忘れてはならない。

3. 虹の契約 (9:8～17)

神は、ノアたちと、後に続く子孫と契約を立てられた。ノアの時代だけでなく、全世界が、地の続く限りこの神の契約の下にある。局地的な洪水は世界中でしばしば起こっているが、全世界に及ぶ洪水によって神が地を滅ぼすことは二度とない。

神が洪水によって人と生き物を打たれたこと、再度産めよ、増えよ、という御言葉が与えられたことによって、この世界に住む人間がどんなに悪くても、神の御心によってこの世界が保たれていることが示されている(すべての被造物の保持。ウェストミンスター信仰告白第5章1節参照)。

その契約のしるしとして神は虹を雲の中に置かれた。これは「永遠の契約」であり、神が一方的に人とすべての生き物、大地に対してお立てになった約束である。人以外のものは、神の言葉を理解するわけではないし、人も幼い時から心に思うことは悪いのである。それゆえ、この契約は神の一方的な、この世界に対する御心の宣言として与えられている。

これによって、神の救いの御業が歴史の中で展開してゆくための舞台が、地の続く限りは保たれていくことが明らかとなった。(久保田証一)

テキスト 創世記 8章1節～9章17節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問1～2

〔単元のねらい〕

梅雨の季節である。この季節、よく見る虹に、どのような救済史的な意味があるのかを教えたい。そして、御自身の約束に忠実な神様へと信頼して生きることを勧めたい。さらに神様が、罪人に対して、いかに憐れみ豊かであるかも教えて、今が、罪を犯し続ける私たちにとって、どのように生きる時なのかを教えたい。できれば、信仰告白をしていない子どもたちに対しても、どうする時なのかを教えて、信仰告白・受洗への勧めをしたい。

「あわれみ豊かな神さまに信頼しよう」

愛する子どもたち、おはようございます。

今は梅雨の季節で、雨や曇り空の日が多いけれど、先生が、いつも、この季節になると、とても楽しみにしていることがあります。それは、雨が降っている時、雲の間から太陽が顔をちらっとのぞかせることがあると、お空にかかるもの、そう、虹です。虹がどこかにかかっていないかなあと、高い所に登って、辺りを見回すのですが、虹を見つけると、心の中が曇っている時なんか、何だか、心が明るくなるのを感じます。虹を見つけて、そんな気持ちになるのは、先生だけでしょうか？

先週は、神さまが、ノアさん一家を大洪水から救ってくださったお話をしました。今日は、その続きです。雨による水の勢いは、百五十日も続きました。その後、神さまは、風を吹かせられ、雨が止むようになさいました。すると、地上から、だんだん、お水がひいて行きました。そして、ノアさんの箱舟は、アララトというお山の上で止まりました（以上8:1～5）。ノアさんは、地上が元の状態に戻るまで、箱舟の中にずっといて、中から様子確かめることをしました。それで、最初は、からすを飛ばしました。だけど、からすは出たり入ったりしました。まだ、箱舟から出る時ではありません。七日経って、今度は、はとを飛ばしました。だけど、そのはとも戻って来ました。やはり、まだ、箱舟から出る時ではありません。さらに七日経って、もう一度、はとを飛ばしまし

た。そうしたら、今度は、オリーブの葉っぱをくわえて、戻って来ました。水がひいて、地面にオリーブの木が生えている証拠です。しかし、ノアさんは、がまんしました。もう七日経って、はとを飛ばしました。すると、もう、はとは帰って来ませんでした。それで、ノアさんは、ついに箱舟から出る時が来たことを知りました（以上8:6～12）。しかし、ノアさんは、自分の判断でなく、やはり、神さまがおっしゃる通りにしました。「さあ、あなたもあなたの妻も、息子も嫁も、皆一緒に箱舟から出なさい。すべて肉なるもののうちからあなたのもとに來たすべての動物、鳥も家畜も地を這うものも一緒に連れ出し、地に群がり、地上で子を産み、増えるようにしなさい」（8:16,17）。

ノアさんは、箱舟を出ると、さっそく、祭壇をつくって、そこで、神さまを礼拝しました。大洪水から救ってくださった神さまに感謝、ありがたいの礼拝をおさげしたのです。すると、神さまは、ノアさんとお約束くださいました。「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる。あなたたちと共にいるすべての生き物、またあなたたちと共にいる鳥や家畜や地のすべての獣など、箱舟から出たすべてのもののみならず、地のすべての獣と契約を立てる。わたしがあなたたちと契約を立てたならば、二度と洪水によって肉なるものがことごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない」

(9:9～11)。

これは、今後、神さまが大雨による大洪水を起こされることは決してないというお約束ではありません。ノアさんの時のような大洪水、高い山さえ、すっぱりと覆われるぐらいの大洪水によって、地上を滅ぼすようなことは、二度とないというお約束なのです。それで、このお約束が確かであることの目に見えるしるしとして、虹をお与えになると、神さまはおっしゃいました (9:14)。ですから、お空に虹がかかった時、私たち、ほくたちは、ノアさんを通じて人間にお与えくださった、このお約束を思い出しましょう。虹を見ながら、特にその神さまのお約束が確かなことを思い出しましょう。神さまは、ご自分がなさったお約束をご自分から破るようなお方ではありません。先週も、お話ししたように、神さまこそ、まさにお約束通りに行動なさるお方でいらっしゃいます。だからこそ、心から信頼できるのです。

それで、その神さまがこうおっしゃたことを心に留めましょう。第8章に戻りますが、神さまはこうおっしゃいました。「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ。わたしは、この度したように生き物をことごとく打つことは、二度とすまい」 (8:21)。このように神さまがおっしゃる通り、今でも、人が心に思うことは悪いのです。神さまなんか知らない！ 神さまなんか知らない！ という思いなのです。どんなにかわいい赤ちゃんだって、そうなのです。神さまとの関係では、罪人なのです。だけど、そんな人間でいっぱい大地だけれども、ノアの時のような大洪水によって大地

をぬぐうことはすまいとお約束くださったのです。そして、今、神さまは、このお約束を守ってくださるのです。

しかし、続けて、こうおっしゃったことにも心を留めましょう。「地の続くかぎり、種蒔きも刈り入れも／寒さも暑さも、夏も冬も／昼も夜も、やむことはない」 (8:22)。「地の続くかぎり」とあります。やがて、地が終わる時が来ることが示されています。最後の裁き（最後の審判）の時です。この時は、ノアの時のような大洪水ではなく、イエスさまご自身が裁きを行われ、大地から罪をぬぐわれるのです。そういう時を神さまは必ずお与えくださいます。その時まで、神さまは、たとえば、大地が、心に悪いことを思う人でいっぱいであつたとしても、忍耐してくださるのです。そして、この大地に住むご自分の子どもたちが、悔い改めて、ご自分に立ち帰って来るのを待ってくださるのです (ペトロ二3:9)。

私たち、ほくたちは、イエスさまを信じる信仰を与えられていても、神さまなんか知らない！ という悪い思いが起こって、つい、神さまに背中を向けて、神さまから離れてしまいます。しかし、そんな時は、恐れることなく、神さまに立ち帰りましょう。神さまは、そんな私たち、ほくたちの罪を赦すためにこそ、愛する独り子イエスさまに私たち、ほくたちの罪を全部背負わせて、私たち、ほくたちの代わりに、イエスさまを十字架で裁いてくださったのです。罪人に対して本当に憐れみ豊かな神さまに信頼して、神さまのみもとに立ち帰って、赦しをいただきましょう。(長谷川 潤)

〔今週の暗唱聖句〕

創世記 8章21節

人に対して大地を呪うことは二度とすまい。

人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ。



ねらい：この世界を二度と滅ぼすかとはしないと
約束して下さった神様の愛と哀れみに感謝
する。

視覚教材：虹の写真、紙芝居など

【お話】

みんなは虹を見たことがあるかな？ 雨が降った後に、大きな虹が見れたらうれしいね。先週お話をしたノアさんにも神様はある約束のしるしとして大きな虹を見せてくださいました。今日はそのお話をしたいと思います。

ノアさん達や動物たちが箱船に乗った後、雨が沢山降りました。40日も降り続いて大雨になり何もかもなくなってしまいました。助かったのはノアさん達だけです。

雨がやみ、太陽が出て、水も乾いてきました。ノアさん達の船はやまのってっぺんにありました。ノアは周りの様子を知るために、ハトを飛ばしました。まだ地面は見つからないのでハトは箱船に帰ってきました。二度目にハトを飛ばすと葉っぱをくわえて戻ってきました。ようやく土地が乾いて、木が成長していることがわかりました。

ノア達はようやく船から降りることができました。まずノアは何をしたと思うかな？

ノアは何よりも、神様を礼拝することをしまし

た。ずっと一緒に居て守ってくださってありがとうございましたという気持ちを表しなかったのです。

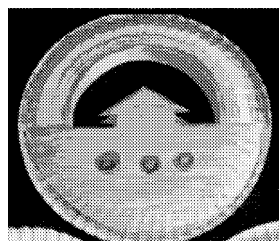
そして神様が最初にしたことは、ノアに新しく約束をして下さることでした。もう二度と界をボロボロにこわしたりしないよ。そして大きな虹を見せてくださいました。

でも今でも悪い心を持った人はたくさんいます。そして世界を壊したり、人を傷つけたり。

そんなこの世をもう二度とぼろぼろにこわさないために、神様はすばらしい計画を立ててくださいました。それはイエス様をこの世に送ってください、私たちと一緒に居てくださるという事です。

【工作】

紙皿に船と虹をかたどって、ハサミで切る。子ども達に虹や船などの絵を自由に書いてもらい、色鉛筆やペンで色をつける。虹の部分に紙やモールを貼ったりしてもいいと思います。



幼稚科の工夫 旧約聖書とイエス様

子ども達は一つ一つのお話が理解できたとしても、旧約聖書とイエス様の誕生のつながりなどを歴史的に、預言の事なども含め理解することは難しい事と思います。そのため私達の教会でも旧約聖書のお話の後にもイエス様の存在を伝える事を大切にしています。

参考図書

- ・ジーザスバイブルストーリー（いのちのことば社）
- ・Unwrapping the Greatest Gift Voskamp Ann 著

そうせいき8しょう1～5せつをよみましょう。

1. かみさまは、はこぶねのなかにいたノアとどうぶつたちをどうおもっておられましたか？

2. あめはどうなりましたか？

そうせいき8しょう6～12せつをよみましょう。

3. ノアはどんなほうほうで、そどのようなすをたしかめましたか？

そうせいき8しょう13～19せつをよみましょう。

4. ノアはいつ、はこぶねからでましたか？ そのことから、ノアがどんなひとだとおもいますか？

そうせいき8しょう20～22せつをよみましょう。

5. はこぶねからでたあと、ノアはなにをしましたか？

6. かみさまは、そのとき、どうおもわれましたか？

そうせいき9しょう1～17せつをよみましょう。

7. かみさまは、ノアとしそんと、何をたてるとおっしゃいましたか？

8. かみさまとノアのけいやくのしるしはなんですか？

創世記8章1～5節を読みましょう。

1. 神様は、箱舟の中にいたノアと動物たちをどう思っておられましたか？

2. 雨はどうなりましたか？

創世記8章6～19節を読みましょう。

3. ノアはどんな方法で、外の様子確かめましたか？

4. ノアはいつ、箱舟から出ましたか？ そのことから、ノアがどんな人だと思いますか？

創世記8章20～22節を読みましょう。

5. 箱舟から出たあと、ノアは何をしましたか？

6. 神様は、そのとき、どう思われましたか？

創世記9章1～17節を読みましょう。

7. 神様は、ノアと息子たちにどんな祝福の言葉をかけられましたか？

8. 神様とノアの契約のしるしは何ですか？

■案内者のために■

準備の際、創世記1章を合わせて読むことをお勧めします。

2017年7～9月カリキュラム（第66号）

—救済史に基づく一年サイクルカリキュラムの一年目—

月 日 教会暦・行事	主 題	聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句
		単 元 の 目 標	
7月2日	バベルの塔	創世記11:1～9	コリントー10:31
		自らを神とする人の罪の悲惨と、それを裁き、人の罪を抑制される神を知ろう	
7月9日	アブラハムの召命	創世記12:1～9	創世記12:4a
		神の選びと召しに従ったアブラハム。神に召されて歩む幸いを知ろう	
7月16日	アブラハムへの約束	創世記15:1～21	ヨハネ3:16
		神の約束に信頼して生きたアブラハム。約束に基づいて生きる生き方を知ろう	
7月23日	イサクの誕生	創世記21:1～8	ローマ9:8
		神の約束と憐れみの中でイサク（笑い）が与えられた。神の祝福を知ろう	
7月30日	イサクを献げる	創世記22:1～19	ヘブライ12:5, 6
		アブラハムの信仰の姿を学び、備えておられる神の恵みを知ろう	
8月6日	ヤコブとエサウ	創世記27:1～40	ヘブライ12:14
		人の企みを超えて神がみわざを成し遂げておられる。神をはめたたえよう	
8月13日 平和主日	売られたヨセフ	創世記37:1～36	コリント二1:20
		ヨセフ物語をとおして、神の歴史支配を確信する信仰、摂理の信仰に立とう	
8月20日	総理大臣になったヨセフ	創世記41:1～44	創世記39:2
		苦難の中でも主が共にいてくださる。主が共にいてくださる幸いを知ろう	
8月27日	摂理の主の勝利	創世記50:15～21	創世記50:20
		人の悪を善へと造りかえる主のみわざを学び、摂理の主を信じる信仰を養おう	
9月3日	モーセの誕生	出エジプト1:22～2:10	ローマ8:28
		主なる神の不思議な導きをとおして、歴史を支配しておられる主を仰ごう	
9月10日	モーセの召命	出エジプト3:1～22	マラキ3:6a
		契約に真実である神が救いの土台である。わたしたちも真実に神に応えよう	
9月17日	十の災いと過ぎ越し	出エジプト7:8～24	出エジプト7:5
		十の災いのみわざをとおして、ご自身の民を購い出す神をおそれ、あがめよう	
9月24日	葦の海を渡る	出エジプト14章	出エジプト14:14
		神ご自身がたたかって、勝利された。神の大きなみわざをはめたたえよう	

2017年度 年間カリキュラム（第65～68号）

—救済史に基づく一年サイクル—

（2017年4月～2018年3月）

	月 日	教会暦・行事	主題	子どもカテキズム
2017年	4月2日		創造主なる神	創世記1:1～5
65号	4月9日	受難週	十字架のキリスト	マタイ27:45～56
	4月16日	復活祭	復活のキリスト	マタイ28:1～10
	4月23日		被造物の祝福	創世記1:6～25
	4月30日		神の栄光の舞台	創世記1:31～2:3
	5月7日		人間の創造と人生の目的	創世記1:26～31
	5月14日		男と女の創造	創世記2:18～25
	5月21日		罪と墮落	創世記3:1～13
	5月28日		救いの約束（原福音）	創世記3:14～24
	6月4日	聖霊降臨祭	聖霊降臨と教会	ヨハネ20:19～23
	6月11日		カインとアベル	創世記4:1～16
	6月18日		ノアの箱舟	創世記6～7章
	6月25日		ノアの契約	創世記8:1～9:17
66号	7月2日		バベルの塔	創世記11:1～9
	7月9日		アブラハムの召命	創世記12:1～9
	7月16日		アブラハムへの約束	創世記15:1～21
	7月23日		イサクの誕生	創世記21:1～8
	7月30日		イサクを献げる	創世記22:1～19
	8月6日		ヤコブとエサウ	創世記27:1～40
	8月13日	平和主日	売られたヨセフ	創世記37:1～36
	8月20日		総理大臣になったヨセフ	創世記41:1～44
	8月27日		摂理の主の勝利	創世記50:15～21
	9月3日		モーセの誕生	出エジプト1:22～2:10
	9月10日		モーセの召命	出エジプト3:1～22
	9月17日		十の災いと過ぎ越し	出エジプト7:8～24
	9月24日		葦の海を渡る	出エジプト14章

年・号	月 日	教会暦・行事	主題	子どもカテキズム
67号	10月1日		天からのパン	出エジプト16章
	10月8日		十戒を授かる	出エジプト19:1～20:21
	10月15日		金の子牛の事件	出エジプト32章
	10月22日		幕屋の建設	出エジプト40章
	10月29日		荒れ野の放浪	民数記13～14章
	11月5日		ヨルダン川を渡る	ヨシュア3章
	11月12日		約束の地カナンへ	ヨシュア6章
	11月19日		ギデオンの召命	士師記6章
	11月26日		ギデオンの精鋭	士師記7章
	12月3日		ささげられるサムソン	士師記13章
	12月10日		サムソンの祈り	士師記16章
	12月17日	アドベント	待降節・捕囚からの解放	イザヤ40:1～11
	12月24日	降誕祭	降誕祭・主イエスの降誕	ルカ2:8～21
	12月31日		サムエルの召命	サムエル上3章
2018年 68号	1月7日		サウルの召命	サムエル上9～10章
	1月14日		ダビデの召命	サムエル上16章
	1月21日		ダビデへの契約	サムエル下7章
	1月28日		ソロモンの知恵	列王記上3:4～15
	2月4日		ソロモンの偶像礼拝	列王記上11:1～13
	2月11日		バアルと対決するエリヤ	列王記上18:16～45
	2月18日		バビロン捕囚	歴代誌下36:11～23
	2月25日		回復の約束	イザヤ35章
	3月4日		解放の告知	イザヤ61:1～4
	3月11日		新しい契約	エレミヤ31:31～34
	3月18日		主の日が来る	マラキ3:19～24
	3月25日	受難週	十字架のキリスト	ヨハネ19:17～30

子どもと親のカテキズム

神さまと共に歩む道

日本キリスト改革派教会大会教育委員会

『子どもと親のカテキズム』の目指すもの ～「あとかき」より～

このカテキズムは、契約の子どもたちの信仰継承の前進、地域の子ども伝道の進展、成人求道者の洗礼教育、現代を生きるキリスト者の信仰の確立を願って、作成されました。

どうか父なる神が、ご自分の子どもたちをこのカテキズムを用いて主イエス・キリストの福音の真理の内に養ってくださり、聖霊の交わりのうちに親子の信仰の対話を祝福して信仰を告白する喜びに導き、教会と世界に感謝をもって仕える民として成長させてくださいますように。

カテキズム作成のために多大な労苦を払われた前大会教育委員会小委員会の牧田吉和委員、三川栄二委員、相馬伸郎委員に感謝しつつ、今ここに『子どもと親のカテキズム』をお届けします。

2014年10月

日本キリスト改革派教会大会教育委員会



2014年10月15日発売

四六判・並製・64頁

ISBN978-4-7642-6454-0

販売価格 **400**円（税込）

書店での販売価格は540円（税込）ですが、大会教育委員会を通じての販売価格は400円（税込）です。

申込先 E-mail shintoko_ch_pastor@yahoo.co.jp 長田詠喜

振込先 01620-8-39213 長田詠喜

※『子どもカテキズム』とは申込先が異なりますので、ご注意ください。

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 FAX03-5250-5107
HPをご利用ください。 <http://www.kyobunkwan.co.jp/publishing/> 【呈・図書目録】

大会教育委員会

「教会学校教案誌」

継続発行のための

自由募金のお願い

いつも弊誌のためにお祈りとご購読をもってお支え下さいます事を、心から感謝するとともに御礼を申し上げます。

第62号に引き続き第63号の発行も大幅に遅れ、読者の皆様には多大なるご迷惑をおかけいたしました事、深くお詫び申し上げます。編集実務責任者の突然の離職によるものとはいえ、私どもの責任を痛切に覚えさせられております。

さらに、中部中会から大会教育委員会への移管後、大会の財務状況の厳しさに鑑み、また創刊時の志に基づき、できる限り有志の皆様の「募金」という形でのご支援を願ってまいりました。しかしながら、現状は（裏ページご参照）、極めて厳しい状況に陥っております。

第70回定期大会で「50万円」の募金願いは満場一致で受け入れて頂きました。教会また個人としてご協力を伏してお願い致します。 *Soli Deo Gloria!*

※ 購読申し込みは、辻 幸宏（大垣伝道所：yukihito.tsuji@nifty.com

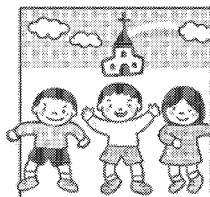
〒503-0996 岐阜県大垣市島町 283 Tel/Fax:0584-91-3538 ）

お問い合わせは、相馬伸郎（iwanoue@me.ccnw.ne.jp）まで。

目標金額 50万円

送金先 郵便振替 伊藤治郎

00890-2-148183



※振替通信欄に、「自由募金」とご明記くださいませ。

〈執筆者・編集者よりひとこと〉

●年度の教案誌は、過去掲載させていただいた説教展開例を再掲させていただきます。分級展開例などは新たに作成しましたので、新しい学びにご利用ください。（長田詠喜）

〈あとがき〉

●教会学校訪問は上福岡教会をご紹介いただきました。関係の皆様へ感謝します。

●日本キリスト教会の大会教育委員会から同教会の発行する教案誌『日曜学校』誌についてご紹介をいただきました。同様の課題を持ち取り組んでおられる友好教会の働きから学ぶところは大きいと思います。今後ともご期待ください。

●ご好評いただきました望月鈴子姉の「絵本に心を動かされて」は先月で終了いたしました。長い間豊かな絵本の世界をご紹介くださりありがとうございました。

●保田広輝兄の連載は今月休載しました。ご了承

ください。

●このところ分級展開例は、小学科下級と中学科だけでしたが、今号から幼稚科を掲載します。小さな頃から教会とみ言葉に親しむことの大切さを味わう機会となれば幸いです。執筆は徳島教会信徒の寺内実和姉です。

●今号も、IBUKI の中村未生兄、高橋乃亜兄が表紙デザインのためにご奉仕くださいました。感謝いたします。

●『教会学校教案誌』をぜひご購読下さい。バックナンバーもあります。第44号までは一部500円で販売しています。（一部品切はご容赦下さい）

●教案誌購読受付と送付は大垣伝道所の辻幸宏教師が担当しています。お求めは下記までご連絡下さい。

大垣伝道所 辻幸宏

〒503-0996 大垣市島町283

Tel/Fax. 0584-91-3538

E-mail:yukihiro.tsuji@nifty.ne.jp

☆ 執 筆 者 一 覧 ☆

まえがき	聖書黙想・説教展開例
牧野信成（西神教会牧師）	相馬伸郎（名古屋岩の上教会牧師）
巻頭説教	後藤公子（中津川教会信徒）
吉田崇（坂出飯山教会牧師）	弓矢健児（千里山教会牧師）
教会学校訪問	牧野信成（西神教会牧師）
門脇献一（上福岡教会信徒）	坂井孝宏（勝田台教会牧師）
日本キリスト教会『日曜学校』誌について	久保田証一（尾張旭伝道所宣教教師）
藤田英夫（日本キリスト教会大会教育委員・大阪姫松教会牧師）	分級展開例
教会・国家・平和・人権	寺内実和（徳島教会信徒）
木下裕也（名古屋教会牧師）	島野美佳子（坂戸教会所属新潟伝道所信徒）
イスラエルの歴史と信仰	愛智 愛（新座志木教会信徒）
赤石純也（伊丹教会牧師）	イラスト作画
	表紙 中村未生（春日井教会信徒・IBUKI）
	高橋乃亜（湘南恩寵教会信徒・IBUKI）
	本文 岡野美佳（青葉台キリスト教会信徒）

☆ 編 集 部 ☆

相馬伸郎（長）	名古屋岩の上教会牧師・大会教育委員会
吉田 崇	坂出飯山教会牧師・大会教育委員会
牧野信成	西神教会牧師・大会教育委員会
宮崎契一	奈良伝道所宣教教師・大会教育委員会
長田詠喜	新所沢伝道所宣教教師・大会教育委員会
木下裕也	名古屋教会牧師
辻 幸宏	大垣伝道所協力牧師
伊藤治郎	四日市教会長老

日本キリスト改革派教会 大会教育委員会『教会学校教案誌』
2017年4・5・6月号（季刊）
第65号
2017年3月1日発行

発行	日本キリスト改革派教会 大会教育委員会
発行所	日本キリスト改革派教会 大会教育委員会 名古屋岩の上教会 牧師 相馬伸郎 〒458-0021 愛知県名古屋市緑区滝の水2-2012 Tel/Fax. 052-895-6701
郵便振替口座	00890-2-148183「伊藤治郎」
編集・印刷	株式会社あるむ
頒価	900円（本体価格）

Reformed Church in Japan
Board of Education